

国立国語研究所学術情報リポジトリ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位規程集 Version 1.2

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小椋, 秀樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002837

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 短単位規程集 Version 1.2

小椋 秀樹

平成19年3月

大規模汎用日本語データベースの構築とその活用に関する調査研究

©2007 独立行政法人国立国語研究所

国立国語研究所内部報告書 (LR-CCG-06-01)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
短 単 位 規 程 集
Version 1.2

小 椋 秀 樹

平成 1 9 年 3 月

大規模汎用日本語データベースの構築とその活用に関する調査研究

© 2007 独立行政法人国立国語研究所

目 次

はじめに	1
第 1 章 現代日本語書き言葉均衡コーパスの言語単位の設計	3
第 1 語彙調査の調査単位	3
第 2 BCCWJの言語単位の設計方針	5
第 3 BCCWJの言語単位	5
第 2 章 最小単位	9
第 1 最小単位認定規程	9
第 2 最小単位の例	17
第 3 最小単位の分類	18
第 3 章 短単位	21
第 1 短単位認定規程	21
第 2 最小単位の結合の例	31
第 3 短単位の例	38
第 4 章 付加情報	39
第 1 付加情報の概要	39
第 2 品詞情報の概要	40
資料 1 名詞と接辞の判定基準 (1)	53
資料 2 名詞と接辞の判定基準 (2)	56
資料 3 動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準	60
資料 4 名詞・形状詞・副詞の判定基準	62

第5章	文節	63
第1	文節認定規程	63
第6章	要注意語	73
	「一が～」	73
	「一の～」	73
	助詞	96
	助動詞	104
	接頭的要素	110
	接尾的要素	112
	全体で1最小単位とするもの	127
参考文献		139

凡 例

1. 本規程集に示した例は、コーパスに現れた例又は作例である。
2. 文節・単位の境界を示すために次の記号を用いた。

文節の境界	………	例： 国立国語研究所の
短単位の境界	………	例： 国立 国語 研究 所 の
短単位の境界（当該規定で着目している箇所）	………	例： 国立 国語 研究 所 の
最小単位の境界	……… /	例：/ 国 / 立 / 国 / 語 / 研 / 究 / 所 / の /
3. 文節・単位について、分割しないことを特に示す必要があるときには、次の記号を用いた。

文節・単位のつなぎ目	……… -	例： 大-丈夫 です
文節・単位のつなぎ目（当該規定で着目している箇所）	……… =	例： パソ=コン を 使う
4. 着目している文節・単位が分かりにくい場合は、当該箇所に下線を付した。
5. ver. 1.1からver. 1.2への改定で修正した規則には「(◆ver. 1.2修正)」, 追加した規定には「(◆ver. 1.2追加)」と表示した。

はじめに

国立国語研究所は、明治時代から現代に至るまでの日本語の全体像を解明するため、大規模言語コーパスKOTONOAの構築を開始した。この構築計画では、まず2006年度から2010年度までの5か年計画で1976年から2005年までの30年間に出版された日本語の書き言葉を対象とする「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese 以下BCCWJとする。)を構築する¹。

BCCWJには、国語学・日本語学・情報工学をはじめとする幅広い分野での活用を目指して、様々な研究用の付加情報を与える。このうち形態論情報については、まず言語単位として、コーパスからの用例収集に適した「短単位」とBCCWJに格納したサンプルの言語的特徴の解明に適した「長単位」の2種類を採用した。この2種類の言語単位に基づいて、更に代表形・品詞等の情報を与える。

本冊子は、BCCWJで採用した長短2種類の単位のうち短単位の認定規定、短単位に対して付与する各種情報の付与基準等についてまとめたものである。

以下、第1章でBCCWJの言語単位の設計方針等について述べた後、第2章・第3章において短単位を具体的にどのように認定していくのかについて述べる。短単位に与える代表形・代表表記・品詞等の付加情報については第4章で述べる。また、短単位を認定する際に文節境界の有無が問題になることがある。そこで、第5章にBCCWJにおける文節の認定規定を示す。

なお、BCCWJの形態論情報に関する規定には、未整備の箇所がある。そうした箇所については、今後BCCWJの構築を進める中で、順次整備していく予定である。第2章以下を読むに当たっては、このことについて、あらかじめ了解されたい。

¹ KOTONOA計画の概要については前川喜久雄(2006)、BCCWJの設計については山崎誠(2007)を参照。

第1章 現代日本語書き言葉均衡コーパスの言語単位の設計

本章では、まず国立国語研究所がこれまでに行ってきた語彙調査における調査単位を概観し、続いてBCCWJの言語単位の設計方針、BCCWJで採用した言語単位について述べる。

第1 語彙調査の調査単位

国立国語研究所は、これまでに、マスメディアにおける書き言葉や話し言葉を中心に、合計10回の大規模な語彙調査を実施してきた。この語彙調査に当たっては、当然 語 というものを規定することが必要となる。しかし、語の定義については研究者によって様々な立場があるため、語彙調査において語（調査単位）をどのように規定するかということは常に大きな問題となる。

国立国語研究所がこれまでに行った語彙調査では、調査単位の設計に当たって、語とは何かという本質的な議論の上に立って調査単位を設計するという立場は取っていない。それぞれの語彙調査の目的に応じて最もふさわしい単位を設計するという方針の下に、一貫して操作主義的な立場を取ってきた²。そのため、表1.1に示すように、複数の調査単位が使われてきた³。

表1.1 国立国語研究所の語彙調査における主な調査単位

	単位の名称	語 彙 調 査 名
長い 単位 の 系 列	α単位	現代の語彙調査・婦人雑誌の用語
	W単位	高校教科書の語彙調査，中学校教科書の語彙調査
	長い単位	雑誌用語の変遷，テレビ放送の語彙調査
短い 単位 の 系 列	β単位	現代の語彙調査・総合雑誌の用語，現代雑誌九十種の用語用字，雑誌200万字言語調査
	M単位	高校教科書の語彙調査，中学校教科書の語彙調査

【調査単位の概略】

(1) 長い単位の系列：主として構文的な機能に着目して考えた単位。おおむね文節に相当する。

α 単 位 文節を基にした単位。「| 小学校 | 卒業 |」「| 男児用 | 外出着 |」のように長い語を分割する規定を設けている。

長い単位 文節に相当する単位。なお、「テレビ放送の語彙調査」の長い単位は、複合辞を助詞・助動詞として扱っていること、人名・地名のほか書名・

2 ここで言う「操作主義的な立場」とは、「これこれこういうものを「～単位」とする，という規定をするだけで，その「～単位」が言語学的にどのようなものなのか，単語なのか，単語でないとするれば，どこが単語とちがうのか，といった問題には，まったくふれない」（国立国語研究所1987:11）という単位設計上の立場を指す。

3 単位の概略・切り方の例については，林（1982:582-583），中野（1998:171-172）を基にした。

番組名・商品名なども固有名詞として扱っていることから、「雑誌用語の変遷」で採用した長い単位よりも長くなっている。

W 単位 非活用語及び活用語のうち終止・連体形、命令形、中止用法・修飾用法の連用形を1単位とする。また、それらに接続する付属語も1単位とする。

(2) 短い単位の系列：主として言語の形態的な側面に着目して考えた単位。

β 単位 原則として、現代語において意味を持つ最小の単位（最小単位）二つが、文節の範囲内で1次結合したものを1単位とする。

M 単位 β 単位と同様に最小単位を基にした単位。漢語は、 β 単位と同様に二つの最小単位が文節の範囲内で1次結合したものを1単位とするが、和語・外来語は1最小単位を1単位とする。

【調査単位の例】

(1) 長い単位の系列

α 単位： 型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

W 単位： 型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

長い単位（雑誌用語の変遷）：

型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

長い単位（テレビ放送の語彙調査）：

型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

その | 問題 | について | 検討 | している |

(2) 短い単位の系列

β 単位： 型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

M 単位： 型 | 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

調査単位の設計に当たって、操作主義的な立場を取ってきたのは、「必要以上に学術的な議論に深入りし、実際上の作業がすすまないことをおそれたため」（国立国語研究所1987:12）であり、「学者の数ほどもある「単語」の定義について、まず、意見を一致させてから、というのでは、見とおしがたたない。」（同:12）からである。

このような立場に対しては、当然のことながら「語というのは何なのか、調査のため便宜的に設けられた単位にすぎないのかという問題が残る。」（前田1985:740）という批判がある。確かに、語というものを定義しようとする以上、語とは何かという本質的な議論を積み重ねていくことは重要なことである。しかし、国立国語研究所（1987:12）に、「原則的にただしい定義に達したとしても、それが現実の単位きり作業に役立たないならば、無意味である。語い調査というのは、現象の処理なのだから。」と述べられているように、語彙調査においては対象とする言語資料に現れた個々の事象を、的確に処理するということが極めて重要なことである。このことから、これまでの語彙調査では、語とは何かという本質的な議論よりも、言語現象を的確に処理することを重視してきた。

このような立場を取って、各種の語彙調査を進めてきたことにより、「同じ資料の語彙調査を短単位と長単位との両方で行ってみてどのような違いが出てくるかを検討したことなどは、単位の区切り方を曖昧にしたまま「語彙調査」を行なうことに対する反省を促す」（前田1985:740）など、日本語の計量的な研究を進める上で先駆的な役割を果たしてきたと言える。国立国語研究所の語彙調査における調査単位の設計方針には批判もあるが、それにより現実の言語事象を的確に処理してきたことは、十分に意味があったと言える。

第2 BCCWJの言語単位的设计方針

BCCWJの言語単位的设计に当たっては、語彙調査における調査単位的设计と同様の立場を取った。つまり、まずBCCWJを日本語研究に利用するために、どのような言語単位が必要か整理し、その上で設計方針を立て、その方針に基づいて言語単位を設計したのである。

このような立場を取ったのは、語とは何かという本質的な議論の重要性はもちろん認めるところではあるが、コーパス構築という実務を考えた場合、BCCWJに現れる言語事象を的確に処理できる単位を設計することの方が、より重要であると考えたからである。このようにして大規模なコーパスを処理した結果をまとめておくことは、今後、言語単位論を進める上での基礎的な資料になると考えられる。

我々は、BCCWJの言語単位的设计方針として、次の三つを掲げた。

方針1：コーパスに基づく用例収集、各ジャンルの言語的特徴の解明に適した単位を設計する。

コーパスの日本語研究への活用としてまず考えられるのは、コーパスから用例を集めることである。そのため、BCCWJを日本語研究で幅広く利用できるようにするには、用例収集に適した単位を設計する必要がある。またBCCWJは、新聞・雑誌・書籍といった複数の媒体を対象としたコーパスであり、内容も政治・経済・自然科学・文芸等と多岐にわたっている。このようなBCCWJの構成から、媒体別・分野別の言語的な特徴を明らかにしていくことが重要な研究テーマになると考えられる。したがって、そのような分析に適した単位を設計することが必要になる。

方針2：「日本語話し言葉コーパス」と互換性のある形態論情報を設計する。

国立国語研究所が既に構築したコーパスとして、現代の話し言葉を対象とした「日本語話し言葉コーパス」(Corpus of Spontaneous Japanese 以下CSJとする。)がある。KOTONOHAの計画では、BCCWJ・CSJは、KOTONOHAを構成するコーパスの一つとして位置付けられている。そのため、BCCWJとCSJとを統一的に扱うことのできるような、互換性を持った単位を設計する必要がある。

方針3：国立国語研究所の語彙調査における知見を活用する。

国立国語研究所は、1949年の『語彙調査 一現代新聞用語の一例一』以来、合計10回の語彙調査を実施した。その中で、調査単位的设计や言語事象の処理に関して、様々な知見を蓄積している。そこで、BCCWJの言語単位的设计や単位認定の際に、これら語彙調査の知見を活用していく。語彙調査の結果は、日本語研究でも様々な活用されており、言語単位的设计等に語彙調査の知見を活用していくことは、BCCWJを使った日本語研究を進めていくためにも有用であると考えられる。

第3 BCCWJの言語単位

以上に述べた三つの方針の下、我々はBCCWJの言語単位を設計した。その際、三つの方針の中でも、特に方針1に沿って、具体的にどのような単位が必要かを検討した。

まず、コーパスから用例を収集するに当たっては、合成語を構成要素に分割したような短い単位が求められる。表1.1に示した語彙調査の調査単位で言えば、「短い単位の系列」に属する単位が望ましいということになる。しかし、構成要素に分割すると言っても、構成要素をすべて切り出してしまうような単位では、取り出した単位の意味が文脈から離

れずぎてしまうこともあり、結果的に不要な用例まで検索してしまうという問題が生じる。

例えば、「気持ち」という語は「気」と「持ち」の二つの要素に分割することができる。もしこのような単位でコーパスが解析されていると、動詞「持つ」を検索した際に、「荷物を持つ」などの「持つ」とともに、「気持ち」の「持ち」も検索結果として得られることになる。しかし、動詞「持つ」の分析を行う際に、「気持ち」の「持ち」まで検索結果に含まれるのは望ましいとはいえない。それは、実際の文脈の中では、動詞「持つ」として機能していないからである。したがって、コーパスから用例を収集し、分析することを考えた場合、構成要素にすべて分割してしまうような非常に短い単位では問題がある。

次に、各ジャンルの言語的特徴を解明するに当たっては、BCCWJに格納した各媒体・各分野の資料的な性格を反映するような単位であることが求められる。一般に単位を短くすればするほど、取り出した単位はいわゆる基本的な語となる。その反対に、より長い単位とすれば、当該資料の性格を反映する特徴語を取り出せるようになる。したがって、表1.1で言えば、「長い単位の系列」に属する単位が適当ということになる。

このことについて、CSJの人手解析済みデータ（約100万語）に出現した「言語」という語を例に、更に説明しておく。「言語」は、CSJに収録された幾つかの学会講演に用例が見られるが、その用いられ方 — 特にどのような語と結合するか — は、学会により差異が見られる。具体的に、音声関係の工学系学会（A学会）と日本語関係の人文系学会（B学会）での「言語」の例を比較する。

A学会・B学会ともに、「言語」が単独で用いられた例のほか、次のように合成語の語構成要素として用いられた例がある。

【A学会】 音声言語 音声言語概念 各言語 各言語モデル 各種言語モデル
確率的言語モデル 言語重み 言語音 言語音カテゴリー判断
言語音モード 言語音声 言語解析 言語学的 言語カテゴリー
言語間 言語形成期 言語圏 言語刺激 言語習得時 言語情報
言語情報処理 言語条件 言語スコア 言語制約 言語生活 言語的
言語的規則 言語的情報 言語伝達 言語特有 言語非依存
言語非言語刺激 言語モデル 第二言語学習者 聴覚運動性言語野
聴覚性言語野 聴覚的言語判断 統計的言語情報 特異性言語障害者
パラ言語情報 パラ言語的 パラ言語的意味 非言語 非言語音
非言語音モード 非言語刺激 非言語情報 文字言語 融合言語モデル

【B学会】 一言語体系 音声言語 音声言語重視 各言語 簡易言語
基本的言語単位 言語外 言語学 言語研究者 言語現象
言語作品 言語社会 言語習得 言語政策的 言語体系 言語的研究
言語内 言語表現 西洋言語学 第二言語習得 第二言語習得者
他言語 比較言語学

ここで注意したいのは、A学会で下線を付した語（「音声言語概念」「言語刺激」「言語モデル」など）はB学会には用いられておらず、B学会で下線を付した語（「一言語体系」「言語作品」「言語表現」など）はA学会には用いられていないということである。つまり「音声言語概念」「言語刺激」「言語モデル」などはA学会を特徴付ける語であり、「一言語体系」「言語作品」「言語表現」はB学会を特徴付ける語であると言える。このような各分野の特徴的な語を把握するためには、「言語モデル」を「言語」と「モデル」とに、「言語作品」を「言語」と「作品」とに分割するのではなく、全体で一つとして扱うような長い単位が必要となる。

以上の検討から分かるように、コーパスからの用例収集に適した言語単位と各ジャンルの言語的特徴の解明に適した言語単位とは必ずしも一致しない。そこで、BCCWJの言語単位には、用例収集・各ジャンルの言語的特徴の解明という二つの利用目的に応じて、次に示す2種類を採用することとした。

- (1) 用例収集を目的とした短単位
- (2) 言語的特徴の解明を目的とした長単位

この短単位・長単位は、いずれもCSJで採用した単位である⁴。また、短単位は国立国語研究所が行った現代雑誌九十種調査の β 単位⁵を、長単位はテレビ放送の語彙調査の長い単位⁶を基に設計したものである。このようにして、方針2に掲げたCSJとの互換性の保持と、方針3に掲げた国立国語研究所の持つ語彙調査の知見の活用とを図る。

4 CSJの短単位・長単位については、国立国語研究所(2006:133-186)を参照。

5 β 単位については、国立国語研究所(1962:6-14)を参照。

6 長い単位については、国立国語研究所(1995:49-63)を参照。

第2章 最小単位

第1 最小単位認定規程

最小単位は、現代語において意味を持つ最小の言語単位のことである。

最小単位は、和語・漢語・外来語・数・記号・人名・地名の各種類ごとに、以下の規定によって認定する。

和語・漢語・外来語の語種の認定は、原則として『新潮現代国語辞典』第2版（新潮社）による。ただし、ほかの辞書や先行研究等を参照して、個別に語種の認定を行うことがある。

1 和語

和語の最小単位は、以下の例のように認定する。

【例】 /母/親/ /青/白い/ /いい/加/減/な/
/本/箱/ /幾/人/ /オレンジ/色/
/わたし/で/も/できる/ /読み/終わり/まし/た/

1. 1 融合形は、元の形に戻さずに、融合している複数の最小単位全体で1最小単位とする。

【例】

「名詞・代名詞＋助詞」：

/その/ときや（あ）/（その時は） /わたしゃ/（わたしは）

「動詞＋助詞」：

/行きや（あ）/し/ない/（行きはしない）

/考えりや（あ）/（考えれば）

「形容詞＋助詞」：

/おもしろけりや/（おもしろければ） /おもしろきゃ/（おもしろければ）

/悪か/ない/（悪くはない）

その他：

/生き/てる/（生きている）

/生き/て/た/（生きていた）

/持っ/てく/（持っていく）

/持っ/てっ/た/（持っていった）

/置い/とく/（置いておく）

/置い/とい/た/（置いておいた）

/知っ/とる/（知っておる）

/知っ/とっ/た/（知っておった）

/行っ/ちまう/（行ってしまう）

/行っ/ちまっ/た/（行ってしまった）

/行っ/ちゃう/（行ってしまう）

/行っ/ちゃっ/た/（行ってしまった）

/っちゅう/の/は/（って言うのは）

/ってえ/と/（って言うのと）

1. 2 省略形は、元の形に戻さずに、可能な範囲で最小単位を認定する。その際、元の形との対応をできる限り取るよう留意する。

【例】

/や/ん/だ/っけ/（やるんだっけ）*1

/行っ/てる/ん/す/*2

※1 元の形「やるんだっけ」との対応をできる限り取るように、「や」を「やる」が省略された形、「ん」を元の形「やるんだっけ」の「ん（準体助詞「の」の撥音便）」と考えて、最小単位の認定を行う。

※2 元の形「行ってるんです」との対応をできる限り取るように、「す」を元の形「行ってるんです」の「です」と考えて、最小単位の認定を行う。

1. 3 現代語において分割することができない、若しくは分割することが適切でないと考えられるものは、分割せずに全体で1最小単位とする。*

【例】

／さらに／ ／あえて／ ／とりあえず／ ／あっけらかん／
／すったもんだ／ ／わがまま／

※ 第6章「要注意語」の「全体で1最小単位とするもの」に登録されたもの。

1. 4 次に挙げるものは、それだけで1最小単位とせずに前の要素に含める。

- (1) 形容詞語尾の「い」「く」「しい」など。

【例】 ／さむ=い／ ／ひろ=く／ ／うれ=しい／

- (2) いわゆる形容動詞の語幹末尾「か」「やか」「らか」。

【例】 ／しず=か／ ／かろ=やか／ ／ほが=らか／

- (3) 動詞の活用語尾。

【例】 ／おも=う／ ／ひろ=う／ ／わか=る／

- (4) いわゆる副詞語尾「と」。

【例】 ／ぐっ=と／ ／さっ=と／ ／ほっ=と／

※ 「AAと」のように「A」に当たる要素が重複されている場合は、「と」を1最小単位とする。(参照：規定1. 5 (5))

【例】 ／ぐら／ぐら／っと／ ／がぶ／がぶ／と／

- (5) 助数詞の「とり（たり）」。

【例】 ／ひ=とり／ ／ふ=たり／

- (6) 延言の「く」「らく」。

【例】 ／いわ=く／ ／おも=らく／ ／ねがわ=く／

- (7) コソアド類の各語末。

【例】 ／こ=れ／ ／こ=の／ ／こ=こ／ ／こち=ら／
 ／そ=れ／ ／そ=の／ ／そ=こ／ ／そち=ら／
 ／あ=れ／ ／あ=の／ ／あそ=こ／ ／あち=ら／
 ／ど=れ／ ／ど=の／ ／ど=こ／ ／どち=ら／
 ／だ=れ／
 ／いず=れ／

1. 5 次に挙げるものは、前又は後ろの要素にまとめずに助詞・助動詞と同様に単位を認定する。

- (1) 接続詞・接続助詞の構成要素となっている助詞・助動詞。

【例】 /だ/が/ /です/が/ /で/は/ /の/で/ /の/に/
/ところ/が/ /ところ/で/ /もの/の/

- (2) いわゆる形容動詞、いわゆる形容動詞活用型の助動詞の変化部分。

【例】

形容動詞 : /静か/だ/ /元気/だ/

形容動詞型活用の助動詞 : /そう/だ/ /よう/だ/

- (3) いわゆる副詞語尾「に」。

【例】 /実/際/に/ /非/常/に/

※ 第6章「全体で1最小単位とするもの」に登録されたもの以外の二型の副詞の語尾。

- (4) 動詞連用形+テから副詞に転じた語の接続助詞「て」。

【例】 /ふるっ/て/ /あわせ/て/

※ 第6章「全体で1最小単位とするもの」に登録されたもの以外のテ型の副詞の語尾。

- (5) いわゆる副詞語尾「と」のうち、「AAと」のように「A」に当たる要素が重複されているものに接続するもの。

【例】 /ぐら/ぐら/っと/ /がぶ/がぶ/と/

1. 6 擬音語・擬態語の繰り返しや、これに準ずるものは、各々を切り離す。

【例】 /どき/どき/ /ぴか/ぴか/ /もじ/もじ/
/ぷよ/ぷよ/ /ちら/ほら/
/がら/がら/と/

1. 7 それがないとき、1最小単位となるものの中に出てくるフィラーは無視する。

【例】 /ひ=えー=だり/ (左) /たち=いー=ばな/さん/ (橘)

1. 8 言いよどみは、1最小単位とする。

【例】 /わた/私/は/ /こ/ここ/から/

2 漢語

漢語(和製漢語を含む。)は、漢字1文字で表されるものを1最小単位とする。

【例】 /白/紙/ /安/価/ /含/有/量/ /数/百/

3 外来語

外来語・外国語は原語で1単語になるものを1最小単位とする。

英語起源の外来語の最小単位の認定は『リーダーズ英和辞典』第2版（研究社）による。それ以外の言語を起源とする外来語については適宜判断する。

【例】 /カラー/コピー/ /レーザー/プリンター/
/オレンジ/色/ /ビタミン/剤/

3. 1 英語起源の外来語について、原語で1語になるものの結合体が『リーダーズ英和辞典』第2版で1語として扱われている場合、その結合体を1最小単位とする。

【例】 /データー=ベース/ /ネット=ワーク/

※ 「データー (data)」「ベース (base)」「ネット (net)」「ワーク (work)」は、それぞれ原語で1語であるが、「データー」と「ベース」との結合体「データーベース」、「ネット」と「ワーク」との結合体「ネットワーク」が、それぞれ『リーダーズ英和辞典』第2版で1語とされている。このような場合、「データーベース」「ネットワーク」を1最小単位とする。

3. 2 外来語・外国語の1最小単位を略したものも1最小単位とする。

【例】 /塩/ビ/ /パソ/コン/ /インフレ/

3. 3 用言化した外来語の活用語尾は切り出さない。

【例】 /サボ=る/ /ハモ=る/

3. 4 外来語・外国語に漢字を当てたものも、外来語・外国語として扱う。

【例】 /菩薩/ /阿弥陀/ /倶楽部/ /背広/

3. 5 日本語としては分割不可能と考えられるもの及び二つの単語が融合して発音されたことによって分割不可能になったものは、全体で1最小単位とする。

【例】 /クーデター/ /スピーカーズ/ (“speakers of” の融合)

4 記号

記号は1文字に当たるものを1最小単位とする。

【例】 /表/A/ /図/B/ /U/ターン/ /N/グラム/

/●/メイン/フロア/は/なん/と/_/二/千/四/百/名/もの/収
/容/力/_/
/元/駐/日/アメリカ/大/使/ジョセフ/_/クラーク/_/グルー/
(/千/八/百/八/十//千/九/百/六/十/五/年/_)/は/_/
/L. A. /で/人気/の/組み/合わせ/は/_/これ/_!
/岡野/あつこ/さん/の/場/合/_/

4. 1 ローマ字を並べた略称は全体で1最小単位とする。ローマ字の間の中点・ピリオド

ド等は1最小単位としない。

【例】 /OHP/ /OS/ /MVP/

5 数

数字は、1文字に当たるものを1最小単位とする。

【例】 /一/億/語/ /七/百/五/十/万/語/

6 人名・地名

人名・地名は、次の規定により最小単位を認定する。

6. 1 人 名

人名は、姓を1最小単位、名を1最小単位とする。

【例】 /星野/仙一/ /ジェフ/・/ウィリアムス/ /林/威助/

通称・雅号・しこ名（その略称も含む。）等は、次のように最小単位を認定する。

【例】 /千代大海/ /十返舎/一九/ /笑福亭/仁鶴/

6. 1. 1 姓と名との間にある読み添えの「の」が本文に表記されている場合は、助詞として扱い、1最小単位とする。

【例】 /藤原/の/道長/ /源/の/頼朝/

※ 本文に表記されていない場合は、規定6. 1を適用する。

【例】 /源/頼朝/

6. 1. 2 姓又は名を略したものは、1最小単位とする。（略記されたものにも規定6. 1を適用する。）

【例】 /仙/ちゃん/ /マ/元/帥/ /おざ/けん/ /橋/龍/

/ブーテフリカ/大/統/領/（/以/下/「/ヅ/大/統/領/」/と/いう/）/も/

6. 1. 3 人名の一部又は全部をローマ字で略記したものは、記号の最小単位として扱い、人名としては扱わない。

【例】 /P/・/J/・/ブラウン/と/ジュワン/・/ハワード/だ/。/
/東京/・/Y/・/N/

6. 1. 4 複数の人物の名それぞれを略した要素が結合体を構成する場合、その各要素は和語・漢語・外来語の最小単位として扱い、人名としては扱わない。

【例】 /若/貴/兄/弟/ /柏/鵬/時/代/ /鳩/菅/体/制/
/角/福/戦/争/ /三/角/大/福/中/

6. 2 地名

行政区画を表す地名は「都・府・県・郡・市・区・町・村・字」を除いた部分をそれぞれ1最小単位とする。

市区内の小区分の「～町」は「～町」を含めて1最小単位とする。

【例】 /東京/都/北/区/西が丘/三/丁/目/九/番/十/四/号/
/大阪/府/豊中/市/待兼山町/
/千代田/区/大手町/
/さいたま/新/都/心/駅/ /茨木/市/駅/

「北海道」は全体で1最小単位とする。

【例】 /北海道/夕張/郡/長沼/町/
/明日/の/北海道/の/天気/

6. 2. 1 京都の地名のうち、通りの名称の部分には規定6. 2. 6を適用する。

【例】 /京都/市/上京/区/今出川/通/烏丸/東/入/

6. 2. 2 地名の略称は、全体を1最小単位とする。

【例】 /ちとから/ (千歳烏山) /天六/ (天神橋筋六丁目)

6. 2. 3 外国の国名や行政区画名などにも規定6. 2～6. 2. 2を適用する。

【例】 /アメリカ/合/衆/国/ /ロシア/共/和/国/
/南アフリカ/共/和/国/
/カリフォルニア/州/ /広東/省/ /メキシコ/シティー/
/ミズーリ/ステート/

6. 2. 4 地名は、類概念を表す部分及び「東・西・南・北・新」などを除いた部分を1最小単位とする。

【例】 /中国/地/方/ /九州/地/方/ /四国/地/方/
/多摩/ /但馬/ /摂津/ /近江/ /紀州/
/山陽/本/線/ /J R/京都/線/
/東/ヨーロッパ/

北海道及び七道は、類概念を表す部分も含めて1最小単位とする。

/北海=道/ /東海=道/ /東山=道/ /北陸=道/
/山陰=道/ /山陽=道/ /南海=道/ /西海=道/

6. 2. 5 地形名は、類概念を表す部分を除いた部分を1最小単位とする。

【例】 /生駒/山/ /昭和/新/山/ /サロマ/湖/

6. 2. 6 場所名については、名を表す部分と類概念を表す部分とに分割した後、両方の部分に最小単位の認定規定を適用する。

【例】 /山/手/通り/ /新/御/堂/筋/
/さいたま/新/都/心/駅/ /茨木/市/駅/

／山陽／本／線／ ／大／江戸／線／

6. 2. 7 地名を略した漢字1字の「日」「米」などについては、漢語の最小単位として扱い、地名としては扱わない。

【例】 ／日／米／ ／日／米／韓／ ／米／国／
 ／日／韓／漁／業／協／定／
 ／京／阪／ ／播／但／
 ／阪／奈／自／動／車／道／ ／甲／州／街／道／
 ／磐／越／西／線／

6. 2. 8 片仮名表記する外国地名を略したもので、地名を略した1字漢語（「日」「米」など）に相当する片仮名1文字の「ロ」（ロシアの略）などは、外来語・外国語の最小単位として扱う。

【例】 ／訪／ロ／

6. 2. 9 地名をローマ字で略記したものは、記号の最小単位として扱う。

【例】 ／NY／ ／L. A.／

※ 「NY」「L. A.」は、規定4. 1によって1最小単位となる。

補則 地名

地名のうち、最小単位の認定に当たり判断に迷う例について、その認定方法を示す。

(1) 地形名（下線部は地名に当たる最小単位）

／瀬戸／内／ ／瀬戸／内／海／ ／プリンスエドワード／島／
／浄土が浜／ ／大瀬崎／ ／耶馬／溪／
／奥穂高／岳／ ／大菩薩／峠／ ／鬼押出／

(2) 場所名（駅名以外）（下線部は地名に当たる最小単位）

／岡田／山／古／墳／ ／加茂／岩倉／遺／跡／ ／荒神／谷／遺／跡／
／妻木晩田／遺跡／ ／吉野が里／遺跡／ ／田和／山／遺跡／
／区／役／所／通り／ ／富士見／坂／ ／武田／山／トンネル／
／八方／尾根／スキー／場／

(3) 駅名

① 行政区画名と一致する駅名

／東中野／ ／西日暮里／

② 二つの地名から成る駅名

／祖師ヶ谷／大蔵／ ／多摩／境／ ／武蔵／境／
／武蔵／小山／ ／武蔵／小杉／ ／川西／池田／

③ その他

／表／参道／ ／二子／玉川／ ／半蔵／門／

第2 最小単位の例

/グルー/文/書/

元/駐/日/アメリカ/大使/ジョセフ/・/クラーク/・/グルー/ (千/八/百/八/十/一/千/九/百/六/十/五/年/) /は/、/歴/代/の/駐/日/大使/の/なか/で/も/ひとときわ/生/彩/を/はなつ/、/アメリカ/の/代/表/的/な/職/業/外/交/官/で/あつ/た/。/

彼/は/千/九/百/三/十/二/年/から/四/十/二/年/まで/の/約/十/年/間/を/日本/で/過/し/、/日/米/関/係/の/調/整/に/数/多/く/の/足/跡/を/のこし/た/。/

来/日/以/来/、/グルー/は/満州/事/変/後/の/日本/軍/部/の/台/頭/を/つぶさ/に/観/察/する/と/とも/に/、/日本/の/国/際/連/盟/脱/退/ (三/十/三/年/三/月/) /、/日/中/戦/争/勃/発/ (三/十/七/年/七/月/) /、/日/独/伊/三/国/軍/事/同/盟/ (四/十/年/九/月/) /、/対/日/経/済/制/裁/ (四/十/一/年/七/月/) /、/真/珠/湾/奇/襲/攻/撃/ (四/十/一/年/十/二/月/) /など/、/日/米/関/係/に/決/定/的/な/転/機/を/もたらし/た/重/大/な/歴/史/的/事/件/の/ことごとく/を/直/接/に/体/験/し/た/。/

グルー/の/主/著/は/、/この/十/年/に/およぶ/彼/の/滞/日/経/験/を/まとめ/た/もの/で/あり/、/千/九/百/四/十/四/年/五/月/に/公/刊/さ/れる/と/、/アメリカ/国/民/の/あいだ/に/大/き/な/反/響/を/よび/おこし/た/。/

/ /最/後/に/雑/誌/「/エンターテインメント/・/ウィークリー/」/に/載/つ/た/映/画/評/を/紹/介/し/よう/。/

/「/UPSIDE//It/ /could/ /be/ /a/ /Best/ /Foreign/ /Language/ /Film/ /contender/ /at/ /next/ /year's/ /Oscars/. / (来/年/の/アカデミー/賞/で/最/優/秀/外/国/語/映/画/賞/を/獲/得/す/可/能/性/が/ある/) /DOW-NSIDE//Subtitles/ (字/幕/付/き/) /」/ (追/記//さて/六/月/二/十/七/日/公/開/予/定/が/、/あ/と/一/週/間/と/迫/つ/た/と/こ/ろ/で/突/然/七/月/十/一/日/に/延/期/。/

その/理/由/は/、/マーケティング/の/結/果/だ/そう/だ/) /

/タマ/チャリ/と/は/比/較/に/な/ら/ない/機/動/性/と/耐/久/性/を/装/備/

米/軍/の/「/ハマー/」/の/名/が/冠/せ/られ/た/自/転/車/に/乗/ろ/う/

ハマー/折り/たたみ/マウンテン/バイク/

/中国/や/タイ/ほ/ど/で/は/な/い/が/、/日本/も/世/界/屈/指/の/自/転/車/大/国/。/通/勤/通/学/、/また/は/日/常/の/足/と/し/て/自/転/車/を/利/用/し/て/い/る/人/は/多/い/こ/と/だ/ろ/う/。/そ/こ/で/、/ち/ょ/っ/と/他/人/と/差/を/付/け/たい/な/ら/、/こ/ん/な/自/転/車/に/乗/っ/て/は/い/か/が/だ/ろ/う/か/?/

/DBS/ /JAPAN/から/販/売/さ/れ/て/い/る/「/ハマー/折り/たたみ/マウンテン/バイク/」/は/、/米/軍/の/軍/用/車/・/ハマー/で/有/名/な/アメリカ/GM/社/製/の/自/転/車/。/自/転/車/と/は/い/っ/て/も/、/ハマー/の/名/前/は/ダテ/で/は/な/く/、/高/い/機/動/性/と/耐/久/性/を/兼/ね/備/え/た/1/台/に/な/っ/て/い/る/。/

第3 最小単位の分類

短単位を認定するために、最小単位を以下のように分類する。

表2.1 最小単位の分類

分 類	例
一 般	和 語 : 山 川 白 い 話 す 言 葉 …
	漢 語 : 社 会 用 研 究 所 …
	外来語 : オレンジ ボックス アルゴリズム …
付 属 要 素	接頭的要素（第6章「要注意語」の「接頭的要素」に掲げたもの。） : 相 御 各 御 …
	接尾的要素（第6章「要注意語」の「接尾的要素」に掲げたもの。） : 合 う 致 す っ ぽ い 性 的 …
記 号	A B ω イ ロ ア NHK JR …
数	一 二 十 百 千 … 幾 数 何
固 有 名	人 名 : 星 野 仙 一 ジェフ ウィリアムス 橋 龍 …
	地 名 : 大 阪 待 兼 山 町 六 甲 天 六 …
助 詞 ・ 助 動 詞	う た で す ま す か か ら て も …

- 1 音や文字・語の断片*を指示したものについては、「記号」に分類する。

【例】 |ヒ|と|シ|の|発音| |片仮名|の|ヨ|
|不仲|に|なる|と|いう|時|の|丕|を|用い|て|

※ ここで言う語の断片とは、次に挙げるものである。

- 漢語は1短単位未満のもの。
- 和語・外来語は1最小単位未満のもの。ただし活用語の語幹は除く。

- 2 ヒトリ（一人）・フタリ（二人）は、「一般」に分類する。

- 3 「幾」「数」「何」が「幾人」「数百」「何個」のように不定の数を表す場合は、「数」に分類する。

- 4 数詞のうち数え進むことのできないものは、「一般」に分類する。数え進むことができないとするものの例を次に示す。

【例】 一応 一家 一見 一心 一新 一定 一端 一変 一味 一命 一様
一利
一足違い
ひときわ ひとしお ひとしきり ひとまず
二枚目 ふたご
三角 三振 御三家 みつどもえ
四角 四季 四球 四捨（五入） 四天王
五臓 五輪
六腑
七転 七面鳥
（口）八丁 八倒 八起き
十字架 十文字
十八番
百科 百害 百姓 （日本）百景
千載
万一 万国 万物

※ 以上のほか、学年を表す「小六」「中二」「高三」なども数え進むことのできないものとして扱う。

第3章 短単位

第1 短単位認定規程

短単位は、文節（第5章「第1 文節認定規程」によって規定されるもの。）の中で、最小単位が、以下の規定に基づいて結合した（又は結合しない（これは0回結合と考える））結合体である。

【文節と短単位との関係】

文 節： グルー の | 主 著 は |、| この | 十 年 に | およぶ | 彼 の |

短単位： グルー | の | 主 著 | は |、| この | 十 | 年 | に | およぶ | 彼 | の |

滞 日 経 験 を | ま と め た | も の で あ り |、| 千 九 百 四 十 四 年
滞 日 | 経 験 | を | ま と め た | も の | で | あ り |、| 千 | 九 百 | 四 十 | 四 | 年 |

五 月 に | 公 刊 さ れ る と |、| ア メ リ カ 国 民 の | あ い だ に |
五 | 月 | に | 公 刊 | さ れ る と |、| ア メ リ カ | 国 民 | の | あ い だ | に |

大 き な | 反 響 を | よ び お こ し た |。 |

大 き な | 反 響 | を | よ び お こ し た |。 |

短単位の認定に関する規定は、第2章「第3 最小単位の分類」で分類した種類ごとに適用すべき規定が定められている。以下に、それを示す。

1 一般

原則として、「一般」に分類した和語・漢語の最小単位2個の1次結合は1短単位とする。

【例】 | 母=親 | | 書き=言葉 | | 食べ=歩く | | 音=声 |
| 無=口 |

言 い	方	が	ま		多 分		文 法		的	に	は			
	部 分		で		法 案		を		整 え 直 す		こ と	に	な る	
い わ ゆ る		ガ イ ド ラ イ ン		関 連		法	案	に						
	対 応		方 針		な ど	に		対 し		ま す		国 会		の
	ぐ る ぐ る		回 る											
	ぐ る ぐ る		っ と	回 る			ぐ る ぐ る		ぐ る ぐ る		っ と	回 る		

「一般」に分類した外来語の最小単位のうち省略されたものは、和語・漢語の最小単位と同様に扱う。

【例】 | パソ=コン | | オートマ=車 | | 塩=ビ |

1. 1 以下に挙げるものは、3 最小単位以上の結合であっても全体で1 短単位とする。

(1) 三つ以上の最小単位から成る組織名等の略称。

【例】 | 日=経=連 | | 奈=文=研 | | 統=数=研 |

※ ここでいう略称とは、組織名を構成する短単位すべて又はその一部を略して結合させたもののことである。したがって、以下のような構成要素の一部(「国語」「党」)が略されていないものは、略称とはしない。

【例】 | 国立 | 国語 | 研究所 | → | 国語 | 研 |
| 自由 | 民主 | 党 | → | 自民 | 党 |

(2) 切る位置が明確でないもの、あるいは切った場合と一まとめにした場合とで意味にずれがあるもの。

【例】 | 大統領 | | 不可解 | | 明後日 | | 殺風景 |
輸出入		国内外		町村長		原水爆		市町村長
大袈裟		大雑把		大丈夫		一辺倒		
十文字		二枚目		十八番				

ただし、二つ以上の漢語の最小単位が並列して、1 短単位と結合している場合は、次のように短単位を認定する。

【例】 | 中 | 小 | 企業 | | 小 | 中 | 学校 | | 都 | 道 | 府 | 県 | 知事 |

(3) 第6 章「要注意語」の「一の～」 「一が～」に挙げたもの。

【例】

「一の～」 : | 日=の=丸 | | 床=の=間 | | 竹=の=子 |
「一が～」 : | 君=が=代 |

1. 2 以下に挙げるものは、1 最小単位を1 短単位とする。

(1) 外来語・外国語の最小単位。

【例】 | オレンジ | 色 | | インサーション | ペナルティー |
スペクトル	パラメーター							
アウト	オブ	ドメイン		ショアーズ	アット	ワイコロア		
基本	レフト	トゥー	ライト	構造		コール	フォー	ペーパー

ただし、省略された外来語の最小単位との1 次結合体は1 短単位とする。

【例】 | エア=コン | | マス=コミ | | デフレ=スパイラル |

(2) 最小単位が三つ以上並列した場合の、それぞれの最小単位。

【例】 | 衣 || 食 || 住 | | 松 || 竹 || 梅 | | 都 || 道 || 府 || 県 |

(3) 名を表す部分と類概念を表す部分とが結合してできた固有名のうち、名を表す部分・類概念を表す部分が共に1 最小単位である場合の、それぞれの最小単位。

【例】 | さくら || 屋 | | のぞみ || 号 | | くない || 会 |

ただし、名を表わす部分が1 字の漢語である場合は、その1 次結合体を1 短単位とする。

【例】 | 阪=大 | | 仏=教 | | 儒=教 |

(4) 言いよどみ。

【例】 | 三 | ここ | から | | 最 | 、 | 最初 | の |

(5) 規定1, 1. 1, 1. 2の(1)～(4)によって得られた短単位に、前又は後ろから結合した最小単位。

【例】 | 内閣 || 府 || | 副 || 大統領 | | 橋本 || 元 || 首相 |
| 光 | ファイバー || 網 || | 自衛 || 隊 || | 国立 | 国語 | 研究 || 所 ||

(6) 単独で文節を構成する最小単位。

【例】 | やっぱり | これ | も | ー | つ | の | | オレンジ | を | 食べる | 。 |
| えーと | 、 | こちら | の | 場合 | でし | たら | … | … |

2 記号

記号は、1最小単位を1短単位とする。

【例】 | 表 | A | | 図 | B | | J R | | N T T | | L . A . |

| E || が | 形態 | 素 | 情報 || F || が | 分節 | 音 | の | ラベル |
| 今回 | も || N T T || データベース | を | 用い | て |

2. 1 それがないときに、1短単位となるものの中にある記号は、無視する。

【例】 | しゅ = ・ = < = ・ = だ = ・ = い |
| 四百 | 十 | 五 | 条 | 以下 | に | 規程 | が | あ = ⌒ = る | 。 |
| 都心 | から | ー | 時間 | 半 | どころ | か | 、 | 三 = ⌒ = 四十 | 分 | 、 |

3 数

「数」は、以下の規定によって単位認定する。

3. 1 数は、ほかの最小単位と結合させない。

【例】 | 四 || 月 | の || 三十 || 日 | ぐらい |
私	が		一 二		年	前	まで	住	ん	で	い	た	
コーパス	全体	で		七百	五十	二	万		語				
	四十	八		キロヘルツ	サンプルング		十	六		ビット	な	ん	です

3. 2 数の間どうしの結合については、一・十・百・千のけたごとに1短単位とする。「万」「億」「兆」などの最小単位は、それだけで1短単位とする。小数部分は、1最小単位を1短単位とする。

【例】 | 千 || 九百 || 四十 || 二 | 年 | 十 | 月 | 二十 || 五 | 日 | 、 |
現在	は	二千		八百		五		円	で	売ら	れ	て	いる
毎年	何十		億		円	も	の	都民	の	税金	を		
都心	から	ー	時間	半	どころ	か	、	三 - 、 - 四十	分	、			
平成	六	年度	の	タクシー	代	の	総額	が	二十		四 - 、 - 五	*	
億 | 円 | に | も | なる | が | 、 |

※ 「四、五」を結合させるのは概数の場合に限る。並列の場合は結合させない。

【例】 | 妨害 | 刺激 | の | 数 | は | 一 || 二 || 四 || 六 | の | 四 | 通り | と | し | て |
おり | ます |

4 固有名

固有名（人名・地名）は、1 最小単位を1 短単位とする。

【例】

〔人 名〕 | 星野 | 仙一 | | ジェフ | ・ | ウィリアムス | | 林 | 威助 |
| 伊藤 | 忠 | | 千代大海 | | 十返舎 | 一丸 |
| おざけん |

〔国 名〕 | アメリカ | 合衆 | 国 | | ロシア | 共和 | 国 |
| 南アフリカ | 共和 | 国 |

〔行政区画名〕 | 東京 | 都 | 立川 | 市 | 緑町 | 十 | 番 | 二 | 号 |
| 京都 | 市 | 上京 | 区 | 今出川 | 通 | 烏丸 | 東入る |

〔地域名〕 | 中国 | 地方 | | 九州 | 地方 | | 四国 | 地方 |
北海道	地方			
東海道		山陰道		
東	ヨーロッパ		南	アメリカ

〔地形名〕 | 生駒 | 山 | | 昭和 | 新山 | | サロマ | 湖 |

〔場所名〕 | 茨木 | 市 | 駅 | | さいたま | 新 | 都心 | 駅 |
| 山陽 | 本線 | | 大 | 江戸 | 線 |
| 東海道 | | 中山道 |

〔略 称〕 | ちとから | | 天六 |

4. 1 地名を略した一字漢語の「日」「米」、それに相当する片仮名の「ロ」（「ロシア」の略）などは、「一般」の最小単位に分類されるので、規定1～1. 2によって短単位認定する。

【例】 | 米国 | | 来日 | | 日ロ | | 日 | 米 | 韓 |
| 日米 | 安全 | 保障 | 条約 |
| 京阪 | 地方 | | 阪奈 | 自動 | 車 | 道 |

5 付属要素

付属要素は1 最小単位を1 短単位とする。

【例】 | お || 母 || さん | | 見 || にくい |

5. 1 付属要素に分類した動詞性接尾辞は、居体言の構成要素となっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】 | これ | も | 使い || 過ぎ || の | 誤り | と | いう | こと | に | なり | ます |

5. 2 付属要素に分類した動詞性接尾辞は、可能動詞形になっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】 |で|それ|は|食べ||切れ||なく|て|三|人|で|行っ|た|ん|です|
|けど|

6 助詞・助動詞

助詞・助動詞は1 最小単位を1 短単位とする。

【例】 |統一|的||な||視点||で||切り||ましよ||う||
|それ||に||つい||て||もっとも|示唆||に||富む||の||は||

6. 1 助動詞として扱っている補助動詞縮約形は、可能動詞形になっている場合も助動詞として扱う。

【例】 |結局|(F あのー)|ほっ||とけ||ない|って|いう|ところ|で|
|もう|ちょっと|調子|悪く|て|連れ||てけ||ない|と|<C>|いう|
こと|で|

6. 2 第6章「要注意語」の「一の～」「一が～」にあげられたもののの中の助詞「の」「が」は、助詞として扱わない。

【例】

「一の～」 : |日の丸| |床の間| |竹の子|
「一が～」 : |君が代|

補則 1 固有名詞

一般に固有名詞とされるものに関する短単位認定の例を以下に示す。

(1) 人名等

| 水戸 | 黄門 | | 孫 | 悟空 |

(2) 組織等

| マツモト | キヨシ | | 男闘呼 | 組 |
| グリーン | ガーデン | ハウス | | 万九千 | 神社 |

(3) 駅名

東中野 駅	西日暮里 駅	駒沢 大学 前 駅
栗駒 高原 駅	新 高島平 駅	新 三河島 駅
新 大久保 駅	西 八王子 駅	青山 一 丁目 駅
外苑 前 駅	半蔵 門 駅	営団 赤塚 駅
京成 上野 駅	祖師ヶ谷 大蔵 駅	武蔵 境 駅
武蔵 小山 駅	代々木 上原 駅	千歳 烏山 駅
表 参道 駅	二子 玉川 駅	

(4) 路線名

| 新 | 玉川 | 線 | | 磐越 | 西線 |

(5) 地形名

伊良湖 岬	大瀬崎	プリンセスエドワード 島
浄土が浜	瀬戸 内	瀬戸 内海
耶馬 溪	大菩薩 峠	奥穂高 岳
鬼押出		

※ 地形名と同じ行政区画名については、それが行政区画名として用いられていることが明確であれば分割しない。

| 大分 | 県 | 下毛 | 郡 | 耶馬溪 | 町 |

(6) 場所名等

北の丸 公園	岡田 山 古墳	加茂 岩倉 遺跡
吉野が里 遺跡	荒神 谷 遺跡	田和山 遺跡
妻木晩田 遺跡		
富士見 坂	区 役所 通り	武田 山 トンネル
八方 尾根 スキー場		

※ 場所名と同じ行政区画名については、それが行政区画名として用いられていることが明確であれば分割しない。

| 東京都 | 千代田 | 区 | 北の丸公園 |

(◆ver. 1.2追加)

補則2 動詞「―(サ)ス」「―(サ)セル」

原則1 「―(サ)ス」という形の動詞は、語末「ス」「サス」を助動詞として分割しない。

【例】 | 言わ=す | | 書か=す | | 食べ=さす | | 受け=さす |

原則2 五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」、五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」に分析可能なものは、語末「セル」「サセル」を助動詞として分割する。

【例】 | 書か || セル | | 食べ || させる |

※ 動詞が「―(サ)セル [-(s)ase-ru]」によって派生し下一段に活用するもの。

細則1 サ変動詞には、短単位認定規程の規定5の適用を優先する。

【例】 | 彷彿 | さ || セル | | 練習 | さ || セ | かける |

細則2 五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」、五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」と分析できないものは、語末の「(サ)セル」を分割しない。

【例】 | 見=セル | *¹ | 着=セル | *¹ | 乗=セル | *² | 寄=セル | *²

※1 「見る」「着る」は上一段動詞であるため、使役の助動詞としては「サセル」が接続し、「見させる」「着させる」となる。したがって、語末の「セル」を助動詞として切り出すのは、助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。

[参照] | 見 || させる | | 着 || させる |

※2 関係の認められる「乗る」「寄る」は五段動詞であるが、使役の助動詞「セル」は五段動詞の未然形接続であるので、語末の「セル」を助動詞として切り出すのは、助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。

[参照] | 乗ら || セル | | 寄ら || セル |

細則3 元の動詞が文語動詞であるもの、口語動詞であっても、現代語ではほとんど使われないものについては、語末の「(サ)セル」を分割しない。

【例】 | くゆら=セル | | 遅ら=セル | | そばだた=セル |

※ 元の動詞は、以下のとおり。

くゆらせる	→	くゆる (ラ行四段)
遅らせる	→	遅る (ラ行下二段)
そばだたせる	→	そばだつ (タ行五段)

細則4 「―(サ)セル」という形の複合動詞（連用形が名詞化したものも含む。）については、語末の「(サ)セル」を分割しない。

【例】 | 居合わ=セル | | 問い合わ=セル | | 言い聞か=セル |
| 問い合わ=セ | 中 | | 言い聞か=セ | 続ける |

※ 元の動詞が現代語に存在しないものや、存在したとしても元の動詞と「一（サ）セル」形との間で意味にずれが認められるものが多いことから、一律に語末の「（サ）セル」を助動詞として切り出さないこととした。

居合わせる	→	*居合う
問い合わせる	→	*問い合う
言い聞かせる	→	*言い聞く

細則 5 「一（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が、1 最小単位と結合して複合語を構成している場合、動詞の語末「（サ）セル」は分割しない。

【例】 | 合わ=せ=持つ | | 合わ=せ=考える |
| 食わ=せ=物 | | 人騒が=せ |

ただし、「一（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が付属要素と結合する場合、短単位認定規程の規定 5 によって、付属要素を分割した上で、動詞に当たる部分に本補則の原則 2 を適用する。

【例】 | 思わ || せ || 振り | | 合わ || せ || にくい |

（◆ver. 1.2 追加）

補則 3 可能動詞

（1）可能動詞は、元になった五段活用動詞と同様に最小単位・短単位を認定する。

【例】 | 読める | | 行ける | | 離せる |
| 切り離せる | | 話し合える |

（2）ら抜き言葉は語末の「れる」を切り出さない。

【例】 | 着=れる | | 来=れる | | 食べ=れる |
| 見=れる | | 透かし見=れる | | こじ開け=れる |

※ CSJの短単位では、「見 | れる」「来 | れる」のように、語末の「れる」を助動詞「れる」として切り出していたが、BCCWJでは、上記のように切り出さないこととした。

（◆ver. 1.2 追加）

補則 4 文節との関係

1 最小単位の体言と 1 最小単位の用言とが接続した場合に、1 短単位として結合させるか否かの判断基準を補則 4 の 1，補則 4 の 2 として示す。なお、以下の補則によって 1 短単位としないとされた体言＋用言の形式については、体言と用言との間に文節の切れ目があると考えられる。

【例】 | 茜 || さす | | 頼り || ない | | 違い || ない |

（◆ver. 1.2 追加）

補則 4 の 1 体言＋動詞

2 最小単位から成る動詞のうち、体言＋動詞という形式のものについては、以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則 『岩波国語辞典』第6版(岩波書店),『国語大辞典』(小学館)のいずれか一方で見出し語になっているものは1短単位とする。

【例】 | 苔=むす | | 心=ゆく | | 夢=見る |

細則1 『岩波国語辞典』第6版と『国語大辞典』の両方で連語とされているもの、又は一方の辞典にしか立項されておらず、なおかつその辞典で「連語」とされているものは、体言の後ろで分割し、2短単位とする。子見出しとして掲出されている場合も同様とする。

【例】 | 茜 || さす |

細則2 複合語の先頭又は中間に位置する体言+動詞(連用形)については、原則・細則1を適用せず、1短単位とする。

【例】 | 波=打ち | 際 | | 菜=切り | 包丁 | | 血=吸い | コウモリ |

※ 体言+動詞の品詞については、以下のように判定する。

①『岩波国語辞典』第6版(岩波書店),『国語大辞典』(小学館)のいずれか一方で見出し語になっているものは、第4章「付加情報」の資料3に基づいて動詞か名詞かを判定する。

【例】 波打ち(際) …… 動詞

②『岩波国語辞典』第6版,『国語大辞典』のいずれにおいても動詞として立項されていないもの、両方に立項されているが、「連語」とされているもの、又は一方の辞典にしか立項されておらず、なおかつその辞典で「連語」とされているものは、名詞とする。

【例】 菜切り(包丁), 血吸い(コウモリ) …… 名詞

(◆ver.1.2追加)

補則4の2 体言+形容詞

2最小単位から成る形容詞のうち、体言+形容詞という形式のものについては、以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則 『岩波国語辞典』第6版(岩波書店),『国語大辞典』(小学館)のいずれか一方で見出し語になっているものは1短単位とする。

(1) 体言+「ナイ(無)」

※ 『岩波国語辞典』第6版,『国語大辞典』のいずれかで見出し語になっているものを次に挙げる。1短単位とする「体言+「ナイ(無)」」は、原則として次に挙げるものとする。

あえない(敢え無い)	あじきない(味気無い)	あじけない(味気無い)
あじない(味無い)	あやない(文無い)	いろない(色無い)
いわれない(謂われ無い)	うつつない(現無い)	おしみない(惜しみ無い)
おぼつかない(覚束無い)	おやげない(親気無い)	おやみない(小止み無い)
およびない(及び無い)	かいない(甲斐無い)	かぎりない(限り無い)

かくれない（隠れ無い） きわまりない（極まり無い） ころない（心無い）
 ころもとない（心許無い） ごさない（御座無い） さだめない（定め無い）
 ざんない（慙無い） しおない（潮無い） しだらない（しだら無い）
 じつない（術無い） じゅつない（術無い） すぎない（素気無い）
 すじない（筋無い） ずつない（術無い） ずない（図無い）
 すべない（術無い） せんない（詮無い） そっけない（素っ気無い）
 たあいがない（たあい無い） だいもない（大も無い） たゆみない（弛み無い）
 だらしない（だらし無い） たわいがない（たわい無い） ちからない（力無い）
 つきもない（付きも無い） つつがない（恙無い） ならびない（並び無い）
 にげない（似気無い） にべない（鰐膠無い） はかない（儂い）
 へんない（篇無い） ほどない（程無い） みつともない（みつともない）
 やごとない（止事無い） やんごとない（止ん事無い）
 ゆるぎない（揺るぎ無い） よしない（由無い） らちない（埒無い）

（2）体言＋「ナイ（甚）」

※ 以下に挙げたのは、飽くまで語例である。「1 最小単位＋ナシ（甚）」という語構成のナシ（甚）型形容詞は、以下の語と同様に 1 短単位とする。

あたじけない あどけない あらけない（荒気無い）
 いたいけない（幼気無い） いわけない ぎごちない しどけない
 せつない（切ない） せわしない（忙しない） はしたない むげない

（3）上記以外の体言＋形容詞

語例略

細則 1 『岩波国語辞典』第 6 版と『国語大辞典』の両方で連語とされているもの、又は一方の辞典にしか立項されておらず、なおかつその辞典で「連語」とされているものは、体言の後ろで分割し、2 短単位とする。子見出しとして掲出されている場合も同様とする。

【例】 | 頼り || ない | | 違い || ない | | 訳 || ない |

関連事項 「付属要素一覧」に掲げていない接頭辞又は語素と 1 最小単位の形容詞との結合体は 1 短単位とする。

【例】 | うら=寂しい | | うら=恥ずかしい | | うら=若い |
 | け=だるい | | もの=悲しい | | ほの=明るい |
 | ほの=暗い | | ほの=白い |

第2 最小単位の結合の例

1 数詞関連

※ | 八 | 番 | 目 | | 八 | 個 | 目 | | 八 | 回 | 目 | | 八 | 年 | 目 |

※ | 八 | か所 | | 八 | か国 |
| 八 | か年 | | 八 | か月 | | 八 | か日 |
| 八 | か条 |

※ | 一 | 年 | 生 | | 一 | 回 | 生 | | 一 | 期 | 生 |

※ | 一 | 月 | 号 |

※ | 八 | 週間 | | 八 | 日間 | | 八 | 時間 | | 八 | 分間 | | 八 | 秒間 |

2 曜日

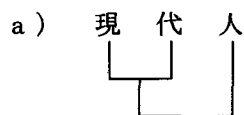
| 日曜 | 日 | | 月曜 | 日 | | 火曜 | 日 |

3 漢語の複次結合語

漢語の複次結合語について、語構造の解釈の仕方を示す。

ただし、短単位認定においては、以下に挙げた解釈とは異なる解釈をしても、結果的に認定される単位が同じという場合がある。例えば、(3)のa)に※印を付けて示した「債権所有者」などがその例である。「債権所有者」の語構造は「債権を所有する者」と考えることとしているが、※印として示したように「債権の所有者」と考えても認定される単位は結果的に同じである。したがって、語構造の解釈について、すべて以下のとおりに解釈しなければならないというものではない。

(1) 3最小単位語



| 現代 | 人 | | 伝染 | 病 | | 昨年 | 末 | | 新築 | 中 | | 自主 | 性 |
| 家庭 | 用 | | 全国 | 的 |



都	議会		市	庁舎		核	軍縮		食	中毒		正	反対
総	工費		全	理事		大	規模		不	明朗		非	能率
各	選手		同	理事									

c) 年 月 日

| 年 | 月 | 日 | | 松 | 竹 | 梅 | | 衣 | 食 | 住 |

d) 句 読 点

| 都区内 | | 統廃合 | | 町村長 |

e) 国 内 外

| 国内外 | | 輸出入 |

f) [構造を示すことができないと考えられるもの]

| 不可解 | | 不思議 |

(2) 4 最小単位語

a) 火 災 防 止

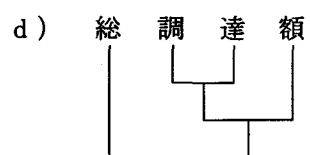
| 火災 | 防止 | | 公共 | 事業 |

b) 幼 稚 園 児

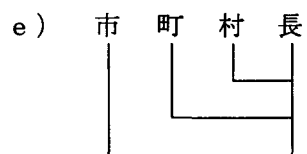
| 幼稚 | 園 | 児 | | 郵便 | 局 | 長 | | 警備 | 員 | 室 | | 解剖 | 学 | 者 |

c) 中 学 校 長

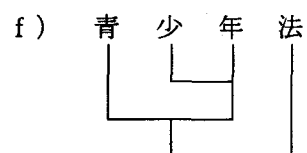
| 中 | 学校 | 長 | | 法 | 医学 | 者 |



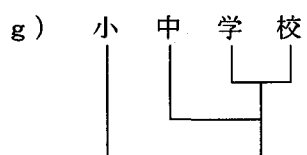
| 総 | 調 | 達 | 額 | | 軽 | 飛行 | 機 | | 各 | 管制 | 塔 | | 同 | 動物 | 園 |



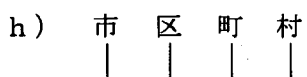
| 市 | 町 | 村 | 長 |



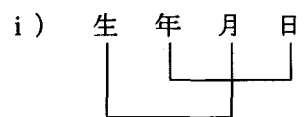
| 青 | 少 | 年 | 法 | | 小 | 中 | 学 | 生 |



| 小 | 中 | 学 | 校 |

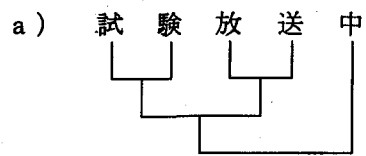


| 市 | 区 | 町 | 村 | | 都 | 道 | 府 | 県 |

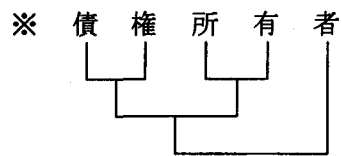


| 生 | 年 | 月 | 日 |

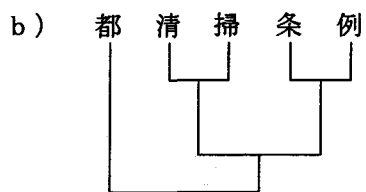
(3) 5 最小単位語



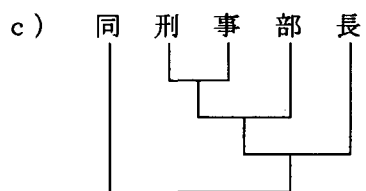
| 試験 | 放送 | 中 | | 有線 | 放送 | 網 | | 行政 | 区画 | 名 |
| 独占 | 禁止 | 法 |



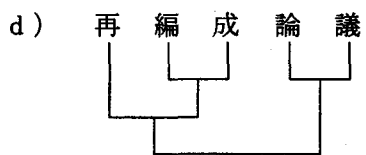
| 債権 | 所有 | 者 | | 宇宙 | 飛行 | 士 | | 沿岸 | 警備 | 隊 |
| 地震 | 観測 | 所 | | 入試 | 改善 | 策 |



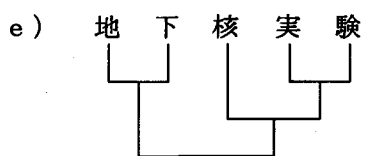
| 都 | 清掃 | 条例 | | 準 | 保護 | 世帯 |



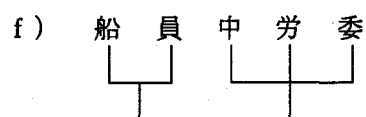
| 同 | 刑事 | 部 | 長 | | 同 | 事務 | 所 | 長 |



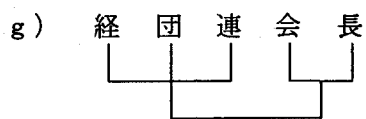
| 再 | 編成 | 論議 |



| 地下 | 核 | 実験 |

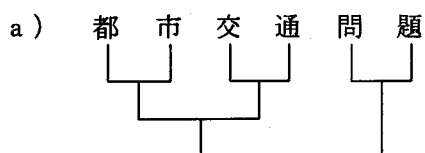


| 船員 | 中勞委 |

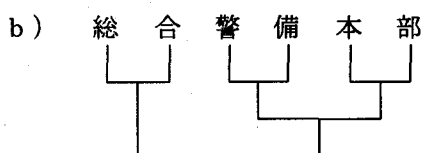


| 経団連 | 会長 |

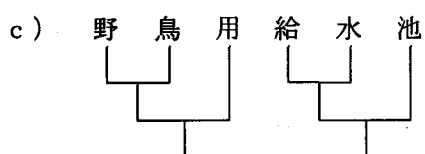
(4) 6 最小単位語



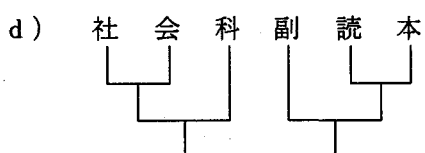
| 都市 | 交通 | 問題 | | 消費 | 減退 | 傾向 | | 高校 | 全入 | 運動 |



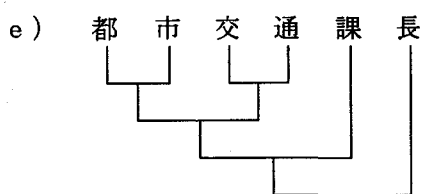
| 総合 | 警備 | 本部 | | 事故 | 合同 | 会議 |



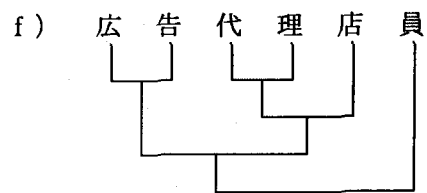
| 野鳥 | 用 | 給水 | 池 | | 自動 | 車 | 修理 | 工 |



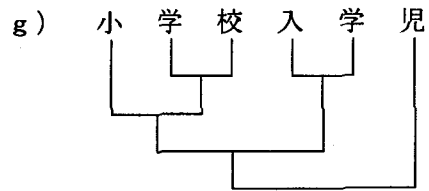
| 社会 | 科 | 副 | 読本 |



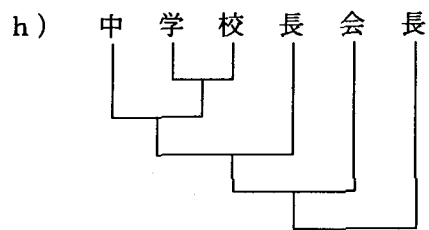
| 都市 | 交通 | 課 | 長 | | 宇宙 | 開発 | 史 | 上 |



| 広 告 | 代 理 | 店 | 員 |

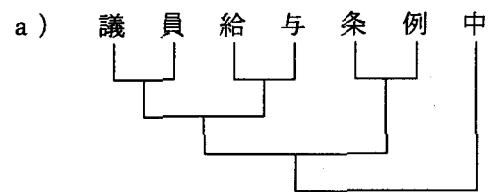


| 小 | 学 校 | 入 学 | 児 |

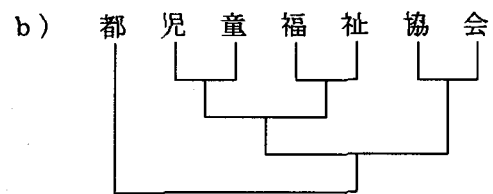


| 中 | 学 校 | 長 | 会 | 長 |

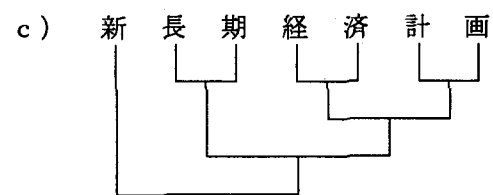
(5) 7 最小単位以上の語



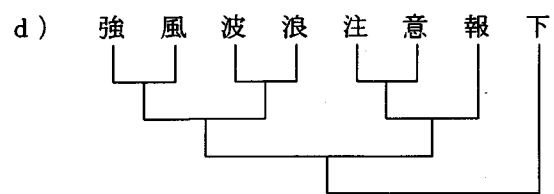
| 議 員 | 給 与 | 条 例 | 中 |



| 都 | 児 童 | 福 祉 | 協 会 |



| 新 | 長 期 | 経 済 | 計 画 |



| 強風 | 波浪 | 注意 | 報 | 下 |

第3 短単位の例

| グルー | 文書 |

元 | 駐日 | アメリカ | 大使 | ジョセフ | ・ | クラーク | ・ | グルー | (| 千 | 八百 | 八十 |
| 一 | 千 | 九百 | 六十 | 五 | 年 |) | は | 、 | 歴代 | の | 駐日 | 大使 | の | なか | で | も
| ひと | きわ | 生彩 | を | はなつ | 、 | アメリカ | の | 代表 | 的 | な | 職業 | 外交 | 官 | で
| あっ | た | 。 |

彼 | は | 千 | 九百 | 三十 | 二 | 年 | から | 四十 | 二 | 年 | まで | の | 約 | 十 | 年間 | を |
日本 | で | 過ごし | 、 | 日米 | 関係 | の | 調整 | に | 数多く | の | 足跡 | を | のこし | た
| 。 |

来日 | 以来 | 、 | グルー | は | 満州 | 事変 | 後 | の | 日本 | 軍部 | の | 台頭 | を | つぶさ
| に | 観察 | する | と | とも | に | 、 | 日本 | の | 国際 | 連盟 | 脱退 | (| 三十 | 三 | 年
| 三 | 月 |) | 、 | 日中 | 戦争 | 勃発 | (| 三十 | 七 | 年 | 七 | 月 |) | 、 | 日 | 独 | 伊
| 三 | 国 | 軍事 | 同盟 | (| 四十 | 年 | 九 | 月 |) | 、 | 対日 | 経済 | 制裁 | (| 四十 |
| 一 | 年 | 七 | 月 |) | 、 | 真珠 | 湾 | 奇襲 | 攻撃 | (| 四十 | 一 | 年 | 十 | 二 | 月 |) |
など | 、 | 日米 | 関係 | に | 決定 | 的 | な | 転機 | を | もたら | し | た | 重大 | な | 歴史 |
的 | 事件 | の | ことごとく | を | 直接 | に | 体験 | し | た | 。 |

グルー | の | 主著 | は | 、 | この | 十 | 年 | に | およぶ | 彼 | の | 滞日 | 経験 | を | まと
め | た | もの | で | あり | 、 | 千 | 九百 | 四十 | 四 | 年 | 五 | 月 | に | 公刊 | さ | れる |
と | 、 | アメリカ | 国民 | の | あいだ | に | 大きな | 反響 | を | よびおこし | た | 。 |

| 最後 | に | 雑誌 | 「 | エンターテインメント | ・ | ウイークリー | 」 | に | 載っ | た
| 映画 | 評 | を | 紹介 | し | よう | 。 |

「	UPSIDE	/	It		could		be		a		Best
Foreign		La - n g u a g e		Film		contender					
at		next		year ' s		Os - c a r s	.	(来年	の	
アカデミー | 賞 | で | 最 | 優秀 | 外国 | 語 | 映画 | 賞 | を | 獲得 | する | 可能 | 性 | が |
ある |) | DOW - NSIDE | / | Subtitles | (| 字幕 | 付き |) | 」 | (|
追記 | / | さて | 六 | 月 | 二十 | 七 | 日 | 公開 | 予定 | が | 、 | あと | 一 | 週間 | と | 迫
っ | た | ところ | で | 突然 | 七 | 月 | 十 | 一 | 日 | に | 延期 | 。 |

その | 理由 | は | 、 | マーケティング | の | 結果 | だ | そう | だ |) |

| タマチャリ | と | は | 比較 | に | なら | ない | 機動 | 性 | と | 耐久 | 性 | を | 装備 |
米軍 | の | 「 | ハマー | 」 | の | 名 | が | 冠せ | られ | た | 自転 | 車 | に | 乗ろ | う |
ハマー | 折りたたみ | マウンテン | バイク |

| 中国 | や | タイ | ほど | で | は | ない | が | 、 | 日本 | も | 世界 | 屈指 | の | 自転 |
車 | 大国 | 。 | 通勤 | 通学 | 、 | また | は | 日常 | の | 足 | と | し | て | 自転 | 車 | を |
利用 | し | て | いる | 人 | は | 多い | こと | だろ | う | 。 | そこ | で | 、 | ちょっと | 他
人 | と | 差 | を | 付け | たい | なら | 、 | こんな | 自転 | 車 | に | 乗っ | て | は | いか
が | だろ | う | か | ? |

| DBS | | J P A N | から | 販売 | さ | れ | て | いる | 「 | ハマー | 折りたたみ |
マウンテン | バイク | 」 | は | 、 | 米軍 | の | 軍用 | 車 | ・ | ハマー | で | 有名 | な | ア
メリカ | GM | 社 | 製 | の | 自転 | 車 | 。 | 自転 | 車 | と | は | いっ | て | も | 、 | ハマ
ー | の | 名前 | は | ダテ | で | は | なく | 、 | 高い | 機動 | 性 | と | 耐久 | 性 | を | 兼ね
備え | た | 1 | 台 | に | なっ | て | いる | 。 |

第4章 付加情報

第1 付加情報の概要

1 付加情報の概要

各単位に対して、次に挙げる付加情報を付与する。

- ① 代表形 ② 代表表記 ③ 品詞等の情報

2 代表形

代表形は、同一語の活用変化・音の転化・ゆれ・省略・融合等によって生じた異形態をグループ化するための情報である。原則として、コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

3 代表表記

代表表記は、代表形に対する国語の表記である。原則として、コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

4 品詞等の情報

各単位に対して、品詞等の情報（以下、品詞情報）として、次に挙げる情報を付与する。

- ① 品詞
- ② 活用型
- ③ 活用形
- ④ その他の情報1 … 品詞の下位分類に関する情報
- ⑤ その他の情報2 … 語形変異に関する情報
- ⑥ その他の情報3 … 上記以外の情報

第2 品詞情報の概要

1 品詞及びその他の情報 1

品詞は、次に掲げるものとする。

なお、以下では、品詞の下位分類に当たるその他の情報 1 とともに示し、品詞とその他の情報 1 の境界は全角スラッシュで示す。

1. 1 名詞

(1) 名詞／普通名詞

下記(2)～(11)以外の名詞。

【例】「母親」「国語」「エアコン」

(2) 名詞／サ変可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き、動詞として用いられることのあるもの。

【例】「運動」「アクセス」

(3) 名詞／数詞

【例】「一」「二十」「幾(人)」「何百」「数千」

(4) 名詞／助動詞語幹

一般に伝聞の助動詞とされる「そうだ」の語幹。

(5) 名詞／固有名詞-一般

下記(6)～(11)以外の固有名詞。元号・商品名などがこれに当たる。

【例】「平成」「ウィンドウズ」

(6) 名詞／固有名詞-姓

人名のうち姓に当たるもの。

【例】「星野」「ウィリアムス」「林」

(7) 名詞／固有名詞-名

人名のうち名に当たるもの。

【例】「仙一」「ジェフ」「威助」

(8) 名詞／固有名詞-人名

上記(6)(7)に分類できない人名。姓と名とを共に略して作られたあだ名やしこ名なども含む。

【例】「キリスト」「オザケン」「朝青龍」

(9) 名詞／固有名詞-国

地名のうち国名。

【例】「日本」「アメリカ」「韓国」

(10) 名詞／固有名詞-地名

国名以外の地名。

【例】「大阪」「豊中」「待兼山町」「カリフォルニア」

(1 1) 名詞／固有名詞-組織名

大学・企業などの組織の名称。

【例】「ソニー」「キヤノン」「阪急」「阪大」「経団連」

1. 2 代名詞

(1) 代名詞

【例】「私」「それ」

1. 3 形状詞

(1) 形状詞／一般

いわゆる形容動詞の語幹に当たるもの。

【例】「静か」「健やか」「特別」

(2) 形状詞／タリ型

いわゆるタリ活用の形容動詞の語幹に当たるもの。

【例】「寂然」「錚々」

(3) 形状詞／助動詞語幹

一般に助動詞とされる「そうだ」(様態)、「ようだ」、「みたいだ」の語幹に当たるもの。

【例】「そう」「よう」「みたい」

1. 4 動詞

(1) 動詞／一般

下記以外の動詞。

【例】「聞く」「来たる」「愛する」

(2) 動詞／非自立可能

名詞に直接続くことのある「いたす」「する」「できる」「なさる」の類や補助動詞として、動詞連用形や動詞連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続することのあるもの。

【例】「する」「始める」「くる」

1. 5 形容詞

(1) 形容詞／一般

下記以外の形容詞。

【例】「明るい」「美しい」「白い」

(2) 形容詞-非自立可能

形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形や形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続し、補助的に用いられることのあるもの。

【例】「ない」「欲しい」「よい」

1. 6 連体詞

(1) 連体詞

【例】「あの」「大きな」「同じ」

1. 7 副詞

(1) 副詞

【例】「しっかり」「決して」「ぐるぐる」

1. 8 接続詞

(1) 接続詞

【例】「しかし」「じゃ」「そして」

1. 9 感動詞

(1) 感動詞／一般

下記以外の感動詞。

【例】「いいえ」「おや」「はい」

(2) 感動詞／フィラー

【例】「あの」「えーと」「えーっと」

1. 10 助動詞

(1) 助動詞

第6章「要注意語」の「助動詞」に示したもの。

【例】「です」「とく」「べし」

1. 11 助詞

第6章「要注意語」の「助詞」に示したもの。

(1) 助詞／格助詞

【例】「が」「から」「で」「に」「の」

(2) 助詞／副助詞

【例】「きり」「こそ」「たって」「ぞ」「や」

(3) 助詞／係助詞

【例】「は」

(4) 助詞／接続助詞

【例】「けれど」「つつ」「と」「なり」「ば」

(5) 助詞／終助詞

【例】「い」「か」「ね」「よ」「わ」

(6) 助詞／準体助詞

【例】「の」

1. 1 2 接頭辞

【例】「相（変わらず）」「お（返事）」「第（1回）」「非（言語）」

1. 1 3 接尾辞

(1) 接尾辞／一般

【例】「(国語)学」「(ペースト)状」「(お父)さん」

(2) 接尾辞／サ変可能

名詞に接続してサ変動詞の語幹となり得る語を作るもの。

【例】「(活性)化」「問題(視)」

(3) 接尾辞／助数詞

【例】「個」「人」「メートル」

(4) 接尾辞／形状詞性

名詞に接続して形状詞を作るもの。

【例】「(健康)的」「(自慢)気」

(5) 接尾辞／動詞性

動詞型の活用をするもの。

【例】「汗(ばむ)」「(大人)ぶる」

(6) 接尾辞／形容詞性

形容詞型の活用をするもの。

【例】「(安)っぽい」「(書き)易い」

1. 1 4 記号

(1) 記号／一般

下記以外の記号。(語断片など)

(2) 記号／文字

アルファベットやギリシャ文字。

【例】「A」「 α 」「 Σ 」

1. 1 5 補助記号

(1) 補助記号／一般

上記以外の補助記号。

【例】「・」「 Δ 」「※」「ー」「'」

(2) 補助記号／句点

【例】「。」「.」「!」

(3) 補助記号／読点

【例】「、」「,」

(4) 補助記号／括弧開

【例】「(」「《」「「」

(5) 補助記号／括弧閉

【例】「)」「》」「」」

1. 16 空白

行頭の字下げなどの空白。

表 4.1 品詞・その他の情報 1

品詞	その他の情報 1	備考
名詞	普通名詞	
	サ変可能	
	数詞	
	助動詞語幹	伝聞の助動詞「そうだ」の語幹
	固有名詞-一般	
	固有名詞-人名	
	固有名詞-姓	
	固有名詞-名	
	固有名詞-国	
	固有名詞-地名	
	固有名詞-組織名	
代名詞		
形状詞	一般	
	タリ型	
	助動詞語幹	様態の助動詞「そうだ」・助動詞「ようだ」の語幹
連体詞		
副詞		
接続詞		
感動詞	一般	
	フィラー	
動詞	一般	
	非自立可能	
形容詞	一般	
	非自立可能	
助動詞		
助詞	格助詞	
	副助詞	
	係助詞	
	接続助詞	
	終助詞	
	準体助詞	
接頭辞		
接尾辞	一般	
	サ変可能	
	助数詞	
	形状詞性	
	動詞性	
	形容詞性	
記号	一般	
	文字	アルファベット等
補助記号	一般	ナカテン、ダッシュ
	句点	
	読点	
	括弧開	
	括弧閉	
空白		

2 活用型

活用型は、以下のものとする。

2. 1 動詞及び接尾辞（動詞性）

(1) ○行五段

カ行・ラ行以外の五段活用。

(2) カ行五段 1

下記以外のカ行五段活用。助動詞「た」・接続助詞「て」が接続する場合、イ音便になる。

(3) カ行五段 2

カ行五段活用動詞のうち「行く」の活用型。助動詞「た」・接続助詞「て」が接続する場合、促音便になる。

(4) カ行五段 3

カ行五段活用動詞のうち「行く」の活用型。連用形に音便形がない。

(5) ラ行五段 1

下記以外のラ行五段活用。

(6) ラ行五段 2

ラ行五段活用動詞のうち、「いらっしゃる」「おっしゃる」「くださる」「ござる」「なさる」の活用型。助動詞「ます」が接続する場合、イ音便になる。また命令形の活用語尾が「い」となる。

(7) ○行上一段

(8) ○行下一段

ラ行以外の下一段活用動詞。

(9) ラ行下一段 1

下記以外のラ行下一段活用。

(10) ラ行下一段 2

ラ行下一段活用動詞のうち「くれる」の活用型。命令形に「ーれろ」「ーれよ」のほか「ーれ」の形がある。

(11) カ行変格

(12) サ行変格

(13) ザ行変格

サ行変格活用の動詞のうちザ行に活用するものとザ行上一段活用動詞とを統合したもの。終止形にはサ行変格活用の終止形とザ行上一段活用の終止形の両方を認める。見出し語形はサ行変格活用の終止形とする。

【例】「信ずる」（「信ずる」と「信じる」とを統合）

- (14) 文語○行四段
- (15) 文語○行上二段
- (16) 文語○行下二段
- (17) 文語カ行変格
- (18) 文語サ行変格
- (19) 文語ザ行変格
- (20) 文語ナ行変格
- (21) 文語ラ行変格

2. 2 形容詞及び接尾辞（形容詞性）

- (1) 口語形容詞型
- (2) 文語形容詞型 1
ク活用型の形容詞。
- (3) 文語形容詞型 2
シク活用型の形容詞。
- (4) 文語形容詞型 3
文語形容詞「多し」。終止形に「多し」「多かり」の二つの語形がある。

2. 3 助動詞

- (1) 口語型
- (2) 文語型

表 4. 2 動詞活用型

活用型	備考
○行五段	
カ行五段 1	下記以外のカ行五段動詞
カ行五段 2	行く
カ行五段 3	行(ゆ)く
ラ行五段 1	下記以外のラ行五段動詞
ラ行五段 2	いらっしゃる, おっしゃる, ごさる, なさる, くださる
○行上一段	
○行下一段	
ラ行下一段 1	下記以外のラ行下一段動詞
ラ行下一段 2	くれる
カ行変格	
サ行変格	
ザ行変格	サ行変格とザ行上一段とを統合
文語○行四段	
文語○行上二段	
文語○行下二段	
文語カ行変格	
文語サ行変格	
文語ザ行変格	
文語ナ行変格	
文語ラ行変格	

表 4. 3 形容詞活用型

活用型	備考
口語形容詞型	
文語形容詞型 1	ク活用
文語形容詞型 2	シク活用
文語形容詞型 3	多し

表 4. 4 助動詞活用型

活用型	備考
口語型	
文語型	

3 活用形

活用形は、以下のとおりとする。

3. 1 動詞及び動詞型活用の助動詞

- (1) 語幹
- (2) 未然形 1
未然形のうち、助動詞「ない」「ず」が接続するもの。
- (3) 未然形 2
未然形のうち、助動詞「う」「よう」が接続するもの。
- (4) 未然形 3
サ行変格活用動詞・ザ行変格活用動詞で助動詞「られる」が接続するもの。
- (5) 未然形 4
サ行変格活用動詞・ザ行変格活用動詞で助動詞「ず」が接続するもの。
- (6) 連用形 1
下記以外の連用形。
- (7) 連用形 2
連用形のうち、助動詞「た」・接続助詞「て」が接続するもの。
- (8) 終止形 1
下記以外の終止形。
- (9) 終止形 2
ザ行変格活用助動詞の終止形のうちザ行上一段活用に由来する終止形。
- (10) 連体形
- (11) 假定形
- (12) 已然形
- (13) 命令形

3. 2 形容詞及び形容詞型活用の助動詞

- (1) 語幹 1
下記以外の形容詞の語幹。
- (2) 語幹 2
形容詞「無い」「良い」の語幹。一般に助動詞とされる「そうだ」が接続する場合、「無さ」「良さ」のように語幹に「さ」が接続する。
「無さ」「良さ」の「さ」を1短単位とせず、「無さ」「良さ」で1短単位とし、活

用形に「語幹 2」という情報を与える。

(3) 未然形

(4) 連用形 1

連用形中止法に用いるもの。

(5) 連用形 2

口語助動詞「た」や文語助動詞「き」「けり」が接続するもの。

(6) 終止形 1

下記以外の終止形。

(7) 終止形 2

文語形容詞「多し」の終止形のうち「多かり」。

(8) 連体形

(9) 仮定形

(10) 已然形

(11) 命令形

表 4.5 動詞及び動詞型活用助動詞の活用形

活用形	備考
語幹	
未然形 1	助動詞「ない」「ず」が接続
未然形 2	助動詞「う」「よう」が接続
未然形 3	サ変・ザ変で助動詞「られる」が接続
未然形 4	サ変・ザ変で助動詞「ず」が接続
連用形 1	
連用形 2	助動詞「た」、接続助詞「て」が接続
終止形 1	下記以外の終止形
終止形 2	ザ変の終止形のうち「～ジル」
連体形	
仮定形	
已然形	
命令形	

表 4. 6 形容詞及び形容詞型活用助動詞の活用形

活用形	備考
語幹 1	下記以外の形容詞
語幹 2	「ない」「よい」
未然形	
連用形 1	中止法
連用形 2	口語助動詞「た」、文語助動詞「き」「けり」が接続
終止形 1	下記以外の終止形
終止形 2	「多し」の終止形のうち「多かり」
連体形	
仮定形	
已然形	
命令形	

7. その他の情報 2

その他の情報 2 は、以下のとおりとする。

(1) ○音便

活用形の一つとして立てられている音便形。

(2) ○音便 A

一般には、活用形の一つとして立てられていない音便形。

【例】知ん（ない） …… 撥音便 A
すい（ません） …… イ音便 A

(3) 融合

二つ以上の短単位が融合したもの。

【例】「ときゃ（時は）」「考えりゃ（考えれば）」「白きゃ（白ければ）」

(4) 省略

活用語の一部が省略されたもの。

【例】「(そう) っす」「や(んです)」

表 4. 7 その他の情報 2

その他の情報 2	備考
○音便	
○音便 A	活用形として立てられないもの
融合	
省略	

8. その他の情報3

その他の情報3は、以下のとおりとする。

(1) 言いよどみ

言い直し等に伴う語断片や言い直しにおける訂正部・被訂正部が共に助動詞・助詞・接頭辞・接尾辞であるもの。

CSJでタグ(D)・タグ(D2)を付けられたものに相当するもの。

【例】捜が ― 捜したに違ない

わたし(D2 は)が

(2) メタ

音や語自体が言及の対象となるようなメタ的な引用で用いられたもの。

【例】助詞「が」の用法

(3) 連語

長単位で1単位となる複合辞。

【例】「という」「として」「ている」「である」「のです」

表 4.8 その他の情報3

その他の情報3	備考
言いよどみ	
メタ	
連語	長単位で複合辞に付与

[資料 1] 名詞と接辞の判定基準(1)

1 名詞と接辞の判定基準

1. 1 名詞とするもの

1) 地名と結合した以下のもの

① 行政区画を表すもの

【例】

東京/都/ 大阪/府/ パンジャープ/州/

② ①以外のもの

【例】

表参道/駅/ 西表^{じま}/島/

2) その他

単独で用いられる時と読み方・意味が同じものは、名詞とする。

【例】

箇所	不要/箇所/ 訂正/箇所/
	cf. ニ/ヶ所/ ⇒ 接尾辞
側	相手/側/
句	名詞/句/ 引用/句/
座	主教/座/ (座る場所の意)
	cf. ミラノ座 ⇒ 接尾辞
札	千円/札/
死	事故/死/ 安楽/死/
式	方程/式/ 予測/式/ (計算式の意)
	入学/式/ 結婚/式/ (儀式の意)
	cf. 東京式 ⇒ 接尾辞
食	日本/食/ /食/中毒
職	管理/職/ 事務/職/
数	従業員/数/ 周波/数/
節	修飾/節/ 名詞/節/
線	地平/線/ (境界の意)
	cf. 京王線 ⇒ 接尾辞
他	/他/言語 /他/地域
体	被写/体/ 被験/体/
	cf. 集合体 ⇒ 接尾辞
地	観光/地/ 発信/地/
点	問題/点/ 調音/点/ (A エム;M)/点/ 二/点/を結ぶ
	cf. 五/点/ ⇒ 接尾辞 (得点, 項目の意味を表す「点」は接尾辞)
弁	関西/弁/ 江戸/弁/
主	動作/主/
比	圧縮/比/ (A エス エヌ;S N)/比/
年	/年/会費/
場	温泉/場/ ごみ捨て/場/
拍	特殊/拍/
番	留守/番/
便	臨時/便/ 直行/便/

文	会話/文/	要約/文/
法	少年/法/	(法律の意)
	cf. 分析法 ⇒ 接尾辞	
元	遷移/元/	/元/同級生
率	合格/率/	認識/率/
類	魚介/類/	柑橘/類/
列	文字/列/	音素/列/
論	方法/論/	進化/論/

1. 2 接辞とするもの

1) 数詞と結合したもの

① 通貨の単位

【例】

円 ドル パーツ

② 単位

【例】

カロリー デシベル ヘルツ

③ 序列・カウントを表すもの

【例】

回 行 件 粒 番 名 組み

④ 助数詞

【例】

個 本 枚 台 軒

2) 「数詞+接尾辞」と結合したもの

【例】

九/年/目/ 三/回/生/ 四/人/分/ 三/人/共/ 五/人/用/
二/者/間/ 二/年/後/ 一/番/線/ 六十/年/代/ 二/個/組み

※ /一/軒/家/

一 名詞 数詞
軒 その他 接尾辞
家 名詞

3) その他

A 省略された形で元の意味を添加するもの

【例】

界 自然/界/ パチンコ業/界/ (ある世界)
金 援助/金/ 入学/金/ (資金)
具 防寒/具/ 文房/具/ (道具)
計 体重/計/ (計器) /計/七/通り (合計)
座 文学/座/ ミラノ/座/ (劇場, 劇団を表す)
作 失敗/作/ 感動/作/ (作品)
史 語彙/史/ 古代/史/ (歴史)
紙 新聞/紙/ 模造/紙/ 方眼/紙/ (用紙)

式	東京/式/	ねじ/式/	(方式, 方法)
質	神経/質/	筋肉/質/	(性質)
実	/実/時間	/実/世界	(実際, 現実)
社	新聞/社/	旅行/社/	ニューロマグ/社/ (会社)
術	腹話/術/	健康/術/	(技術)
線	京王/線/	東武/線/	(路線)
体	構造/体/	自治/体/	(体系)
代	宿泊/代/	飛行機/代/	(代金)
調	上昇/調/	演説/調/	(調子)
堂	礼拝/堂/	公会/堂/	(建物を表す)
品	衣料/品/	骨董/品/	(品物)
別	男女/別/	分野/別/	(別々)
法	改善/法/	分析/法/	(方法)
両	/両/側面	/両/情報	(両方)
録	議事/録/	(記録)	

B 単独で使われるときと読み方（音訓）の異なるもの

【例】

後	訓練/後/	
骨	尾てい/骨/	
時	反応/時/	/時/系列
酒	日本/酒/	食前/酒/
心	好奇/心/	信仰/心/
物	目標/物/	特産/物/
名	役職/名/	歌集/名/

C その他

【例】

軒	来来/軒/			
共	両方/共/	両親/共/		
部	経済学/部/	美術/部/	人事/部/	下線/部/

[資料2] 名詞と接辞の判定基準(2)

複合語の末尾に位置する連用形転成名詞を接尾辞にするという規則に関連して実態を調査するとともに、どう扱うべきかについて規則を提示する。

1 用法および品詞付けの実態

代表形辞書から連用形転成名詞と見られる見出しを抽出し、その各々について、単独用法の有無、複合語の後要素となる用例、および後要素になった場合の品詞情報を調べた。後要素の用例がなくても、存在しうる場合には、作例を括弧付きで記入した。ただしその場合には、品詞欄は空欄となる。

見出し	単独用法 の有無	現品詞	複合語末尾用法
扱い	○	接尾	助詞扱い, お客様扱い, 特別扱い
誤り	○	名	湧き出し誤り, 単語誤り, 認識誤り
洗い	×	名	食器洗い
歩き	×	名	よちよち歩き
行き	○	名	沖縄行き, 釧路行き
炒め	×	接尾	野菜炒め
入り	○	接尾	仲間入り, カルシウム入り
入れ	×	接尾	段ボール入れ
祝い	○	名	退院祝い
伺い	○		(進退伺い, ご機嫌伺い)
受け	○	名	郵便受け
売り	○	名	中国雷鳥売り
置き	×	混	五度置き, 取っておき
踊り	○	名	阿波踊り
思い	○	名	子供思い, 母親思い
下ろし	×	名	大根おろし
買い	×	名	衝動買い
替え	×	名	商売替え
帰り	○	名	学校帰り, 仕事帰り
書き	×	名	箇条書き
絡み	×	名	情報処理絡み
狩り	×	名	潮干狩り
代わり	○	名	父親代わり, 灰皿代わり
刻み	×	名	0.5刻み
切り	×		(単位切り)
切れ	×	名	時間切れ
暮らし	○	名	三人暮らし
繰り	×	名	資金繰り
込み	○	名	マスク値込み
探し	×	名	ミッキー探し, お墓探し
捌き	×	名	手網捌き
騒ぎ	○		(火事騒ぎ)
凌ぎ	×	名	一時凌ぎ
調べ	○		(証拠調べ)
過ぎ	○	接尾	八時過ぎ

座り	×	名	体育座り
沿い	×	接尾	石神井川沿い、環八沿い、国境沿い
育ち	○	名	坊ちゃん育ち、北国育ち
染め	○	接尾	草木染め
建て	×	接尾	一戸建て、三階建て
立て	×	接尾	語義立て
頼り	○	接尾	耳頼り
違い	○	名	見当違い
遣い	×	接尾	仮名文字遣い、無駄遣い
付き	×	接尾	条件付き、朝食付き、括弧付き
作り	○	接尾	菓子作り、体力作り
付け	×	接尾	順序付け、意味付け、対応付け
続き	○	接尾	不運続き、連体続き
潰し	×	接尾	時間潰し
連れ	○	接尾	家族連れ
出	○	接尾	大学出
咎め	○		(言葉咎め)
飛び	×	名	一足飛び、二つ飛び
止まり	×	名	構築するということ止まり
止め	×	接尾	体言止め、通行止め
取り	×	接尾	場所取り、音頭取り
泣かせ	×	接尾	調教師泣かせ、タクシー泣かせ
眺め	○		(模様眺め)
慣れ	○		(試験慣れ)
煮	×	接尾	砂糖煮、柚香煮
抜き	○	名	雑草抜き
願い	○	名	退職願い
狙い	○		(空き巣狙い)
乗り	×	接尾	八人乗り
外れ	○	接尾	常識外れ、仲間外れ
離れ	×	接尾	浮世離れ
払い	×	接尾	門前払い
晴れ	○		(五月晴れ)
化け	×	名	文字化け
歪み	○	名	量子化歪み
塞がり	×	名	八方塞がり
振る舞い	○	名	形容詞的振る舞い
惚れ	×	名	一目惚れ
参り	×	名	お寺参り
任せ	○	名	成り行き任せ
紛い	×	名	犯罪紛い
負け	○	名	根気負け
交じり	×	名	期待交じり、漢字仮名交じり
待ち	×	名	順番待ち、信号待ち、準急待ち
祭り	○	名	漫画祭り、七夕祭り
回り	×	接尾	シベリア回り
向き	○	接尾	後ろ下向き、若者向き
向け	×	接尾	子供向け、企業向け、CELP向け
巡り	×	接尾	トイレチェック巡り
漏れ	○	名	検出漏れ

焼き	×	接尾	炉端焼き, お好み焼き
酔い	○	接尾	二日酔い
読み	○		(重箱読み)
別れ	○		(喧嘩別れ)
分け	×	接尾	のれん分け, 分類分け
笑い	○		(愛想笑い)

2 品詞判別基準

一律に接尾辞にすることには抵抗があるので, 以下のように名詞と接尾辞を分ける基準を考えた。

番号の若いものが優先する。

1) 名詞とする条件

以下のいずれかに該当する

① 元の動詞の意味用法に照らして, 「～すること」という意味をもつ

例: お客様扱い, 食器洗い, よちよち歩き, 仲間入り, 衝動買い, 商売替え, 原稿書き, 単位切り, 時間切れ, 資金繰り, 年金暮らし, お墓探し, 手綱捌き, 一時凌ぎ, 証拠調べ, 体育座り, 草木染め, 語義立て, 耳頼り, 見当違い, 無駄遣い, 菓子作り, 順序付け, 意味付け, 対応付け, 不連続き, 時間潰し, 言葉咎め, 一足飛び, 体言止め, 通行止め, 場所取り, 模様眺め, 試験慣れ, 雑草抜き, 五人抜き, 文字化け, 浮世離れ, 分割払い, 門前払い, 八方塞がり, 一目惚れ, お寺参り, 成り行き任せ, 根気負け, 順番待ち, 札所巡り, 放射能漏れ, チェック漏れ, 野焼き, 二日酔い, 喧嘩別れ, のれん分け, 愛想笑い

② 単独用法を有し, それと同じ意味を持つ

例: 帰り (帰路) ……仕事帰り, 学校帰り
誤り ……単語誤り, 認識誤り
踊り ……阿波踊り
狩り ……潮干狩り
代わり ……親代わり, 灰皿代わり
騒ぎ ……火事騒ぎ
育ち ……坊ちゃん育ち, 北国育ち
連れ ……家族連れ
抜き ……アルコール抜き
晴れ ……五月晴れ
歪み ……量子化歪み
振る舞い ……形容詞的振る舞い
祭り ……漫画祭り, 七夕祭り
向き ……下向き, 若者向き
読み ……重箱読み

2) 接尾辞とする条件

① 行為・現象そのものでなく, 生産物, 人, 道具, 方式等を表わす

例: 野菜炒め, 大根おろし, 砂糖煮, お好み焼き, 一戸建て (生産物)
雷鳥売り, 空き巣狙い (人)
郵便受け, 段ボール入れ, 退院祝い, 進退伺い, 退職願い (道具)
仮名遣い (方式)

② 複合語全体が状態・性質を表わす修飾語になりうる

例：カルシウム入り，情報処理絡み，沖縄行き，親思い，消費税込み，街道沿い，
箇条書き，条件付き，大学出，課長止まり，タクシー泣かせ，常識外れ，犯罪
紛い，漢字仮名交じり，シベリア回り，子供向け

③ 数詞に接続する

例：二日置き，0.5刻み，十時過ぎ，八人乗り

※ なお，上記の基準によると，同じ語が必ずしも同じ品詞をとることにならない。

例1 焼き：野焼き（名），お好み焼き（接尾）

例2 行き：沖縄行き〔が決定〕（名），沖縄行き〔の便〕（接尾）

[資料3] 動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準

0 目的

品詞情報付与に当たって、動詞－連用形とするか、連用形転成名詞とするか、判断に苦しむ場合がある。その場合の判定の基準を明確にしたい。現在動詞連用形とされているもので、接続上問題ありと山口さんがみなしたものがリストアップされたので、それについて検討する。また逆に、名詞とされているもののなかにも、動詞とすべきものがあるかもしれないので、それも併せて検討する。

1 現在動詞になっているもの

1. 1 動詞の連用形が他の自立語を伴わずに文節を構成する場合

1) 「～に行く，来る，走る，駆け付ける」など一動詞

①後続語が助詞「に」

②次の文節の先頭が動詞「行く」「来る」「走る」「駆け付ける」など

例：本を買いに行く，息子に会いに来た，助けに駆け付ける

[注] 「金策に走り回る」「救助に駆け付ける」の「金策」「救助」は名詞であるが，居体言の場合は，格要素，連用修飾要素を取りやすいので，動詞とする。

[参考] 仲間を助けに駆け付ける，難破船の救助に駆け付ける

2) 強調のために同じ動詞を繰り返す場合一動詞

①後続語が助詞「に」

②次の文節が同じ動詞の繰り返しである。

例：選りに選って，悩みに悩んで，ねばりにねばって

3) 「～はしない」の類一動詞

①後続語が助詞ハ，モ，サエなど

②続く文節がスル，イタス，ナサルの否定形または仮定形

例：敬語を使いさえすればポライトか

正直に言えば答めはしないよ

女房子供ほったらかして働きもせず

[注] 上の例は「使えば」「答めない」「働かず」の強調形である。この種の「は」は「ありゃしない」「聞こえやしない」のように，融合や転訛を生じやすい。

4) 敬語用法一動詞

①「お」＋動詞連用形＋「になる」「(「する」「いたす)」

例：お使いになる，おいでになる，(お願いする，お答えする)

[注] この類が延べ44例しかないのが気になる。もっと多いはずである。

5) 上記以外の敬語用法

「お」＋動詞連用形で，気持ちとしては(4)に似ているが，「になる」「する」

を伴わず、名詞に似た接続関係を持つ。この類は統一が取れていない。「お+動詞連用形」が長単位で名詞になるのなら、「お」なしで名詞になりうるもの以外はすべて動詞にしてもいいような気がするが、実際はゆれている。文脈的にも格要素をとる場合と、逆に連体修飾語を持つ場合とがあり、どちらか一方に統一するわけにはいかないようだ。

①格助詞・係助詞を後ろに従える：

浅草寺でお参りをして……………名詞
 びっくりしてそれからはお支払いが良くなる……………名詞
 声の小さい人とおしゃべりはしづらい店です……………名詞

②命令的用法：ただいまーお帰りを、飲みにおいでよ……………動詞

③「だ」「か」「と」「の」などを従える：

どの(A オーエス;OS)をお使いですか……………動詞
 この二つは絶対お勧めです……………動詞
 示さないことは大体既に見当がお付きであると……………動詞
 そういうことは古くさいようにお感じでしょうけど……………動詞
 先程のデーターでもお分かりかと思う……………動詞
 またかと思われる方もおありと存じます……………動詞
 何で今更音素なんだと(F まー)お思いの方……………動詞
 今(F あの)皆さんがお持ちの論文集……………動詞
 お気に入りのカシミヤのセーター……………動詞
 ここは凄くやり易いというようなお褒めの言葉を……………動詞

1. 2. 居体言が複合語の先頭または中間に位置する場合

6) 動詞の連用形が後続の名詞の意味を限定する働きを持つ

これは動詞連用形が「～する人」「～する(ための)もの」「～する(ための)場所」…という感じで後続の名詞または名詞性接尾辞に係るものである。以下のものはすべて動詞として扱われている。その中で確かに名詞だと思われるのは「狭め」1語であるが、他にもあるかどうか検討を要する。

①動詞

遊び仲間、ありよう、居心地、書き起こし時、書き起こしテキスト、書き起こし例、書き換え箇所、書き間違い、掛け布団、変わり具合、頑張り所、頑張り屋、聞き取り試験、聞こえ具合、切り出し音素認識実験、切れ目、繰返し演算、繰返し語、お好み焼き、立て役者、例えよう、使い勝手、出不精、通し番号、入り放題、はやり言葉、選好振り向き法、褒め言葉、申し込み者、読み上げ音声、読み上げ原稿、(新聞記事)読み上げコーパス、(文章)読み上げシステム、カード読み上げ実験、文読み上げ方式、読み間違い、だし巻き卵、

②名詞

(声道の)狭め形成、

7) 複合動詞の後ろ部分が付属語表に載っているもので、かつそれが体言化して接尾辞となった場合

例：書き/始める/……………「書き」「始める」いずれも動詞
 書き/始め/から……………「書き」が動詞、「始め」が接尾辞

見出し語は以下の通りである。

学び合い、書き終わり、問い掛け、働き掛け、歩き過ぎ、行き過ぎ、使い過ぎ、行き付け、書き始め

[資料4] 名詞・形状詞・副詞の判定基準

以下の6項目を品詞判別の手がかりとする。ただし、これは長単位レベルでの判定である。

- 1) 主格・対格・与格に立つ。
- 2) サ変語尾を伴って動詞になる。
- 3) 「な」を伴って連体修飾する（「なの」「な訳」などを除く）。
- 4) 単独で連用修飾語になる。
- 5) 「の」を伴って連体修飾する。
- 6) 程度副詞を受ける（例：非常に、すごい、あまり、とても、比較的）。
- 7) 格助詞を支配する（例：「と同様」「より簡単」「でいっぱい」「に独立」）
- 8) 副助詞・係助詞が付く

	1	2	3	4	5	6	7	8
名 詞	○	○	×	×	○	×	×	○
形状詞	×	×	○	×	○	○	○	×
副 詞	×	○	×	○	○	○	×	○

メタ的に用いられたばあいにはむろん例外であるが、それ以外にも多少の例外は認めなければならない（例：もっと前）。⑤のように全部に○が付くのは一見無意味のようであるが、ひとつの代表形はなるべくひとつの品詞にまとめたいので、その際の許容範囲を明示する意味で加えた。①②と③のように排他的な項目について両方の用例を持つものは、複数の品詞に分ける必要がある。その際、意味にあまり差がなくて、かつ形態論的にどちらでもよい例については、優先順を次の通りとする。

- 1) 助動詞「だ」「です」が付く場合は、形状詞、名詞、副詞の順
- 2) 「に」「の」が付く場合も、明らかに格助詞と認められる場合を除き、形状詞、名詞、副詞の順（例外：必要に迫られる、無理のない計画）
- 3) 上記以外（サ変語幹、複合語など）は名詞、形状詞、副詞の順

なお、品詞によって意味に多少のずれがある場合は、意味の近い方に寄せる（例5）。

- 例1：必要がある（名詞）、必要な（形状詞）、必要書類（名詞）
 例2：共通する（名詞）、共通な（形状詞）、共通の（形状詞）、共通語（名詞）
 例3：特別な（形状詞）、特別歴史がある訳ではない（副詞）、特別機（形状詞）
 例4：わずかな（形状詞）、わずかに（形状詞）、わずか3例（副詞）、わずかだけ開いてる（副詞）
 例5：絶対諦めない（副詞）、絶対音感（名詞）、絶対に（副詞）
 例6：幸い当選して（副詞）、幸いなことに（形状詞）、偶然が幸いして（名詞）

第5章 文節

第1 文節認定規程

(◆ver.1.2修正)

- 1 助詞・助動詞・接尾辞連続（言いよどみの助詞・助動詞・接尾辞も含む）の後ろで切る。助詞・助動詞の範囲は第6章「要注意語」の「助詞」「助動詞」に挙げたもの及び本章の付録5.1，付録5.2に挙げた複合辞とする。

【例】 | 私共では || (F あの一) | (A エヌエイチケー;NHK)の || ニュースを || 音声を || データーベース化するという || 仕事を || やっております ||
| その | 目的が || 個人に || 絞られ || 過ぎている || 傾向が || ある |
| 履歴書に || 凄く | 書き易い || (F あの一) | 分かってもらい=易いなど || 思
って ||

1. 1 助詞相当句・助動詞相当句については、構成要素の間に副助詞など（言いよどみの助詞・助動詞も含む）が挿入されることがあるが、その場合も全体で一つの複合辞とみなす。

【例】 | 凄く | 食べて=ばっか=いましたね |
| 発展させてきた | もの で=は=あるんですけれども |

◇ 助詞・助動詞連続の後ろであっても切らない場合 → 補則を参照。

- 2 助詞・助動詞を伴わない自立語は、以下の各項に該当する個所で切る。なお問題となる点については、規定3に従って文節の認定を行う。

2. 1 主語・主題の後ろで切る。

【例】 | 山も | あり | 緑 || 溢れる | とても | いい | 遊園地です |
猫も	お腹		空いてたんだよな			
心		温まる	良い	ドキュメンタリー	を	見たな
かなり	気持ち		悪い	ものは	ありました	
塩揉みだったら	ちょっと	効果		ないんじゃないか		

2. 2 連用修飾成分の後ろで切る。

【例】 | 空 || 高く | 飛ぶ | | 海底 || 深く | 潜る |

お弁当		食べながら	待っていると			
今日		来てらっしゃいますけども				
パワーは	高く		なると	思われます		
薄暗く		した	低残響室で			
とても		大自然の	中に	うまく	ディズニーの	世界が

ただし「消滅する」「紛失する」「死去する」の意の「なくなる」は切らない。

【例】 | マッチングする | ことが | なく=なるであろうという | ことを |

2. 3 連体修飾成分の後ろで切る。

【例】 | この || 高い || 周波数では | この || ように | ばらついております |
お昼御飯や	夕御飯を	一人で	食べる		機会が	多いんですけど
この		論文で	次に	平安時代の		言葉と
小さな		町だったような	(F あー)	気が	します	

2. 4 用言の中止法・終止法・命令法の後ろで切る。

【例】 | ちょっとした | 山も | あり || 緑 | 溢れる |
| 何か | (F あの) | 頑張れ || 池田高校ナイン |

2. 5 接続詞の後ろで切る。

【例】 | 春が | 来たという | 感じは | しません | そして || 子供の | 頃から |

2. 6 感動詞の後ろで切る。

【例】 | はい || そうです | (M 金沢に | 旅行したいので) という | ような | 内容に |

2. 7 体言の独立格の後ろで切る。

【例】 | 犬の | 方から | (F あー) | お父さん || 起きてよという | ような | ことで |

◇ 以上の規定に該当しても切らない場合 → 補則を参照。

3 文節の認定上問題となる点については、以下の規定に従う。

3. 1 擬音語・擬態語の類は一続きにする。

【例】 | わいわい=がやがや |

3. 2 同じ要素及び類似の要素の繰り返しは切り離す。

【例】 | はい || はい | え | はい || はい | (F あ) | 分かりました |

ただし、次に挙げるものは切り離さない。

あとあと	ごくごく	さてさて	ただただ	どうこう	なおなお
まずまず	またまた	まだまだ	よくよく		

【例】 | ごく=ごく | 簡単に | 申しますと |

3. 3 体言に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、体言と用言とを切り離さない。

【例】 | 外来音について | 若干 | 許容=してきております |
| 有益な | 出会いを | 演出=できる |
| 騙されたと | 思って | (F あの) | 体験=なさってみたら |

ただし体言と形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」との間に助

詞が挿入された場合は切り離す。

【例】 | 東京都の | 美術館の | あれで | (F あの一) | 入選とか || した | 訳ですね |

国語辞典でサ変動詞語幹としての用法が記述されていないものについても、形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は、「する」「できる」「なさる」「いたす」を切り離さない。

【例】 | 青空に | 桜の | 花が | 満開=してる | 様子は |
| ぶらぶらと | (F あの一) | ウインドーショッピング=する |

3. 3. 1 前の体言が連体修飾を受けている場合は、用言部分を切り離す。

【例】 | 面白い | 説明 || する | 人 | cf. | 面白く | 説明=する | 人 |

3. 3. 2 「お(ご) + 動詞連用形(名詞) + する・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・もうしあげる・あそばす」については、全体を一続きのものとする。

【例】 | 予稿集八十七ページ | (F あの一) | 訂正を | お=願ひ=申し上げます |
| どんどん | 音声で | お=知らせ=くだされば |
| 最後にさ | では | 奥山さん | 御=登場=願ひますの | 声と | 共に |

3. 4 体言 + 用言という形式のうち、『岩波国語辞典』第6版(岩波書店)、『国語大辞典』(小学館)のいずれか一方で、見出し語になっているものは、体言と用言とを切り離さない。

【例】 | 子供に | せがまれて | 仕方=なく | 人形を | 買ってしまいました |

3. 5 副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、副詞と用言とを切り離さない。

【例】 | 目を | きらきら=させながら | 熱い | 視線で |
| それこそ | (F お一) | <雑音> | きちんと=した | 敬語を | 使う | ことは |

ただし副詞と形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」との間に助詞が挿入された場合は切り離す。

【例】 | どきっとは || する | | 十万円は || する |

3. 6 並列された語は切り離す。

【例】 | 安心 || 確実な | 方法 |

ただし漢語の最小単位の並列は、切り離さない。

【例】 | この | (M と)の | 前=後が | どれだけの | 大きさを | 持った |
| 東京の | 郊外の | 市=町=村と | 言うか |

複合語の中には、並立の関係にある最小単位二つから成るものがある。それらは切り離さない。(並立の関係にある文節と見なさない。) その例を次に示す。

朝晩 上げ下ろし 上げ下げ 開け閉め 足腰 当たり障り

あちこち あちらこちら 後先 あれこれ 上下^{うへした} 浮き沈み^{かみしも}
 後ろ前 裏表 売り買い 貸し借り 勝ち負け 上下
 草木 好き嫌い 出し入れ 田畑 手足 出入り 伸び縮み
 飲み食い 乗り降り はやりすたり 前後ろ まるばつ 右左
 山川 行き来 弓矢 読み書き 夜昼

【例】 | 私は | 旅行が | 大好きで | 今までも | あち=こち | 行きましたけれども |
 | 他に | 何が | あるだろうという | ことを | あれ=これと | 思いました |
 | 皆 | とても | 頭が | ちっさくて | 長身で | 手=足が | 凄く | 長く |

3. 7. 1 並列の関係にある体言連続のうち、並列された体言全体に掛かる体言・接辞がある場合は切らない。

【例】 | 平成=九年=十年 |

3. 7. 2 並列の関係にある体言連続のうち、並列された体言全体を受ける体言・接辞・形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切らない。

【例】 | 各語の | 状況っていう | ものを | 観察=整理-しました |
 | 英語=日本語-間の | 会話文の | 翻訳を | 行なう | ことが | できます |
 | 学習データ=入力データ-共 | マスク値で | 置き換えた |

3. 8 同格の関係にある体言連続は、切り離さない。

【例】 | 機関誌=計量国語学が | 発刊され |
 | ワープロソフト=一太郎十三 |

3. 9 数量を表す要素は一続きにする。

また、数量を表す要素とその直前直後の要素とは、切り離さない

【例】 | 昭和十三年=八月=八日の | 荒木文部大臣の | 発言や |
ところで	朝=八時から	もう	色んな	人に	紛れて
平均値=三. ゼロ六; 3. 0 6) という	ような	値に	なって		
日米韓=三国の	対応				
パチスロの	場合だったら	一箱=三万ぐらいなんですけど			
十年以上=前までは	(F ま)	規則合成っていう	方式が	(D しゅゆ)	
主流だった					
知床には	熊がですね	推定=三百頭	いると	言われています	
月々=平均=二十五万ぐらい	掛かるんです				

補則

次に挙げるものは、その内部が規定1から3で切ることになっていても切らない。

- (1) 第6章「要注意語」の「全体で1最小単位とするもの」に挙げられた語

【例】 |よく|この=頃|テレビで|番組が|出てますよね|
どう=して	緩和表現を	使うのかという	ことについては		
凄い	我が=ままな	患者さんに			
結局	もう	毎日	我が=物顔で	来る	もんだから
たくさんの	歴史的な	建物が	至る=ところに	残っています	

- (2) 第6章「要注意語」の「全体で1最小単位とするもの」に挙げられた語

【例】 |自分も|我が=ままな|ことを|言ってしまった|

- (3) 第6章「要注意語」の「一が～」「一の～」に挙げられた語

【例】 |この|油絵の=具を|いっぱい|買わされて|
|そこが|万が=一|倒産すると|

- (4) 次に挙げる固有名

【例】

〔人名_{みなと}(芸名・しこ名・あだ名などをふくむ)〕

|源=頼朝| |千代の=富士|

〔国名〕

|グレートブリテン=及び=北アイルランド連合王国|

〔行政区画名〕

目黒区内にですね	(F あのと)	自由が=丘等の	(F あのと)	町が	ある	
お茶の=水の	私	あんまり	お店の	名前とか	よく	覚えてなくて
この	北区の	西が=丘に	こう	やって	研究所という	ものを

※ 行政区画名が連続する場合、以下のように分割する。

|東京都|北区|西が丘|三丁目九番十四号|

〔地域名〕

〔地形名〕

|場所は|丹沢の|塔の=岳が|使われます|

〔場所名〕

|更に|丸の=内線も|乗り入れています|
|虎の=門交差点を|先頭に|二キロの|渋滞です|

〔略称〕

〔建造物名〕

|浅草寺の|境内に|ある|五重の=塔なんですけれども|

〔組織名(社名・会議・委員会など)及びそれに関連する肩書〕

｜国立少年自然の家｜ ｜独立行政法人＝国立国語研究所｜

※ 組織名等が連続する場合、以下のように分割する。

人名の前にある肩書と人名とは切り離す。

｜国立国語研究所｜言語体系研究部｜第二研究室｜

｜国立国語研究所｜言語行動研究部｜第二研究室｜前川喜久雄｜

｜アメリカ合衆国大統領｜ブッシュ｜

〔歴史的できごとの名称＊〕

｜関ヶ原の＝戦い｜ ｜蛤御門の＝変｜ ｜明治十四年の＝政変｜

※ 戦争・革命・事件などで、日本史・世界史の教科書において、慣用的に一定の名で呼ばれるもののみとする。

〔祝日＊〕

｜毎年｜五月五日｜子供の＝日(D2 は)に｜なると｜

※ 「国民の祝日に関する法律」(昭和23年7月30日法律第178号)に定められたもの。次の例のように、同じ日を指していても、同法で定められた名称と異なれば、固有名としない。

｜憲法記念の＝日｜

(5) 動植物名

【例】 ｜タツノ＝オトシゴ｜

｜ユキノ＝シタ｜ ｜ワレモ＝コウ｜ ｜ヒカゲノ＝カズラ＝科｜

(6) 分数の読み上げ

【例】 ｜三分＝の＝二｜に｜する｜くらい｜は｜できる｜

｜格｜の｜一致度｜は｜ルート五分＝の＝四｜と｜いたし｜まし｜た｜

公式の読み上げの類のうち「一分の～」という形のものも同様にあつかう。

【例】 ｜(F えっと)｜後続単語種類数分＝の＝先行単語頻度(Dんな)｜の｜関数｜

(7) 分割すると意味が不自然になるもの

【例】 ｜しかたが＝ない｜ ｜しょうが＝ない｜

参考 CSJの文節認定基準からの変更点

CSJの文節認定基準にあった以下の規定は削除した。

3. 7 体言連続の一部分が連体修飾語を受けている場合、その部分の後で切る。
【例】 | 項構造の | 曖昧性 || 解消を | 実現しました |
ただし、つぎにあげる語がついた場合は切り離さない。
以降 間 (かん) ごと 自体 達
【例】 | 発展の | 方は | 文章の | 途中=以降で |
3. 11 2文節以上から成る形式全体を受ける、若しくはそれに掛かる接辞及び体言的な形式は、その前後で切る。
【例】 | 更に | キャンセルボタンや | 再実行 || 等 (? の) | ボタン等の |
| カバーの | 質 | カバーの | カバー率 || 共 | (F えー) | より |
| 基本周波数パターンが | (F えー) | への | 字 || 型と | なる | 区間を |
| 森首相の | 神の | 国 || 発言と | その | 波紋 |
それが結び付ける要素の両方又はいずれかが2文節以上である「対」も同様に扱う。
【例】 | 星野監督 | 率いる | 阪神 || 対 || 今年の | 覇者 | 巨人 |

この改定に伴い、上記の各例は、次に示すように文節が認定される。

《規定3. 7》

【例】 | 項構造の | 曖昧性=解消を | 実現しました |

※ 以下の例については、変更はない。

| 発展の | 方は | 文章の | 途中=以降で |

《規定3. 11》

【例】 | 更に | キャンセルボタンや | 再実行=等 (? の) | ボタン等の |
カバーの	質	カバーの	カバー率=共	(F えー)	より
基本周波数パターンが	(F えー)	への	字=型と	なる	区間を
森首相の	神の	国=発言と	その	波紋	

※ 以下の例については、文節認定を変更しないこととする。

| 星野監督 | 率いる | 阪神 || 対 || 今年の | 覇者 | 巨人 |

付録 5.1 複合辞・助詞相当句

代表形	代表表記	品詞／その他の情報 1／ その他の情報 3	異形態
トイウ	という	助詞／格助詞／連語	ていう
トイッタ	といった	助詞／格助詞／連語	(っ) ていった
トカイウ	とかいう	助詞／格助詞／連語	
トシテ	として	助詞／格助詞／連語	としちゃ (「としては」の融合形)
トシマシテ	としまして	助詞／格助詞／連語	
トイタシマシテ	といたしまして	助詞／格助詞／連語	
ニアタッテ	にあたって	助詞／格助詞／連語	にあたちちゃ (「にあたっては」の融合形)
ニアタリマシテ	にあたりまして	助詞／格助詞／連語	
ニアタリ	にあたり	助詞／格助詞／連語	
ニオイテ	において	助詞／格助詞／連語	においちや (「においては」の融合形)
ニオキマシテ	におきまして	助詞／格助詞／連語	
ニオケル	における	助詞／格助詞／連語	
ニカケテハ	にかけては	助詞／格助詞／連語	にかけちゃ (「にかけては」の融合形)
ニカンシ	に関し	助詞／格助詞／連語	
ニカンシテ	に関して	助詞／格助詞／連語	に関しちゃ (「に関しては」の融合形)
ニカンシマシテ	に関しまして	助詞／格助詞／連語	
ニカンスル	に関する	助詞／格助詞／連語	
ニカンシマス	に関します	助詞／格助詞／連語	
ニサイシ	に際し	助詞／格助詞／連語	
ニサイシテ	に際して	助詞／格助詞／連語	
ニサイシマシテ	に際しまして	助詞／格助詞／連語	
ニタイシ	に対し	助詞／格助詞／連語	
ニタイシテ	に対して	助詞／格助詞／連語	に対しちゃ (「に対しては」の融合形)
ニタイシマシテ	に対しまして	助詞／格助詞／連語	
ニタイシマシテ	に対しまして	助詞／格助詞／連語	
ニツイテ	について	助詞／格助詞／連語	についちゃ (「については」の融合形)
ニツキ	につき	助詞／格助詞／連語	
ニツキマシテ	につきまして	助詞／格助詞／連語	につきましちゃ (「につきましては」の融合形)
ニトッテ	にとつて	助詞／格助詞／連語	にとっちゃ
ニトリマシテ	にとりまして	助詞／格助詞／連語	
ニヨッテ	によって	助詞／格助詞／連語	によっちゃ (「によっては」の融合形)
ニヨリマシテ	によりまして	助詞／格助詞／連語	
ニヨリ	により	助詞／格助詞／連語	
ニヨリマス	によります	助詞／格助詞／連語	
ヲモチマシテ	をもちまして	助詞／格助詞／連語	
ヲモッテ	をもって	助詞／格助詞／連語	
ヲモチマシテ	をもちまして	助詞／格助詞／連語	
デモッテ	でもって	助詞／格助詞／連語	
ニアッテハ	にあつては	助詞／格助詞／連語	にあっちゃ (「にあつては」の融合形)

※1 「にかけては」「にあつては」は、助詞「は」を伴った形のみを助詞相当句として扱う。したがって、以下の例は助詞相当句とはしない。

｜総理大臣という｜立場に｜あつて｜
｜この｜ような｜状況下に｜あつても｜

なお、代表形が「は」を伴わない形で示されているものについては、長単位では、その助詞相当句と助詞「は」とを切り離すことになる。ただし、文節では一続きのものとして扱う。

長単位：｜文部科学省｜において||は|
文節：｜文部科学省 において は|

※2 「において」など代表形が「は」を伴わない形で示されているものの末尾の助詞「て」と助詞「は」とが融合した場合は、長単位においても融合形全体で1長単位となる。

長単位：｜文部科学省｜においちや｜

付録5.2 複合辞・助動詞相当句

代表形	代表表記	品詞／その他の情報3	異形態
デアル	である	助動詞／連語	
デゴザイマス	でございます	助動詞／連語	
ノダ	のだ	助動詞／連語	んだ
ノデアル	のである	助動詞／連語	んである
ノデス	のです	助動詞／連語	んです
ノデゴザイマス	のでございます	助動詞／連語	んでございます
デナイ	でない	助動詞／連語	
デハナイ	ではない	助動詞／連語	じゃない
デハアリマセン	ではありません	助動詞／連語	じゃありません
デハゴザイマセン	ではございません	助動詞／連語	じゃございません
ノデハナイ	のではない	助動詞／連語	のではない
		助動詞／連語	のじゃない
		助動詞／連語	んではない
		助動詞／連語	んじゃない
ノデハアリマセン	のではありません	助動詞／連語	
デモイイ	てもいい	助動詞／連語	ていい
		助動詞／連語	たっていい
デモヨロシイ	てもよるしい	助動詞／連語	
デホシイ	てほしい	助動詞／連語	
デハイケナイ	てはいけない	助動詞／連語	ちゃいけない
デハイケマセン	てはいけません	助動詞／連語	ちゃいけません
デハナラナイ	てはならない	助動詞／連語	ちゃならない
	てはなりません	助動詞／連語	てはならぬ
		助動詞／連語	ちゃならぬ
ナイトイケナイ	ないといけない	助動詞／連語	ないとイケぬ
ナイトイケマセン	ないといけません	助動詞／連語	
ナケレバイケナイ	なければいけない	助動詞／連語	なきゃいけない
		助動詞／連語	なけりゃいけない
ナケレバイケマセン	なければいけません	助動詞／連語	なきゃいけません
ナケレバナラナイ	なければならぬ	助動詞／連語	なきゃならない
		助動詞／連語	なきゃならぬ
		助動詞／連語	なけりゃならぬ
ナケレバナリマセン	なければなりません	助動詞／連語	なきゃなりません
ナクテハイケナイ	なくてはいけない	助動詞／連語	なくちゃいけない
ナクテハイケマセン	なくてはいけません	助動詞／連語	
ナクテハナラナイ	なくてはならない	助動詞／連語	なくちゃならない
ネバイケナイ	ねばいけない	助動詞／連語	ねばイケぬ
ネバナラナイ	ねばならない	助動詞／連語	ねばならぬ
ネバナリマセン	ねばなりません	助動詞／連語	
ザルヲエナイ	ざるを得ない	助動詞／連語	ざる得ない
ザルヲエマセン	ざるを得ません	助動詞／連語	
カモシレナイ	かもしれない	助動詞／連語	かもしんない
カモシレマセン	かもしれません	助動詞／連語	
カモワカラナイ	かもわからない	助動詞／連語	かもわかんない
		助動詞／連語	かもわからぬ
カモワカリマセン	かもわかりません	助動詞／連語	
テミル	てみる	助動詞／連語	
テモラウ	てもらう	助動詞／連語	
テモラエル	てもらえる	助動詞／連語	
テイタダク	ていただく	助動詞／連語	
テイタダケル	ていただける	助動詞／連語	
テヤル	てやる	助動詞／連語	
テアゲル	てあげる	助動詞／連語	
テクレル	てくれる	助動詞／連語	
テクダサル	てくださる	助動詞／連語	
テアル	てある	助動詞／連語	
テゴザイマス	でございます	助動詞／連語	
テイル	ている	助動詞／連語	
テイラッシャル	ていらっしゃる	助動詞／連語	
テオル	ておる	助動詞／連語	
テシマウ	てしまう	助動詞／連語	
テオク	ておく	助動詞／連語	
テイク	ていく	助動詞／連語	
テマイル	てまいる	助動詞／連語	
テイケル	ていける	助動詞／連語	
テクル	てくる	助動詞／連語	
テマイル	てまいる	助動詞／連語	

第6章 要注意語

「― が 〜」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
568	アメガシタ 天が下	名詞			
660	アラシガオカ 嵐が丘	名詞 映画タイトル、書名。 映画「嵐が丘」に付けた音楽がCD化された。			
569	カリガネ 雁が音	名詞			
570	キミガヨ 君が代	名詞 『岩波国語辞典』になし。			
571	ケンガミネ 剣が峰	名詞			
572	タカマガハラ 高天が原	名詞			
573	ホラガトウゲ 洞が峠	名詞			
574	マンガイチ 万が一	名詞			
【万が一】リプレイハズシに失敗した場合					

「― の 〜」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
----	-------------	----------	---------	----	-----

- 315 アイノコ 名詞
合の子
- 316 アイノテ 名詞
合の手
- 317 アカノマンマ 名詞
赤の飯
- 291 アサノハ 名詞
麻の葉
【麻の葉】とか七宝とか
- 292 アジノモト 名詞
味の素
『岩波国語辞典』になし。
アジシオとか【味の素】、タバスコなどを
- 318 アトノマツリ 名詞
後の祭り
- 319 アマノガワ 名詞
天の川
別るるや夢一筋の【天の川】
- 320 アマノジャク 名詞
天の邪鬼
- 321 アマノハラ 名詞
天の原
- 322 アリトウ 名詞
蟻の塔
- 293 アリノママ 名詞
有りの儘
【ありのまま】のわんこを撮り続けて行きたい
- 323 アンノジョウ 名詞
案の定
【案の定】品切れで手に入りにくく、

324 イエノコ 名詞
家の子

自分の【家の子】を当てると言うもの。

325 イキノネ 名詞
息の根

たちどころに襲われて【息の根】をとめられる

326 イタノマ 名詞
板の間

327 イチノゼン 名詞
一の膳

328 イチノトリ 名詞
一の酉

329 イノフ 名詞
胃の腑

330 ウオノメ 名詞
魚の目

331 ウシノヒ 名詞
丑の日

332 ウソノカワ 名詞
嘘の皮

333 ウチノヒト 名詞
内の人

334 ウノケ 名詞
兎の毛

335 ウノハナ 名詞
卯の花

楽浪の志賀の【卯の花】腐しかな

336 ウマノアシ 名詞
馬の足

337 ウマノホネ 名詞
馬の骨

どこの【馬の骨】ともわからないような

338 ウミノオヤ 名詞
産みの親

339 ウミノコ 名詞
産みの子

340 ウワノソラ 名詞
上の空

皆がわいわい言っている言葉を【上の空】で聞いていた。

341 ウンノツキ 名詞
運の尽き

342 エノアブラ 名詞
往の油

294 エノグ 名詞
絵の具

白いエナメル【絵の具】で議員名を記す。

343 エンノシタ 名詞
縁の下

【縁の下】の力持ち登場！

344 オクノイン 名詞
奥の院

345 オクノテ 名詞
奥の手

346 オシエノニワ 名詞
教えの庭

347 オチャノコ 名詞
お茶の子

348 オテモノ
お手の物 名詞

295 オトコノコ
男の子 名詞

天主の人らは【男の子】が出来た時だけ、

349 オノエ
尾の上 名詞

296 オモイノタケ
思いの丈 名詞

自由に【思いの丈】を書ける

297 オモイノホカ
思いの外 名詞

【思いのほか】落ち込む曲が多いと思ったし

298 オンナノコ
女の子 名詞

可愛い【女の子】と文通してみたいなあ。

350 オンノジ
御の字 名詞
「ありがたい」「しめたものだ」の意。

351 カイノクチ
貝の口 名詞

352 カギノテ
鉤の手 名詞

353 カゴノトリ
籠の鳥 名詞

354 カジノキ
梶の木 名詞

355 カズノコ
数の子 名詞

356	カゼノカミ 風の神	名詞
357	カゼノコ 風の子	名詞
358	カゼノタヨリ 風の便り	名詞
359	カタノゴトク 型の如く	名詞
360	カノコ 鹿の子	名詞
361	カバノキ 樺の木	名詞
362	カミノキ 紙の木	名詞
300	カミノク 上の句ば	名詞
299	カミノケ 髪の毛	名詞 『岩波国語辞典』になし。 あんなに【髪の毛】がワッサワッサしてたら
363	カメノコ 亀の子	名詞
364	カメノコウ 亀の甲	名詞
365	カモノハシ 鴨の嘴	名詞
366	カリノヨ 仮の世	名詞

- 367 カンノキ
貫の木 名詞
- 368 カンノムシ
瘡の虫 名詞
- 369 キタノカタ
北の方 名詞
- 370 キタノマル
北の丸 名詞
『岩波国語辞典』になし。

371 キノカシラ
木の頭 名詞

372 キノクスリ
気の薬 名詞

373 キノジ
喜の字 名詞

301 キノドク
気の毒 名詞

他の人たちは、【気の毒】だが

374 キノミ
木の実 名詞
『岩波国語辞典』になし。

十月の草原で、【木の実】のかおりをかぎながら

302 キノメ
木の芽 名詞
サンショウの芽の意。

【木の芽】を何か乗せると

375 キノヤマイ
気の病 名詞

376 グウノネ
ぐうの音 名詞

【ぐうの音】もでなかった。

377 クサノイオリ 名詞
草の庵

378 クサノネ 名詞
草の根

【草の根】主義の成果だ

379 クチノハ 名詞
口の端

380 クビノザ 名詞
首の座

381 クマノイ 名詞
熊の胆

662 クマノミ 名詞
熊之実

ツノダシチョウウオ【クマノミ】その他色々

382 クモノウエ 名詞
雲の上

383 クモノミネ 名詞
雲の峰

【雲の峰】ほどの思ひの我にあらば

384 コウノモノ 名詞
香の物

385 コウノモノ 名詞
剛の者

386 コシノモノ 名詞
腰の物

387 コトノオ 名詞
琴の緒

388 コトノハ 名詞
言の葉

【言の葉】のびらびら降れば

- 389 コトノホカ 名詞
殊の外
桜を【ことのほか】好きだったように思います。
- 303 コノシタ 名詞
木の下
桜散る【このした】風はさむからで
- 390 コノハ 名詞
木の葉
主な食べ物は、【木の葉】や果実である。
- 391 コノマ 名詞
木の間
【木の間】をビューッと吹き抜け。
- 392 コノミ 名詞
木の実
植物は熟した【木の実】を必ず水の中に落とし
- 393 コノメ 名詞
木の芽
- 394 サイノカワラ 名詞
賽の河原
- 395 サイノメ 名詞
采の目
クリームチーズを【さいの目】に切って
- 396 サキノヒ 名詞
先の日
【先の日】に声をかけていただいた
- 397 サルノコシカケ 名詞
猿の腰掛
- 398 サンノゼン 名詞
三の膳

399 サントリ
三の酉 名詞

400 サンノマル
三の丸 名詞

401 シナノキ
科の木 名詞

402 シノハイ
死の灰 名詞

304 シモノク
下の句 名詞

【下の句】が説明的で、

403 ジャノヒゲ
蛇の髭 名詞

404 ジャノメ
蛇の目 名詞

405 ジョノクチ
序の口 名詞

406 シラベノオ
調べの緒 名詞

407 スエノヨ
末の世 名詞

【末の世】のかなしき麦を打ちにけり

661 スズカケノキ
篠懸の木 名詞

408 スノコ
簀の子 名詞

409 スノモノ
酢の物 名詞

【酔の物】として食べるのが定番

- | | | |
|-----|-------------------|----|
| 410 | セキノヤマ
関の山 | 名詞 |
| 411 | セノキミ
兄の君 | 名詞 |
| 412 | ソデノシタ
袖の下 | 名詞 |
| 413 | ダイノジ
大の字 | 名詞 |
| 414 | タケノコ
竹の子 | 名詞 |
| 415 | タコノキ
蛸の木 | 名詞 |
| 416 | タツノオトシゴ
竜の落とし子 | 名詞 |
| 417 | タノモ
田の面 | 名詞 |
| 418 | タビノソラ
旅の空 | 名詞 |
| 419 | タマノアセ
玉の汗 | 名詞 |
| 420 | タマノオ
玉の緒 | 名詞 |
| 421 | タマノコシ
玉の輿 | 名詞 |

求婚されて【玉の輿】に乗るのです

422 タラノキ 名詞
たらの木

423 タラノコ 名詞
鱈の子

424 チノアメ 名詞
血の雨

425 チノイケ 名詞
血の池

426 チノウミ 名詞
血の海

自動車の中は【血の海】で、どこもかしこも粘っていた

427 チノケ 名詞
血の気

ハリファの顔から【血の気】が失せた。

428 チノナミダ 名詞
血の涙

429 チノミチ 名詞
血の道

430 チノメグリ 名詞
血の巡り

431 チノリ 名詞
地の利

あの【地の利】で、他と比べて一番安い駐車場

432 チノワ 名詞
茅の輪

たましひのかたちを想ふ【茅の輪】かな

433 チャノコ 名詞
茶の子

- | | | | |
|-----|----------------|----|-------------------------|
| 305 | チャノマ
茶の間 | 名詞 | |
| | | | 高度成長期の【茶の間】を再現。 |
| 434 | チャノユ
茶の湯 | 名詞 | |
| | | | 【茶の湯】のたしなみのない人もその風流な雰囲気 |
| 435 | ツカノマ
東の間 | 名詞 | |
| | | | 【東の間】の船長気分を堪能。 |
| 436 | ツキノカツラ
月の桂 | 名詞 | |
| 437 | ツキノサワリ
月の障り | 名詞 | |
| 438 | ツギノマ
次の間 | 名詞 | |
| 439 | ツキノモノ
月の物 | 名詞 | |
| 440 | ツキノワ
月の輪 | 名詞 | |
| 441 | ツラノカワ
面の皮 | 名詞 | |
| 442 | デクノボウ
木偶の坊 | 名詞 | |
| 443 | テツノハイ
鉄の肺 | 名詞 | |
| 444 | テノウチ
手の内 | 名詞 | |
| 445 | テノウラ
手の裏 | 名詞 | |

446 テノコウ 名詞
手の甲

ほお紅下地を【手の甲】に取り

447 テノスジ 名詞
手の筋

448 テノヒラ 名詞
掌

【掌】で包んだ湯飲みを見つめ、

449 テノモノ 名詞
手の者

450 テノモノ 名詞
手の物

451 ドウノマ 名詞
胴の間

452 トキノコエ 名詞
関の声

453 トキノマ 名詞
時の間

454 トコノマ 名詞
床の間

正面の【床の間】を背にして座った白鳥医師を中心に、

455 トシノイチ 名詞
年の市

456 トシノウチ 名詞
年の内

457 トシノクレ 名詞
年の暮れ

この【年の暮れ】にGCSB職員が

458 トシノコウ 名詞
年の功

さすが【年の功】、誌面にしっくりなじんでいる。

459 トシノセ 名詞
年の瀬

【年の瀬】も押し詰まったこの時期の

460 トチノキ 名詞
栃の木

461 トドノツマリ 名詞
とどの詰まり

【とどのつまり】、デュプレは職を失った。

462 トノコ 名詞
砥の粉

463 トノモ 名詞
外の面

464 トビノウオ 名詞
飛びの魚

465 トビノモノ 名詞
鳶の者

466トラノオ 名詞
虎の尾

467 トラノコ 名詞
虎の子

41兆円の【虎の子】の税金からいただくのだ。

468 トラノマキ 名詞
虎の巻

469 トリノイチ 名詞
酉の市

470 トリノコ 名詞
鳥の子

471 トリノマチ 名詞
酉の待

472 ナカノクチ 名詞
中の口

473 ナカノマ 名詞
中の間

宴会に備えての準備を指図して【中の間】に入り

474 ナキノナミダ 名詞
泣きの涙

475 ナゴリノツキ 名詞
名残の月

476 ナナツノウミ 名詞
七つの海

477 ナノハナ 名詞
菜の花

ゴールデンウィークは【菜の花】、桜が見頃。

478 ナミノハナ 名詞
波の花

479 ナミノホ 名詞
波の穂

480 ナレノハテ 名詞
成れの果て

481 ニシノウチ 名詞
西の内

482 ニノアシ 名詞
二の足

開発には【二の足】を踏んだかもしれない

483 ニノウデ 名詞
二の腕

たかの友梨に行って美しい【二の腕】に仕上げなきゃ

484 ニノカワリ 名詞
二の替わり

485 ニノク 名詞
二の句

486 ニノゼン 名詞
二の膳

487 ニノツギ 名詞
二の次

488 ニノトリ 名詞
二の酉

489 ニノマイ 名詞
二の舞

父の【二の舞い】にならないとは限らない。

490 ニノマル 名詞
二の丸

491 ニノヤ 名詞
二の矢

306 ネンノタメ 名詞
念の為

【念のため】にここまでお供いたしました

492 ノチノヨ 名詞
後の世

【後の世】に逢はば二本の氷柱かな

493 ノミノイチ 名詞
蜚の市

494 バケノカワ 名詞
化けの皮

495 ハチノアタマ 名詞
蜂の頭

496 ハチノコ 名詞
鉢の子

497 ハチノス 名詞
蜂の巣

498 ハツヒノデ 名詞
初日の出

499 ハラノムシ 名詞
腹の虫

500 ハリノキ 名詞
榛の木

501 ハンノキ 名詞
榛の木

502 パンノキ 名詞
パンの木

503 ヒノイリ 名詞
日の入り

【日の入り】時間のチェックをお忘れなく。

504 ヒノクルマ 名詞
火の車

お隣りは外車で我が家【火の車】

505 ヒノケ 名詞
火の気

【火の気】のないテントの中は寒く、

506 ヒノコ 名詞
火の粉

507 ヒノタマ 名詞
火の玉

508 ヒノテ 名詞
火の手

307 ヒノデ 名詞
日の出

【日の出】を迎えることができた。

509 ヒノバン 名詞
火の番

510 ヒノマル 名詞
日の丸

ロビーに【日の丸】を掲げるように要求した

511 ヒノミ 名詞
火の見

512 ヒノメ 名詞
日の目

【日の目】を見なかったかつての極秘文書をベースに

513 ヒノモト 名詞
日の本

514 ヒノモト 名詞
火の元

515 フキノトウ 名詞
蔭の臺

516 フクノカミ 名詞
福の神

家族は「素行の悪い、【福の神】」と呼んでいる

517 フシノキ 名詞
五倍子の木

518 ヘソノオ 名詞
臍の緒

第一の誕生の際に【臍の緒】の代わりとなった母乳は、

519 ホオノキ 名詞
朴の木

520 ホソノオ 名詞
臍の緒

521 ホトケノザ 名詞
仏の座

522 ホノジ 名詞
ほの字
『岩波国語辞典』になし。

523 ボンクボ 名詞
盆の窪

524 マクノウチ 名詞
幕の内

525 マゴノテ 名詞
孫の手

526 マタノナ 名詞
又の名

527 マタノヒ 名詞
又の日

528 マツノウチ 名詞
松の内

308 マノアタリ 名詞
目の当たり

現実を【目の当たり】にしていたのである

529 ミズノアワ 名詞
水の泡

530 ミズノテ 名詞
水の手

531 ミチノベ 名詞
道の辺

532 ミナノシュウ 名詞
皆の衆

309 ミノウエ 名詞
身の上

いまひとつ役割に恵まれない【身の上】を、

533 ミノケ 名詞
身の毛

534 ミノシロ 名詞
身の代

【身の代】金目的略取等、

535 ミノタケ 名詞
身の丈

310 ミノホド 名詞
身の程

人間は【身の程】を知るべきです

311 ミノマワリ 名詞
身の回り

われわれの【身のまわり】は、

536 ムカウノサト 名詞
無何有の郷

537 ムギノアキ 名詞
麦の秋

538 ムクノキ 名詞
棕の木

539 ムシノイキ 名詞
虫の息

540 ムスビノカミ 名詞
結びの神

312 メノカタキ 名詞
目の敵

伝統芸能まで【目の敵】にするような

541 メノコ 名詞
目の子

542 メノシタ 名詞
目の下

543 メノタマ 名詞
目の玉

二つの【目の玉】が飛び出してしもうての、

544 モチノキ 名詞
鵜の木

545 モツテノホカ 名詞
以ての外

「魚を裏返すなど【もってのほか】！」とエキサイト。

546 モノカズ 名詞
物の数

547 モノノグ 名詞
物の具

548 モノノケ 名詞
物の気

549 モノホン 名詞
物の本

550 ヤノジ 名詞
やの字

551 ヤノネ 名詞
矢の根

552 ヤブノナカ 名詞
藪の中

553 ヤマノイモ 名詞
山の芋

554 ヤマノカミ 名詞
山の神

555 ヤマノサチ 名詞
山の幸

313 ヤマノテ 名詞
山の手

【山の手】の閑静な雰囲気漂わせている

556 ヤマノハ 名詞
山の端

ビルのかなたの【山の端】

557 ユキノシタ 名詞
雪の下

558 ユノハナ 名詞
湯の花

559 ヨイノクチ 名詞
宵の口

560 ヨノギ 名詞
余の儀

561 ヨノツネ 名詞
世の常

314 ヨノナカ 名詞
世の中

【世の中】で色々なことが起きている

562 ヨノナライ 名詞
世の習い

563 ヨノメ 名詞
夜の目

564 リュウノヒゲ 名詞
竜の鬚

565 ロウノキ 名詞
蠟の木

566 ワキノシタ 名詞
脇の下

体温計は、耳式と通常の【脇の下】や舌先で測定できる

567 ワタノハラ 名詞
海原

助詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
158	イ い	助詞	終助詞	活用語には終止形、命令形	
	「一緒に来るか【い】」 あとをつけているんだ【い】？ ほう、そうか【い】。これは恐れ入りました。				
159	カ か	助詞	副助詞	活用語には終止形、助動詞「べし」 には連体形	
	何と【か】ならないものだろうか。 文化的な背景と【か】、 本物【か】どう【か】の疑問が残る。				
160	カ か	助詞	終助詞	活用語には終止形、ただし助動詞 「べし」には連体形。 /か/い[終助詞]/、/か/な[終助詞]/、/か/も[副助詞]/	

【か】と言って、相手の言いなりになって
 チョウチョ【か】な？
 配合がうまくいったの【か】も。

- | | | | | | |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------|----|------|----------|-----|
| 161 | ガ
が | 助詞 | 格助詞 | | |
| 162 | ガ
が | 助詞 | 接続助詞 | 活用語には終止形 | |
| | 認定委員会【が】認めた | | | | |
| | 印象しかないんだろう【が】、
だ【が】東欧加盟の見通しは険しい。 | | | | |
| 163 | カシラ
かしら | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 | |
| 164 | カシラ
かしら | 助詞 | 終助詞 | 活用語には終止形 | |
| | 何【かしら】の情報はつかめるし、
どのくらい変わっている【かしら】？
なにをしようとしているの【かしら】？ | | | | |
| 165 | カラ
から | 助詞 | 格助詞 | | |
| 166 | カラ
から | 助詞 | 接続助詞 | 活用語には終止形 | |
| | その動機【から】して
それ【から】もう一人、
だ【から】、肌にうるおいも出てきます。
此処を真如堂と言う【から】には
仲介に乗り出す【から】 | | | | |
| 167 | キリ
きり | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 | ツキリ |
| | あれ【つきり】、旅宿中は、
二人【きり】になりたいとか思って、
寝た【きり】の状態でありながら | | | | |
| 168 | クライ
くらい | 助詞 | 副助詞 | 活用語には連体形 | グライ |
| | どの【くらい】効果があるの？
目標は25位としていた【くらい】だから、
選挙区が三十八万人【ぐらい】いて、 | | | | |
| 169 | ケ
け | 助詞 | 終助詞 | 活用語には終止形 | ツケ |
| | えーと誰だ【つけ】 | | | | |

フォールの操作はどうだった【っけ】？

- 170 ケレド
けれど
助詞 接続助詞 活用語には終止形 ケド
/けれど/も[副助詞]/、/けど/も[副助詞]/
私は質問を避けません【けれど】も、
最近買ったわけではない【けど】
部門にもよるだろう【けど】も、
- 171 コソ
こそ
助詞 副助詞
世界にも例のないほどの多雨【こそ】が、
スクリーンへよう【こそ】
- 172 サ
さ
助詞 終助詞 活用語には終止形
今日の午後持ってくるから【さ】。
見事当選しましたと【さ】
- 173 サエ
さえ
助詞 副助詞
ストロボ位置【さえ】連動範囲を保てば、
楽しみのひとつで【さえ】ある。
- 174 サカイ
さかい
助詞 接続助詞 活用語には終止形
方言
- 175 シ
し
助詞 接続助詞 活用語には終止形
かむと味がある【し】、腹もちもいい。
自覚していた【し】、
- 176 シカ
しか
助詞 副助詞 活用語には終止形
まだ47名の合格者【しか】いない。
海底1万mの間ぐらいに【しか】
- 177 シモ
しも
助詞 副助詞
誰【しも】すぐ思い浮べるのは
必ず【しも】現実的とはいえない
なきに【しも】あらずだったように思います
- 178 ズツ
ずつ
助詞 副助詞
ひとり【ずつ】洗顔し、素顔の状態で測定。

少し【ずつ】慣れて、最後は40分に短縮できた。

- | | | | | | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|----|-----|----------|------|
| 179 | スラ
すら | 助詞 | 副助詞 | | |
| | 駆け出しの若い指揮者たち【すら】、
包囲網は狭まりつつある感【すら】ある。 | | | | |
| 180 | ぜ
ぜ | 助詞 | 終助詞 | 活用語には終止形 | |
| | 起きて準備して出掛けよう【ぜ】！ | | | | |
| 181 | ゾ
ぞ | 助詞 | 副助詞 | | |
| | 知る人【ぞ】知る、フレンチの隠れた名店
これ【ぞ】わが社のUD商品 | | | | |
| 182 | ゾ
ぞ | 助詞 | 終助詞 | 活用語には終止形 | |
| | 誇り高き福溝一族の末裔だ【ぞ】！ | | | | |
| 183 | ダケ
だけ | 助詞 | 副助詞 | 活用語には連体形 | |
| | できる【だけ】自然な言語生活を示すように
医療機関を選択するときには有用な【だけ】でなく、
給付水準の調整【だけ】でも早めに終え、 | | | | |
| 184 | タツテ
たつて | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 | ツタツテ |
| | どんなにくやしがっ【たつて】、
安く【たつて】キュートで優秀なコスメがいっぱい！
すぐしろ【たつて】 | | | | |
| 185 | タラ
たら | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 | ツタラ |
| | いやだー、先生【ったら】。
何【たら】プリンターというのが | | | | |
| 186 | タラ
たら | 助詞 | 終助詞 | 活用語には終止形 | ツタラ |
| | もういい【ったら】 | | | | |
| 187 | タリ
たり | 助詞 | 副助詞 | 連用形 | |
| | 下を向い【たり】、涙を流し【たり】するのに、
日本でミュージカルの話題になっ【たり】すると、 | | | | |

188	ツ つ	助詞	副助詞	連用形	ズ
		抜き【つ】抜かれ【つ】の関係だったんですが 組ん【ず】ほぐれ【つ】			
189	ツツ つつ	助詞	接続助詞	連用形	
		『補闕記』『伝暦』を念頭に置き【つつ】、 資産デフレ対策を短期的に打ち【つつ】、			
190	ツテ って	助詞	副助詞	活用語には終止形	テ
		やつが戻ってきたらおれが何【て】言うか 腰が痛い〜【って】言ってた。 阪神【って】チームは			
191	テ て	助詞	接続助詞	連用形	
		彼女をどうし【て】も許すことができなかった。 音とし【て】もラグに新しい世界を与えましたよね。 人工酵素の開発が進ん【で】いる			
192	デ で	助詞	格助詞		
		それ【で】日記に書いていたのであるが、 ところ【で】なんで卓球部だったの？ 衆院本会議【で】所信表明演説に立つ小泉首相			
193	デ で	助詞	接続助詞	文語の活用語の未然形	
		文語 3Dなら【で】はの表現を生かして			
194	ト と	助詞	格助詞		ット
		前接の活用語の活用形を連体形とするのは、助動詞「だ」など終止形と連体形と で語形が異なる場合のみ。 派遣指導員【と】いう形で 山風にはらはら【と】紅葉が舞った後			
195	ト と	助詞	接続助詞	終止形	ット
		チャーハンやとろろ丼にする【と】 誰が何をいおう【と】ダメです！			
196	ドコロ どころ	助詞	副助詞	活用語には連体形	
		それ【どころ】か子どもたちはいつも 月【どころ】か星も見えない。			

197	トモ とも	助詞	接続助詞	動詞・動詞型活用の助動詞の終止形、形容詞・形容詞型活用の助動詞の連用形	
		今の日本円で少なく【とも】六億円 二〇〇四年度中に多少なり【とも】			
198	ナ な	助詞	終助詞	活用語には終止形	ナア
		なるほど、こうすれば、いいんだ【な】。 前転はスポーツか【なあ】 時間につぶされる【な】、			
199	ナガラ ながら	助詞	接続助詞	連用形	
		残念【ながら】現代人のなかには、 しかし【ながら】、表1は仮想的な推計に過ぎません。 これからは試合を生で見【ながら】、			
200	ナゾ なぞ	助詞	副助詞		
		友達の友達【なぞ】は酔っぱらって			
201	ナド など	助詞	副助詞	活用語には終止形	
		十年債【など】に集中する			
202	ナラ なら	助詞	副助詞		
203	ナリ なり	助詞	副助詞		
		撫でつける【なり】なん【なり】できるでしょう。 きちんとした法律【なり】条例【なり】を			
204	ナリ なり	助詞	接続助詞	活用語には終止形	
		クルマに乗る【なり】話しかけた。			
205	ナンカ なんか	助詞	副助詞		
		「なにか」の転 太って【なんか】ないじゃないですか			
206	ナンテ なんて	助詞	副助詞	活用語には終止形	
		「などと」の転			

自分に話したいこと【なんて】、
魚がこんなに勢いよく暴れる【なんて】！

207 ニ
に 助詞 格助詞 活用語には終止形

適正値を得る【に】はまずシャッター速度を
ランク【に】については行列の教科書を参照
実際【に】は所管官庁OBの天下りも多い。

208 ネ
ね 助詞 終助詞 活用語には終止形 ネエ

よく泊めてくれますよ【ね】

209 ノ
の 助詞 格助詞 活用語には連体形 シ

ここ【ん】とこの解き方、
薫製だ【の】煮込み料理だ【の】を食べたいかといったら

210 ノ
の 助詞 準体助詞 活用語には連体形 シ

手がかりを教えられてきた【の】である。
いったいどれだけバットを振ってきた【の】か
バランスをとる【の】に役立っているようだ。

211 ノ
の 助詞 終助詞 活用語には連体形 シ

優勝セールをしていて、こんなのいつ着る【の】？

212 ノミ
のみ 助詞 副助詞 活用語には連体形

米国が多者会談に【のみ】固執するなら、

213 ハ
は 助詞 係助詞

米国が多者会談に【のみ】固執するなら、

214 バ
ば 助詞 接続助詞

浴衣風に着れ【ば】街着っぽく。

215 バカリ
ばかり 助詞 副助詞 活用語には連体形 バッカリ

笑みを浮かべる【ばかり】だった。
ことさら強調したい【ばかり】に

216	へ へ	助詞	格助詞		
				翌日からすぐに、ふだんの食事【へ】戻りました。	
217	ホド ほど	助詞	副助詞	活用語には連体形	
				先【程】より一人増えている。 それ【ほど】難しいとは感じない。 でんこちゃんのなる【ほど】省エネ！	
218	マデ まで	助詞	副助詞	活用語には連体形	
				被写体【まで】の距離が これほど【まで】に歴史の痕跡が、 12月末【まで】の予定だったが、	
219	モ も	助詞	副助詞		
				二十代と言って【も】おかしくない 「イラク難民」とは言うけれど【も】、	
220	モノ もの	助詞	終助詞	活用語には連体形	
				おのれ風情に偽りなんぞいう【もん】か。 太平洋戦争中も漫画を描き続けた人です【もの】。	
221	ヤ や	助詞	副助詞		
				金融機関から債券【や】手形を買い、 またも【や】ハッサニは半翳りの微笑を 「りそな国有化」でさらに下落かと思いき【や】、	
222	ヤ や	助詞	終助詞	活用語には終止形	
				どうにかすればいい【や】、と思っているだけだ。	
223	ヤラ やら	助詞	副助詞		
				どう【やら】画期的な疱疹予防法である おかしい【やら】、懐かしい【やら】。	
224	ヨ よ	助詞	終助詞	終止形・命令形	ヨウ
				もっとしっかりしろ【よ】」といっても、 打ち方をしていないからかもしれません【よ】。	

225 ヨリ 助詞 格助詞 活用語には連体形
より

何【より】の証拠だ。
現状【より】はるかに大量に買い入れる
日本【よ】かストレスが溜まる

226 ワ 助詞 終助詞 活用語には終止形
わ

構わない【わ】よ、
俺にしがみついてくる【わ】、乗っかってくる【わ】で、

227 フ 助詞 格助詞
を

手拭いで手【を】ふきながら、
やむ【を】得ずフリーターをしている若者たち

助動詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
----	-------------	----------	---------	----	-----

249 ウ 助動詞 口語型 五段・形容詞・助動詞「だ」の未然形
う
意志・推量
共同の仲間と一緒にやろ【う】という態勢を作って
どういう感情を持つだろ【う】か

267 ウズ 助動詞 文語型 未然形
うず
意志・推量

270 キ 助動詞 文語型 連用形
き
過去・完了
アイドルセイントフォーのような映画かと思い【き】や
あり【し】日の祖父の話をするようになって

271 ケリ 助動詞 文語型 連用形
けり
過去・完了
柚の実のかたえは青く冬去りに【けり】

286 ゴトシ 助動詞 文語型 名詞+助詞「の」、代名詞+助詞「が」、連体形、連体形+助詞「の」
ごとし
比況
当然の【ごとく】座るんですね
怒とうの【ごとき】そのエネルギーに押されるように

229	サセル させる	助動詞 使役	口語型	五段・サ変以外の未然形	
		言葉を覚え【させ】たいんだと言って その友達に電話を掛け【さし】て いわゆる暗記とかを【させる】んじゃないくて			
244	ザマス ざます	助動詞 断定	口語型	体言	
		遊女語【ざます】と類似性があり			
289	ジ じ	助動詞 打ち消し推量	文語型	未然形	
		Jリーグに負け【じ】といろいろな改革を			
279	シム しむ	助動詞 使役	文語型	未然形	
230	シメル しめる	助動詞 使役	口語型	未然形	
		極論を言わ【しめ】ないよう			
238	ジャ じゃ	助動詞 断定	口語型	体言、連体形+助詞「の」、助動詞「べし」の連体形	
		今初めて読んでも何【じゃ】こりやって			
264	シャル しゃる	助動詞 尊敬	口語型	未然形	
		お行きやす行か【っしゃる】という助動詞としての			
247	ズ ず	助動詞 打ち消し	口語型	未然形	ぬ
		庶務的業務にも力も出せ【ず】にあまり興味も持たずに これが問題にならないように憲法を改め【ざる】を得ない訳です その子の病気は気管支炎ではありませ【ん】でした			
228	セル せる	助動詞 使役	口語型	五段・サ変の未然形	
		いわゆる暗記とかをさ【せる】んじゃないくて 期待に胸を膨らま【し】てて凄くわくわくした気持ちで			
248	タ た	助動詞 過去・完了	口語型	連用形	
		安く泊まりたいんだっ【たら】朝食は(D つ)(D つ)付けなくて 以前の病院とは違ってウイルスが全然出なかつ【た】ことを			

その部屋に何と駆け込ん【だ】んですね

- 239 **ダ**
だ 助動詞 口語型 体言, 連体形+助詞「の」, 助動詞「べし」の連体形
断定, いわゆる形容動詞及び形容動詞活用型の助動詞の活用語尾を含む。
予想されるところは眼前の評価【で】ありますし
ひょっとしたら難しいのかなというよう【な】ことも
近似的【に】やる手はあるんですけどもね
- 280 **タイ**
たい 助動詞 口語型 連用形
希望
待遇表現行動ということをこう考えてみ【たい】
電車賃をけちり【たかつ】たちゅうのが
- 235 **タガル**
たがる 助動詞 口語型 連用形
希望
寂しいところに旅に行き【たがる】傾向がありまして
O型は目立ち【たがり】屋A型は神経質
- 260 **タゲル**
たげる 助動詞 口語型 動詞の連用形
補助動詞縮約形, 「てあげる」の縮約形
ファックスで送っ【たげ】たりして
- 284 **タシ**
たし 助動詞 文語型 連用形
希望
- 276 **タリ**
たり 助動詞 文語型 体言
断定
フクロウの声は思想家【たら】しめる
酒造りは食文化の最【たる】もの。
確固【たる】信念による行動であったり
- 261 **タル**
たる 助動詞 口語型 動詞の連用形
補助動詞縮約形, 「てやる」の縮約形
殴っ【たっ】てんという風に
- 258 **チマウ**
ちまう 助動詞 口語型 動詞の連用形
補助動詞縮約形, 「てしまう」の縮約形
水蒸気か酸素どっちか取っ【ちまえ】ばいい
- 259 **チャウ**
ちやう 助動詞 口語型 動詞の連用形
補助動詞縮約形, 「てしまう」の縮約形
身振り手振りのコミュニケーションという感じになっ【ちゃっ】た
好きだった子が死ん【じゃう】かもっていう風に思ったのが

262	チャル ちやる	助動詞 補助動詞縮約形, 「てやる」の縮約形	口語型	動詞の連用形	
272	ツ っ	助動詞 過去・完了	文語型	連用形	
263	ツウ っう	助動詞 補助動詞縮約形, 「という」の縮約形 会社に何て言うの【っつつ】て どっちか【っつう】と派手な時計なんですね 当然ながら働く【っちゅう】意欲がそこに出てくるはずだ	口語型	動詞の連用形, 助動詞「べし」の連 体形	っつう・(っ) ちゅう
253	テク てく	助動詞 補助動詞縮約形, 「ていく」の縮約形 そっちのルートに持っ【てか】れた訳です 善福寺川に土手沿いに下り【てっ】て	口語型	動詞の連用形	
254	テケル てける	助動詞 補助動詞縮約形, 「ていける」の縮約形 調子悪くて連れ【てけ】ないということで	口語型	動詞の連用形	
240	デス です	助動詞 断定 三人しかいません【でし】て 写真で見てた風景という感じなん【でしょ】うか	口語型	体言, 連体形+助詞「の」, 終止 形, 助動詞「べし」の連体形	
252	テラッシャル てらっしゃる	助動詞 補助動詞縮約形, 「ていらっしゃる」の縮約形 隣り合わせの方も一人で参加し【てらっしゃい】ました 安全に心配なく住ん【でらっしゃる】ことと思います	口語型	動詞の連用形	
251	テル てる	助動詞 補助動詞縮約形, 「ている」の縮約形 社会的に問題になっ【て】ますけれども その時の印象として覚え【てる】のは 話し合いは済ん【で】たんですけれども	口語型	動詞の連用形	
255	トク とく	助動詞 補助動詞縮約形, 「ておく」の縮約形 予め申し上げ【とき】ますけれども 玄関の前に駐車させ【とい】て	口語型	動詞の連用形	
256	トケル とける	助動詞 補助動詞縮約形, 「ておける」の縮約形	口語型	動詞の連用形	

結局(F あの一)ほっ【とけ】ないというところで

241	ドス どす	助動詞 断定	口語型	体言, 連体形+助詞「の」, 助動詞「べし」の連体形
257	トル とる	助動詞 補助動詞縮約形, 「ておる」の縮約形 標準体重ということになっ【とり】まして	口語型	動詞の連用形
281	ナイ ない	助動詞 打ち消し よくある話題かもしれ【ない】んですけども 家を改造し【なきゃ】いけないとは	口語型	未然形
275	ナリ なり	助動詞 断定 浅草【なら】ではと思うのはですね	文語型	体言, 連体形
273	ヌ ぬ	助動詞 過去・完了 さもあり【な】んとの気にもなる 風と共に去り【ぬ】というミュージカルでした	文語型	連用形
246	ネン ねん	助動詞 断定 これは上方歌舞伎から出た言葉です【ねん】 曲が【ねん】かあっているのがある	口語型	終止形
243	ハル はる	助動詞 尊敬 京都が行か【はる】で大阪行きはるだっていう 京都奈良は大阪兵庫よりも【はる】敬語の使用が多い	口語型	未然形, 連用形
285	ベシ べし	助動詞 推量 策を練り行動す【べき】であると思いますが 働かざる者食う【べから】ずちゅう	文語型	終止形
269	ベラナリ べらなり	助動詞 推量	文語型	終止形, う変の動詞・う変型活用 の助動詞には連体形
283	マイ まい	助動詞 打ち消し意志・打ち消し推量 もう帰りのことは考え【まい】と振り切るようにして	口語型	五段の終止形, 五段以外には未然形

288	マジ まじ	助動詞 打ち消し推量	文語型	終止形、ラ変・形容詞・ラ変型活用 の助動詞には連体形
236	マス ます	助動詞 丁寧 足を取られて転倒したことがござい【ます】	口語型	連用形
265	ム む	助動詞 意志・推量 さもありな【ん】との気にもなる	文語型	未然形
268	メリ めり	助動詞 推量	文語型	終止形
245	ヤ や	助動詞 断定 だからなん【や】ねん。 へそくりはどうなる【やろ】か死んだ時	口語型	体言、連体形+助詞「の」、終止 形、助動詞「べし」の連体形
242	ヤス やす	助動詞 丁寧	口語型	連用形
250	ヨウ よう	助動詞 意志・推量 やっぱり出題をしてみ【よう】と思って	口語型	五段・形容詞・助動詞「だ」以外の 未然形
287	ラシ らし	助動詞 推量 治療【らしき】ものはなく 長男【らしから】ぬ気楽な人間なんです	文語型	ラ変・形容詞・ラ変型活用の助動 詞の連体形、それ以外には終止形
282	ラシイ らしい	助動詞 推量 ローマ人の町という意味【らしい】です 保育園の排水溝【らしき】ところかな	口語型	体言、形状詞、終止形
266	ラム らむ	助動詞 現在推量 印なく濡る【らん】袖を交わしつつ思うにひつる我も儚し	文語型	終止形
278	ラル らる	助動詞 受身・可能・自発・尊敬	文語型	未然形

234	ラレル られる	助動詞	口語型	五段・サ変以外の未然形
		受身・可能・自発・尊敬		
		それはもう日本人には考え【られ】ない贅沢な食事です 目の前で猫に食べ【られ】ちゃったんだけど		
274	リ り	助動詞	文語型	サ変の未然形, 四段の命令形
		完了・存続		
		大学院におけ【る】教育実習の在り方について考えたい 自分の持て【る】知識を全て総動員して		
277	ル る	助動詞	文語型	未然形
		受身・可能・自発・尊敬		
		泣くというては憎ま【るる】		
233	レル れる	助動詞	口語型	五段・サ変の未然形
		受身・可能・自発・尊敬		
		凄く看護婦さんとかに怒ら【れ】て 基礎練習ってのが非常に重要視さ【れ】ておりまして		
237	ンス んす	助動詞	口語型	四段・ナ変の未然形
		丁寧		
		とぼされるにはあき【んし】た		

接頭的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
1	アイ 相	接頭辞			
		「相」と1最小単位との結合体が名詞である場合は除く。(相=乗り, 相=討ち)			
		本書の他の論文と【相】まって、 カモフラ柄って【相】変わらず人気ですね。 東京の玄関とも言える地に昨年【相】次いで開業し			
2	才 御	接頭辞			
		次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[御足, お家(芸・流), お薄, おかか, お鏡, おかき, 御陰, おかず, お河童, おかま, 御上, おから, おかわ, お冠, 御髪, お好み(焼き), おこわ, お下げ(髪), 御座なり, おさぶ, おしっこ, おしめ, おじや, お釈迦, お洒落, お節, お宅, お尋ね(者), お多福, お陀仏, お玉, お手(上げ), おでき, お手の物, お転婆, お伽(話), お腹, お握り, お主, お褒しよ, お萩, お払い(箱), おひたし, お冷や, お袋, 御前, おまけ, おまる, お巡り, お目見え]			
		書き言葉と話し言葉は、【お】互いにとっても異なっています。 また新たな部屋になった時、もう一度【お】願います。 いつもは寡黙な【お】父さんが大活躍するのよ			

- 3 オン 御 接頭辞
次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[御曹司, 御大, 御身]
篤種公、【御】年、五十ノ冬
【御】礼申し上げます
- 4 カク 各 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(各=国, 各=地)
【各】ユニットが市松模様のように並ぶ構成が現れる。
【各】スロットにメモリーカードを入れ
- 6 ゴ 御 接頭辞
次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[御供(ごく), 御所, 御仁, 御神火, 御託, 御殿, 御飯, 御免, 御覧]
ジュンブランニングの【御】存じ
おゆるしのほどを…して、【御】用は？
- 5 コン 今 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(今=回, 今=度)
【今】プロジェクトの計画研究メンバー10人のうち
【今】シーズンは計約4トンの出荷を見込んでいる。
- 7 ショ 諸 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(諸=国, 諸=所)
【諸】届けとか融資など
- 8 ゼン 全 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(全=国, 全=社)
【全】キャリアおよび全機種に対応している。
- 9 タイ 対 名詞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(対=米, 対=人)
あらゆる書類や【対】マスコミ用の原稿が
「【対】北」世論が左右
- 10 ホン 本 接頭辞
「この」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(本件)
【本】ページの下を参照のこと。
【本】カレンダーは日本車両が25年以上の歴史を誇る
- 11 ミ 御 接頭辞
次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[大御, 御酒, 御簾, 御子, 御興, 御霊, 御幸]
【御】仏

接尾的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
13	アガリ 上がり	接尾辞 前にその職業・身分だった者の意。 アイドル【上がり】なんですけど			
14	アグネル あぐねる	動詞	ナ行下一段	動詞連用形	
	信直が納得すまい、と考え【あぐね】ているうちに、 多くの国会議員が答えを出し【あぐね】、				
659	アタリ 当たり	接尾辞			
	一人【当たり】十五文ずつ発声していただき 生起確立を文字【当たり】ので平均化したものの				
15	アテ 宛	接尾辞 名あての意。「名宛(人)」の「宛」は除く。 下院議員に立候補し落選した時に娘【宛】に出した 沼さんから私【あて】に解任状が届きました。			
16	アテ 宛	接尾辞 「～に対して」の意。 ひとり【宛】五個			
17	イタス 致す	動詞	サ行五段(文語サ行 四段)		
	先生にお預け【いたし】ます。 応募者全員にプレゼント【いたし】ます！！ 手術が無事成功し、安堵【いたし】ました。				
18	ウエ 上	接尾辞			
	「決して父【上】を煩さぬ」と覚悟を決めていた。 作者の母【上】の「ありがたいありがたい」にも、				
19	エル 得る	動詞 「～することができる」の意。 青山を語る補助線となり【得る】ものなのだ。 コレはあり【得る】注目株！ 政権を担い【得る】政党として国民から認知された	ア行下一段(文語ア行 下二段)	動詞連用形	ウル

- 20 **オエル** **動詞** ア行下一段(文語ハ行 動詞連用形 下二段)
終える
 チョウの図鑑を回し【終え】た
 書き【終え】てからは当分音楽を聴かなかったほどです。
 うまいタイトルだなあと、読み【終え】て納得。
- 21 **オオセル** **動詞** サ行下一段(文語サ 行下二段)
果せる
 「すっかり終える」の意。
 隠し【おおせる】
- 22 **オクレル** **動詞** ラ行下一段(文語ラ行 動詞連用形 下二段)
遅れる
 終電に乗り【遅れ】た。
 わが国が立ち【遅れ】ている分野について
 二塁打は振り【遅れ】だが、
- 23 **オフル** **動詞** ラ行五段(文語ラ行四 動詞連用形 段)
終わる
 部屋の反対側まで歩き【終わる】と
- 24 **カ** **接尾辞**
化
 漢語の1最小単位と結合したものは除く。(特=化, 液=化)
 グローバル【化】・少子高齢【化】などの
 ガリウムのワックス【化】へのきっかけには
 1971年にテレビ【化】され、
- 26 **ガカル** **接尾辞**
 ベージュ【がかつ】たパールだから
 芝居【がかつ】た演出をしたり
- 29 **カタ** **接尾辞**
方
 「仕方」の「方」は除く。
 体育遊びのあり【方】や、
 大好きな海での過ごし【方】なんだけどさ。
 円高になるとの見【方】が大勢だ。
- 30 **ガタ** **接尾辞**
型
 和語・漢語の1最小単位と結合したものは除く。(朝=型, 中=型)
 グリップ【型】にできる
 特に草履【型】のトングサンダルは、
- 31 **ガタ** **接尾辞**
方
 複数を表す。
 医学館の先生【方】に診察していただき、

- あなた【方】
- 32 ガタ
方 接尾辞
おおよそそのぐらいであることを表す。
マーカがないものが三割【方】ですね
- 33 ガタイ
難しい 接尾辞 口語形容詞型(文語 動詞連用形
形容詞型1)
よほど扱い【難い】
手がかからなくて、有り【難い】のですが
何物にも代え【難い】存在だった。
- 34 ガタガタ
方々 接尾辞
見舞い【かたがた】庚申堂を訪れると、
- 35 ガチ
勝ち 接尾辞
結果オーライになり【がち】で
太陽政策に傾き【がち】な韓国政府を
意欲も薄れ【がち】です。
- 36 ガテラ
がてら 接尾辞
紅葉狩り【がてら】楽しめるのが
あいさつ【がてら】のまくらで
- 37 カネル
兼ねる 接尾辞 ナ行下一段(文語ナ行 動詞連用形
下二段)
まことに申し【兼ね】ますが
お待ち【かね】の“ハリポタ”最新ニュースを
悪影響が広がり【かね】ない。
- 39 ガル
がる 接尾辞 ラ行五段(文語ラ行四 形容詞・形状詞接続
段)
助動詞「たがる」の「がる」は除く。
祖母のかわい【がり】ようが尋常でなく
藻を怖【がる】なんて、
写真を飾るのは嫌【がっ】ていたんだが
- 40 カワス
交わす 動詞 サ行五段(文語サ行 動詞連用形
四段)
「互いに～する」の意。
泰安相手に酒を酌み【交わし】ていた。
- 41 カン
間 接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(空=間, 車=間)
サーバ【間】の情報交換に使用される

具体的なデータ【間】の因果関係は
ブランド【間】の価格格差が一段と進む

- 42 ギミ 君 接尾辞
姫【君】
母【君】
- 43 キル 切る 動詞 ラ行五段(文語ラ行四段) 動詞連用形
「すっかり～し終える」の意。
すでに大半を使い【きっ】てしまい、
パワーを使い【切っ】て走る爽快感あり
チケットが売り【切れ】ている場合もあります。
- 44 クサイ 臭い 接尾辞 口語形容詞型(文語形容詞型1)
「～めいた感じがする」という意。望ましくない意を強める用法。「かび臭い」「焦げ臭い」の「くさい」は除く。
青【くさい】ほど未熟な私に
照れ【くさく】て言えなかった「ありがとう」。
米国よりずっと古【くさく】なってしまった。
- 45 クダサル 下さる 動詞 ラ行五段(文語ラ行四段)
ギブミーレターをご覧【下さい】ね。
ご意見、ご感想をお寄せ【下さい】。
- 46 グルミ ぐるみ 接尾辞
身【ぐるみ】剥がされちまうなんて
国家【ぐるみ】の犯罪や脅威から
- 47 クン 君 接尾辞
ワジム【君】たちの力強い協力であった。
Y【君】からのメールでした。
外野手の桑原将太【君】は天然芝について
- 48 ゲ 気 接尾辞
闇夜の怖ろし【げ】な海は
やや寂し【げ】なタイトルであるが、
何【げ】ない一言から偶然始まった。
- 49 ケイ 系 接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(文=系、日=系)
フローラル【系】の香水を使って

懐かし系から超ハイテク【系】トイまで
癒やし【系】、癒やし顔。

50 ゲル
げる

接尾辞 が行下一段

『バカ【げ】た事を』と言われたのだ。

51 ゴ
後

接尾辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。(戦=後, 老=後)

ストレッチ【後】は体がほのかに温まり、
ゲーム【後】の胃腸には負担となり
プレス試写【後】の記者会見では

52 ゴ
御

接尾辞

姉【御】肌の人が凄く多いなっていう

53 コト
事

名詞

ヘコキムシ【こと】ミイデラゴミムシは黄色と黒の模様。
私【こと】

54 ゴト
ごと

接尾辞

「～も一緒に」の意。

そのまま丸【ごと】預託したものであり
滝【ごと】持って帰りたいところだが、
1冊丸【ごと】学校に関係ある

55 ゴト
毎

接尾辞

そのもの一つ一つ、その時その時の意。

国【ごと】に違うということであろう
ナンバー【ごと】の細部の変化は
章【ごと】に文体が変わり、

56 コナス
熟す

動詞

サ行五段(文語サ行
四段) 動詞連用形

「うまく～する」の意。

着【こなし】も上品に。
2人乗りでコンパクトに乗り【こなせる】。
美しく澄んだ高音で歌い【こなし】ている。

57 サ
さ

接尾辞

「なさ」「良さ」の「さ」及びケシ型形容詞に直接する「さ」は除く。

比類のない深【さ】はそこから生まれている。
ステレオ欲し【さ】に応募して、
～なりた【さ】

- 58 サマ様 接尾辞
地域の皆【様】はじめ全ての方々から
それが神【様】の目からの評価だから、真実なのだ。
『志村けんのバカ殿【様】』に腰元役として出演。
- 59 サンさん 接尾辞
皆【さん】すでにご承知のごとく、
島田【さん】の奥さん手製の
お巡り【さん】なのに茶髪で、
- 60 ジ時 接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(戦=時)
コミュニケーション【時】に観察され
- 61 シキ式 接尾辞
形式・方法などの意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(洋=式, 正=式)
最近ではプッシュ【式】の電話機をよくみかけますが、
シルバーのスプレー【式】ペイントで
北部九州で「夜白1【式】」と呼ばれる土器が
- 62 シナしな 接尾辞
帰り【しな】に一撃されて
- 63 ジミル染みる 接尾辞 マ行上一段
子供【じみ】た正義感を感じなくもない
- 64 ジュウ中 接尾辞
部屋【中】何時もちらかっていて
体【中】に生えているトゲで攻撃してくるはりせんぼん。
- 65 ジョウ上 接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(機=上, 車=上)
パープレキシティー【上】は最適化されてることは
- 66 ジョウ状 接尾辞
「～の形・有り様」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(液=状)
粒【状】若しくは粉【状】
今日の当番表の紙を手の中で筒【状】に丸め、
主役は霧【状】にして吸い込むステロイドを使う治療だ。

- 67 スギル 動詞 ガ行上一段(文語ガ行 動詞連用形 上二段)
過ぎる
背景が明る【過ぎ】たりする。
こり【過ぎ】て当時の歌手たちが歌えず、
- 68 ズク 接尾辞
尽く
力【ずく】で戦争して、
- 69 ズクメ 接尾辞
尽くめ
裏の活動をするパリスが黒【ずくめ】で
珍し【ずくめ】の応酬
- 70 スル 動詞 サ行変格(文語サ行 変格)
為る
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(対=する, 信=ずる)
アドバイス【する】役割もあり、
対応関係ははっきり【し】ていない。
来場者の移動手段と【し】て導入される。
- 71 セイ 接尾辞
性
物事の性質・傾向の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(特=性, 急=性)
枝が水平に伸びるもの、枝垂れ【性】のものなど、
ブラックベリーはつる【性】の植物なので、
- 72 ソウ 形状詞
そう
様態の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。
けだる【そう】に行列してゆくところだった。
慢性的な肺の病気の発症には関係がなさ【そう】です。
わかりにくい仕組みだと言え【そう】です。
- 73 ソウ 名詞
そう
伝聞の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。
コラーゲンの量やキメの細かさまで分かる【そう】
「マジシャン」というニックネームで呼ばれている【そう】だが、
四十四年もかかる【そう】です。
- 74 ソコナウ 動詞 ワア行五段(文語ハ行 動詞連用形 四段)
損なう
神になり【損なっ】た男の、
日本株を売り【損なっ】たと話したら、
- 75 ソビレル 動詞 ラ行下一段(文語ラ行 動詞連用形 下二段)
そびれる
きちんと届いたかどうか聞き【そびれ】た。

- 76 ソンズル 動詞 ザ行変格(文語サ行 動詞連用形
損ずる 変格)
駆け落をし【損じ】たるは櫻頃
急いては事を仕【損じる】よ。
- 77 タイ 名詞
対
1【対】1で戦う試合。
神【対】巨
- 78 ダス 動詞 サ行五段(文語サ行 動詞連用形
出す 四段)
「～し始める」という意。
背中を押されるようにして歩き【だす】。
最前列では子供たちが踊り【だし】た
無口な少年スキッパーがスラスラと話し【だし】、
- 79 タチ 接尾辞
達
私【達】は真剣に自分で考えるべきだ。
あなた【達】はバンドを始めた時共同生活していたそうですね。
保護者の方【たち】も親切にしてくれるようになり、
- 80 タマウ 動詞 ワア行五段(文語ハ行 動詞連用形
給う 四段)
篤道公、喜バレ【給フ】。
天が許し【給う】
- 81 ダラケ 接尾辞
だらけ
埃【だらけ】の棚隅のいびつな土甕に
岩【だらけ】のけわしい土地は
タバコのヤニ【だらけ】の、
- 83 チャン 接尾辞
ちゃん
ワン【ちゃん】も寒いと思いますよ。
私もお母【ちゃん】って、呼んでもいい？
おじい【ちゃん】のモリゾーと、
- 84 チュウ 接尾辞
中
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(空=中)
高層階からの夜景を仕事【中】に観ると、
休み【中】

- 85 ツイデ 接尾辞
ついで
開き直り【ついで】におデコにこんなマークを入れたら？
くたびれ【ついで】
- 87 ツキ 接尾辞
付き
デザート、コーヒー【付き】で1500円
材料費込み、おやつ【付き】。
- 86 ツクス 動詞 サ行五段(文語サ行 動詞連用形
尽くす 四段)
「すっかり～する」という意。
そこに立ち【尽くし】てしまいました。
野外会場を埋め【尽くし】た数千人のファンに
新しいものは出【尽くし】てしまった
- 88 ツケル 動詞 カ行下一段(文語カ行 動詞連用形
付ける 下二段)
習慣の意。
行き【つけ】の雀荘で仕入れた情報を
- 89 ツコ 接尾辞
っこ
「～すること」の意。
つかまり【っこ】ないから。
失礼はいい【っこ】なし！
GHQ（連合軍総司令部）がいる間は勝て【っこ】ない。
- 90 ツコ 接尾辞
っこ
「～比べ」「互いに～する」という意。
お馬のかけ【っこ】
- 92 ツヅク 動詞 カ行五段(文語カ行四 動詞連用形
続く 段)
夜が明けるまで降り【続き】そうな勢いだ。
- 93 ツヅケル 動詞 カ行下一段(文語カ行 動詞連用形
続ける 下二段)
限界になるまで黙々と働き【続ける】ので、
信念を持ち【続け】た。
同じように給料を払い【続け】ていれば、
- 94 ツライ 接尾辞 口語形容詞型(文語
辛い 形容詞型1)
人間にはわかり【づらい】ですが、
元の位置に戻り【づらく】なってしまうので
意見聴取を進めるほど、結論が出し【づらく】なる

- 95 テキ 接尾辞
 漢語の1最小単位と結合したものは除く。(人=的, 端=的)
 個々のゲリラ【的】な周旋活動になった。
- 96 テキ 接尾辞
 たしかにスケジュール【的】にはすごい過酷で、
- 97 デキル 動詞 力行上一段
 出来る
 売店や茶屋があるのでのんびり【できる】。
 今晚、シングルを一部屋お願い【でき】ますか。
 あまり票読み【できる】人っていないと思うのね。
- 98 トウ 接尾辞
 等
 テレビ【等】でも宣伝され、
 各紙のインタビュー【等】に応じている。
 世界的なイベント【等】で極少量の農産物輸出はあったものの、
- 99 ドウシ 接尾辞
 同士
 妻【同士】が同じ英会話学校に通っていて
 大人【同士】の対立軸ではなく、
- 100 トオス 接尾辞 サ行五段(文語サ行 動詞連用形 四段)
 通す
 彼らは一晩中歩き【通し】だった。
 たくさんあって読み【通す】のが大変でした。
 ライブをやり【通し】た彼らは、
- 102 ドノ 接尾辞
 殿
 昨日杉田【殿】の孫に施した種痘は、
 むこ【殿】
- 103 トモ 接尾辞
 共
 全部の意。
 二人【とも】宵越しの金は持たない主義で、
 両作【とも】指示代名詞やあいまいな言語を多用する。
- 104 トモ 接尾辞
 共
 それを含めての意。
 送料【とも】
 住所・氏名【とも】

- 105 ドモ 共 接尾辞
ガキ【ども】を締め上げて
- 106 ドモ 共 接尾辞
それを踏まえて私【ども】でも
- 107 ナイ 内 接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(室=内, 社=内)
タワー下のビル【内】には
場外からリング【内】に入るときの
- 108 ナガラ 乍ら 接尾辞
市長に涙【ながら】に訴えにいき
昔【ながら】の民家を改造した
- 109 ナサル 為さる 動詞 上行五段(文語上り行四段)
おなかいっぱい食べ【なさい】といいますね。
言えなかった「ごめん【なさい】」。
- 110 ナミ 並み 接尾辞
その類と同じ、又は同じ程度であることを表す。
人に対して思いやりの心だけは人【並み】以上に持っていたと思うけれど、
一般的な腕時計【並み】の薄さも実現している。
日本やアメリカ【並み】のビデオ文化が訪れたかという感がある。
- 111 ナリ 形 接尾辞
そのもの相応である様の意。
低い価格設定には低い【なり】の理由があります。
それ【なり】の役目を与えて投げさせたいと思うよ。
不調【なり】に試合をつくり、
- 112 ナリ 形 接尾辞
「～するまま」「～するに従う様」の意。
やっぱりアメリカの言い【なり】！？
- 113 ナレル 慣れる 動詞 上り行一段(文語上り行 動詞連用形 下二段)
風景の一部として見ているから見【慣れ】てしまった。
カラーマスカラをつけ【慣れ】ていない人もつかいやすい
通い【慣れ】た青山一帯の江戸時代の風景が、

- 114 ニクイ 接尾辞 口語形容詞型(文語形容詞型1)
醜惡の意の「醜い」は除く。
ライフスタイルの改善だけでは効果は出【にくい】もの。
ハイテク株だけが物色される相場は考え【にくい】。
美化されると、問題が直視し【にくく】なのです
- 115 ヌク 動詞 力行五段(文語力行四 動詞連用形段)
抜く 「終わりまでする」という意。
「笑顔で耐え【抜く】しかないな」
熟練した技と、磨き【抜か】れたセンスをもって作り出される料理
日本全体の利益はどこにあるかを考え【抜か】なければ、
- 116 ハジメル 動詞 マ行下一段(文語マ行 動詞連用形下二段)
始める
九郎は小社の裏手を抜ける参道を拝殿に向かって歩き【始め】た。
徳利のままグイグイ飲み【はじめ】てしまったんです。
好調だったブランド品の売れ行きに陰りが見え【はじめ】たのか。
- 117 ハタス 動詞 サ行五段(文語サ行 動詞連用形四段)
果たす 「すっかり～し終える」の意。
使ひ【果し】てしまはなければならぬ。
- 118 ハテル 動詞 タ行下一段(文語タ行 動詞連用形下二段)
果てる 「すっかり～する」「～し終わる」という意。
形骸化した官僚主義的機関と成り【果て】ており、
疲れ【果て】て眠り込んだ矢先のことだった。
地域一帯が荒れ【果てる】という、
- 119 ハナシ 接尾辞 ツバナシ
放し
腰板障子戸を開け【っ放し】にしており、
試合中はずっと走り【っぱなし】で疲れましたが、
12時間預け【放し】の親、
- 120 バム 接尾辞 マ行五段(文語マ行四段)
ばむ
地に積もる黄【ばむ】孔あく病葉の量
日向は汗【ばむ】程の気候。
- 121 パン 接尾辞
版 漢語の1最小単位と結合したものは除く。(新=版)
ロシア語【版】の表紙には、
オリジナルの字幕【版】と

- 122 フウ 風 接尾辞
様子の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(和=風, 古=風)
スタンダード仕立て【風】の樹形にすることができます。
もう一方は寅さん【風】のテキ屋スタイル。
- 123 プリ 振り 接尾辞
それだけの時間が過ぎたという意を表す。
久し【ぶり】の出勤に自分も気分が高揚している。
プロ野球では今年、18年【ぶり】に阪神タイガースがリーグ優勝し、
- 124 プリ 振り 接尾辞
様子・状態の意。
その若者は、急にぞんざいな口【ぶり】になった。
これで女【っぶり】が上がります！
依田の打ち【ぶり】に感心しきりだった。
- 125 ブル 振る 接尾辞 ラ行五段(文語ラ行四段)
「そのように振る舞う」という意。
「そんな、もったい【ぶら】ないで、頼みますよ」
悪【ぶっ】てはいるが、実は心がやさしく、おひとよし。
- 126 ブン 分 接尾辞
3週間【分】の発芽玄米と、食事記録用紙を渡して、
それが連中の取り【分】で、
その年俸【分】を他の選手の増額に振り向けられる。
- 127 ポイ ぼい 接尾辞 口語形容詞型 名詞 ツポイ
形容詞語幹に接続する「ぼい」は除く。「いがらっぼい」の「ぼい」は除く。
タイトスカートで大人【っぼい】着こなしに
空気が湿【っぼく】ムツとしている。
いたずら【っぼく】笑った。
- 128 ポッチ ぼっち 接尾辞 ツポッチ
これ【っぼっち】も思っていなかった。
- 129 マエ 前 名詞
テスト【前】の忙しい時間に
- 130 マクル 捲る 動詞 ラ行五段(文語ラ行四段 動詞連用形)
午後一杯を費やして匿名の発言を読み【まくっ】た。
2年間ほど本を読み【まくり】知識を得たつもりですが、
DJブースに近い参加者ほど、楽しそうに踊り【まくる】。

- 131 マチガウ 動詞 ワア行五段(文語ハ行 動詞連用形 四段)
間違う
そのときは、自分の数え【間違い】だと思いそのまま駅を閉めた。
トップボールと見【間違う】ほどの低い弾道で飛び出す。
読み【間違い】を笑ってすませることの多い
- 132 マチガエル 動詞 ア行下一段(文語ハ行 動詞連用形 下二段)
間違える
「スーパースター」と呼んでいるので言い【間違え】ないこと！
「統制化」と聞き【間違え】やすく、批判も予想される。
- 133 マワリ 接尾辞
周り
「おなか【まわり】がスッキリした」
門【まわり】に1本、ポーチわきに1本、
- 134 ミタイ 形状詞
みたい
海水で腹を膨らませたクラゲ【みたい】だと清は思った。
必ずそういう状態になる【みたい】ですけど。
そう言う、うねり【みたい】なものは地方にも出てきている。
- 135 ムキ 接尾辞
向き
辛口テーストが大人【向き】
- 136 ムケ 接尾辞
向け
この髪型は、丸顔の人【向け】です。
ジーン・バトラーが子供【向け】のワークショップを開催。
夏【向け】に、前回より怖い作品を目指すという。
- 137 メ 接尾辞
奴 ののしる語。
ああ恐ろしい女子【奴】！
- 138 メ 接尾辞
奴 謙その意。
私【め】はこの度お願い申し上げました
- 139 メ 接尾辞
目 順序を表す。
兄弟のうち二人【目】の中学進学である。
4回【目】の対決となる今回は、
1日【目】は、首席指揮者ロジャー・ノリントン率いる、

- 143 メク
めく 接尾辞 力行五段(文語力行四段)
擬態語的なものの「めく」は除く。(きら=めく、ざわ=めく)
謎【めかし】ていった。
とき【めく】

- 144 ヤガル
やがる 接尾辞 ラ行五段 動詞連用形
馬鹿にし【やがっ】て!
なにを言い【やがる】。

- 145 ヤスイ
易い 接尾辞 口語形容詞型(文語形容詞型1) 動詞連用形
住み【やすい】住環境を提案する
かわいくって履き【やすい】パプーシュは
国民にわかり【やすい】図式になり、

- 146 ヨイ
良い 形容詞 口語形容詞型(文語形容詞型1) 動詞連用形 イイ
これからも住み【良い】社会に少しでも近付くよう、

- 147 ヨウ
様 形状詞
助動詞「ようだ」の語幹に当たるもの。
解釈がやっと思直される【よう】になり、
ミリアリアの【よう】な女の子が
日本のラグビーは日本経済と同じ【よう】に、

- 148 ヨウ
様 接尾辞
方法の意。
やり【よう】によってはすごいオイシイ役なんですよ。
天性の能力としか言い【よう】がありません。

- 149 ヨウ
用 接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(学=用)
賄い【用】にと、鱈の自分の取り分まで渡してくれた
ひとり【用】七輪とびの魚を焼く

- 150 ラ
等 接尾辞
複数を表す。
これ【ら】が改善されると、
彼【ら】に希望を託していく。
イラクの子ども【ら】の惨状を理解する

- 151 ラ
等 接尾辞
事物をおおよそに指す。
余はなん【ら】の肩書を必要としない。
そこ【ら】のショップとはひと味違う、

- 152 ラシイ
らしい
接尾辞 口語形容詞型(文語形容詞型2)
助動詞「らしい」は除く。
わざと【らしい】くらいにお金を掛けた作り
“夏【らしい】”体験もしているようで…。
女性【らしい】印象を作り上げる。
- 153 リュウ
流
接尾辞
流派の意。
ニイチェ【流】の「健康への意志」を呼びました。
ピンキー【流】「コマダム」スタイルにちゅーもく！
- 154 ルイ
類
接尾辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(人=類)
貝塚中の貝【類】の組成が、
しめじ【類】
卵や麦【類】をはじめ、
- 155 ワスレル
忘れる
動詞 ラ行下一段(文語ラ行 動詞連用形下二段)
お誕生日やご住所を書き【忘れる】方が、
しかも財布を置き【忘れ】、
- 156 ワタル
渡る
動詞 ラ行五段(文語ラ行四 動詞連用形段)
「辺り一面に～する」という意。
眼鏡から覗く双眼は澄み【渡っ】ていた。
心に染み【渡る】ような洗練された、
企業までお金が行き【渡ら】ない。
- 157 ワタル
渡る
動詞 ラ行五段(文語ラ行四 動詞連用形段)
「徹底的に～する」という意。
さえ【わたる】

全体で1最小単位とするもの

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
594	アエテ 敢えて	副詞	テ型		
	【敢えて】火の中の栗を拾わん 【あえて】女の子にオススメしたいアイテムもいっぱい。 【あえて】指摘する次第である。				
625	アクマデ 飽くまで	副詞	その他		

これは【あくまで】食べ物です。
 これは【あくまで】も姓名判断のひとつの結果です。
 米国は今のところ【あくまで】米国主導の構えを崩していない。

- 626 アッケラカン 副詞 その他
 あっけらかん

啓太は【あっけらかん】としていた。

- 627 アノヨ 名詞 その他
 彼の世

日向ぼこ【あの世】さみしきかも知れぬ

- 595 アラタメテ 副詞 テ型
 改めて

診療録の記載のあり方全般について【改めて】検討されたい。
 「ジャズ」の壮大な歴史をあらためて辿りなおしていこう。
 絵本の素晴らしさを【改めて】感じています。

- 628 アルイハ 接続詞 その他
 或いは

評価【あるいは】効用という意味での価値は純粋に主観的なもので、
 瓶詰めして十数年【あるいは】20年を経たオールド・ボトル
 定年退職した、【あるいは】リストラされた日本人技術者

- 629 アワヨクバ 副詞 その他
 あわよくば

多分いい人なんだけど【あわよくば】儲けてやろうみたいな考え

- 577 イカニ 副詞 ニ型
 如何に

現場の光を【いかに】有効に使えるかがポイントだ。
 【いかに】もぬった感がなくてつかいやすい
 【いかに】技術者が独りよがり車をつくっていたかを痛感した。

- 596 イタツテ 副詞 テ型
 至って

形は【いたって】シンプルですから、
 【いたって】自由で気楽、あたたかな光景
 【いたって】単純な料理だが、それだけに、ごまかせない。

- 630 イタルトコロ 名詞 その他
 至る所

あるタイプの指揮者が【いたるところ】で活躍していた。
 植物が【いたるところ】にたれ下がっていた。
 市内の【いたるところ】で、石油をくみ上げるポンプが動く。

- 631 イッショクタ 名詞 その他
一緒くた

語的情報というのを区別しないでもう【一緒くた】にしてですね

- 632 イワバ 副詞 その他
言わば

【いわば】“贅沢”に狂った女の典型といえる
東大や京大といった【いわば】官学が中心です。
五分の星で迎えた【いわば】天王山の1局。

- 633 イワンヤ 副詞 その他
況んや

大きくなっていった訳です【いわんや】ロマン派ベルリオーズ

- 634 ウトウト 副詞 その他
うとうと

いつの間にか【うとうと】と眠ってしまったようだ。

- 635 エテシテ 副詞 その他
得てして

クライアントは【得てして】2つの予算を持っている。

- 578 オオイニ 副詞 二型
大いに

【大いに】時間の節約になることを教えてやろうか。
舞台人としても花開くか、【大いに】注目されるどころ。
ラグビー人気を【大いに】高める効果があった。

- 597 オシテ 副詞 テ型
押して

右肩の負傷を【おして】右翼を守っていた浜中。

- 598 オツテ 副詞 テ型
追って

- 636 オモナ 連体詞 その他
主な

中性脂肪値やコレステロール値が下がっていることが【主な】要因。
キノボリカンガルーの【主な】食べ物は、木の葉や果実である。
米景気を下降させる【主な】リスクと考えている。

- 579 オモニ 副詞 二型
主に

ヒカゲチョウの仲間は【主に】後翅に顕著な眼状斑を持っています。

梅干しの酸っぱさは【主に】クエン酸によるもの。

12世紀末に【主に】砂岩で造られた遺跡は、

- 599 **ガイシテ** 副詞 テ型
 概して

種類による差はあるが、【概して】年に2〜3回発生し、
【概して】頭が硬直していて、仮説を立てることをいやがる」

- 600 **カエツテ** 副詞 テ型
 却って

そのために【却って】他人を思いやり慎むようになる。
折角何かを贈っても、【かえって】迷惑がられたり、
先端研究から、【かえって】遅れ引き離される事態を生じている。

- 601 **カネテ** 副詞 テ型
 予て

私が【かねてから】待ち望んでいたものであり、
【かねて】、古希が近づいたら、過去を回顧するとともに

- 602 **カロウジテ** 副詞 テ型
 辛うじて

彼女は【かろうじて】生き残った。
【かろうじて】繋がっていた絆を一瞬のうちに叩き切った。
【辛うじて】生還し得た君なる人も、齢たけて逝った、と。

- 603 **キワメテ** 副詞 テ型
 極めて

営業継続に【極めて】甚大な悪影響を及ぼすことが少なくありません。
こうした銘柄は【きわめて】割高であり、
【極めて】健全な人間性と深い思索の足跡だ。

- 604 **ケツシテ** 副詞 テ型
 決して

あれは、【けっして】日本の庶民のものとはおもわれません。
コンテストでは【決して】見ることができない。
水先料金単価は、諸外国に比べ【決して】高くないが、

- 580 **ゲニ** 副詞 ニ型
 実に

大晦日 ミソー文字でミソをつけ 【げに】恐ろしきかなゴマミソズイ

- 581 **ゲンニ** 副詞 ニ型
 現に

【現に】啓太が、信吉とサハシさんの行動を見ていた。
【現に】船籍国が現に必要な規制を及ぼさない場合
【現に】、日本が参加する協議は拒否する、と表明している。

- 582 コトニ 副詞 二型
殊に
【殊に】パリでは、街頭のドル買ひにだまされ、
ローマやマドリッドにおいて、【殊に】鮮やかであった。
- 637 コノカタ 名詞 その他
此の方
瓜人先生羽化【このかた】の大霞
- 638 コノカタ 代名詞 その他
此の方
今回のベスト5を制したのは…【この方】でしたー！
- 639 コノゴロ 名詞 その他
此の頃
ヤンさんは【このごろ】学校に来ませんね。
はっきりしないお天気に、いまいちノリノリになれない今日【この頃】。
「【このごろ】不況のせいか、カットだけでシャンプーいいですっていう
- 640 コノハウ 代名詞 その他
此の方
- 641 コノヨ 名詞 その他
此の世
その上で【この世】の地獄を見せてやるのだ。
【この世】では、ちょっとしたコトバの積み重ねが人生を大きく変えていく。
26歳で【この世】を去った童謡詩人
- 642 サシタル 連体詞 その他
さしたる
【さしたる】用件もない
- 605 サシテ 副詞 テ型
サシテ
夢がかなったのに、【さして】浮かれるでもなく、じつに淡々たるもの。
対主要国実効為替相場の水準は90年代初頭と【さして】変らない。
- 606 サダメテ 副詞 テ型
定めて
【定めて】懸命に努力なさって
- 643 サラナル 連体詞 その他
更なる
今後の課題であり、【さらなる】努力工夫が望まれる。

【さらなる】使いやすさを実現しています。
三月十八日の夜、【さらなる】悲劇が起こった。

583 サラニ 副詞 ニ型
更に

【さらに】成長しようというエネルギーを
皮肉なことに【更に】楽しみが増えたのである。
【さらに】警察庁は、新潟県警を中心に港などで警備活動にあたる。

607 シイテ 副詞 テ型
強いて

【強いて】考えれば書庫にしまっている全集物など、
だから、【しいて】自分を悪く言う必要はない。
【しいて】職業に関係があると思うのは、

644 スツタモンダ 副詞 その他 スツタカモン
摺った揉んだ

これをどうするかってことで【すったかもんだ】した訳ですけども

584 スデニ 副詞 ニ型
既に

自動車を破壊されたとき、【すでに】すべての味方を失ったのである。
現段階で【既に】、頭の中はハムレットでいっぱいなんですね。
【すでに】戦争のむごたらしい実相は、日々次々とあらわになっている。

608 スベテ 副詞 テ型
全て

チェロの調べととけ合い、【すべて】がある意味でひとつになっていた。
学習に集中する力が身につく、【全て】の教科で学力が伸びたのです。
会社という会社が【すべて】朝始まり、というのは、何か不公平な気がする。

585 セツニ 副詞 ニ型
切に

再生と再建に取り組んでいただくことを【切に】願う

609 セメテ 副詞 テ型

それなら【せめて】腹いせに贅沢三昧を…というところだったのか。
【せめて】乗車券だけでもねえ
【せめて】学ぶ楽しさを教えたい。

610 ソウジテ 副詞 テ型
総じて

自己の行動を【総じて】いかなる根拠からジャスティファイしようとしたか
【総じて】健康な部類と自負していますが、

大手銀行株が【総じて】反発したことで市場のムードが好転、

645 ソノホウ 代名詞 その他
其の方

646 タイシタ 連体詞 その他
大した

【たいした】泳ぎ手だとかじまんじゃなかったのかい？
こまかな表現は、【大した】問題ではない。
それがほんとうなら、【たいした】ものだ。

611 タイシテ 副詞 テ型
大して

その情報は【たいして】重要ではないんだ、
すりおろすのに、【大して】時間はかかりません。

612 タツテ 副詞 テ型
達て

幼なじみの市長の【たつて】の要請で市の“外事顧問”に。

647 タトエバ 副詞 その他
例えば

【たとえば】ハネムーンの語源を考えよう。
【たとえば】地球を直径1mのボールと考えた場合、
【例えば】、演奏する時は「体の力を抜き、自然体で立つ」

613 ダンジテ 副詞 テ型
断じて

【断じて】怯まぬ根性を発揮した。
「社民党が消えてなくなるわけには【断じて】いかない」

648 タンナル 連体詞 その他
単なる

そう自分と呼ぶのは【単なる】愛称かと思っていた。
僕なんて【単なる】音楽好きのガキだったわけだし。
名匠による武俠映画は、【単なる】チャンバラ映画ではない。

586 タンニ 副詞 ニ型
単に

【単に】単にダンディだというだけで近衛連隊へと登用された
【単に】「手ブレ補正バンザイ！」と唱える気はまったくない。
【単に】芸術的に味わうだけでは、その力を受け止められない。

614 ツイデ 副詞 テ型
次いで

セキュリティ関連技術に【次いで】毎回のように出題される。
競合メーカーが相【次いで】撤退していく中で、(maga46-4)
これは米国に【次いで】2番目の規模である。

587 ツイニ
遂に

副詞 二型

その思いが【ついに】叶うことはなかった。
コトブキヤから【遂に】フィギュアで登場する。
【ついに】国債発行額が36兆5900億円と過去最高になった。

649 トアル
とある

連体詞 その他

私は、長男を育てるに当たって、【とある】実験をした。
【とある】ロードスター耐久レースの前の1コマ。

588 トクニ
特に

副詞 二型

あなたの説明に【特に】付け足すことはありません。
作家や職人さんによる器など、食まわりのものが【とくに】充実している。
【特に】、44道府県議選のうち、35が戦後最低だった

589 トミニ
頓に

副詞 二型

楽しいような町作りに最近【とみに】またなってきましたでもう一つ

650 トリアエズ
取り敢えず

副詞 その他

【とりあえず】処分保留のままの釈放です。
【取り敢えず】俺がすごい簡単なフレーズを持ってきて、
分煙の措置を取っているのであれば【とりあえず】問題はない

615 ナベテ
並べて

副詞 テ型

君とわれと二つの帆となり野に立てば【なべて】椿円にめぐる夕風
言ひ訳の【なべて】多弁や水中花

616 ハジメテ
初めて

副詞 テ型

こんなおいしい肉は生まれて【初めて】食べました。
【初めて】ビートルズが来るというから、大興奮で大暴走。
父に出した1通をのぞき、公表されたのは【初めて】。

651 ハジメマシテ
初めまして

感動詞 その他

こんにちは、【初めまして】。

- 617 ハタシテ 副詞 テ型
果たして

擬態している場合は【果たして】それを隠蔽的と言ってよいかどうか。
【果たして】貴公子スターの知られざる素顔とは！？
【果たして】彼らの生活は劇的に変化したのか。

- 618 ハレテ 副詞 テ型
晴れて

松井が【晴れて】合格し、野球部の練習に初参加した日です。
バート・フルーエンドリッチ監督と【晴れて】結婚式を挙げたのだが、

- 619 ヒイテハ 副詞 テ型
延いては

国会、内閣という政治部門、【ひいて】は国民の判断に委ね、
最高水準の大学をつくり、【ひいて】は日本経済も活性化させようということですね。
北朝鮮の核開発阻止、【ひいて】は東アジアの安定のために、

- 590 ヒトエニ 副詞 ニ型
偏に

その目的は【ひとえに】基本的人権を保障するための装置を
【ひとえに】瀬在総長のお力によるところが大きい

- 652 ヒョンナ 連体詞 その他
ひょんな

その前に【ひょんな】きっかけで野党の知るところとなり、

- 620 ヒルガエツテ 副詞 テ型
翻って

【ひるがえって】日本の現状を見るに

- 621 ベッシテ 副詞 テ型
別して

【別して】異議を唱えることもない

- 653 ホンノ 連体詞 その他
本の

フォルカークとエジンバラは【ほんの】三十分の距離なのだ。
最新アイテムの中から、【ほんの】少しだけご紹介、
【ほんの】人生のひとコマを切り取った言葉がつづられているのに、

- 622 マゲテ 副詞 テ型
枉げて

【まげて】お許してください

591 マサニ 副詞 ニ型
正に

それはそれらが【正に】異なった種類の事物だからである。
限定グッズをプレゼント、【まさに】いたれりつくせりです。
追い打ちをかけるのが、【まさに】魅力的な色彩と構図の絵です。

623 マシテ 副詞 テ型
況して

【まして】や子どもの本のイラストレーションとなると、さらに軽視され、
【まして】、3条の2において挙げられている犯罪が、とくに重大な犯罪のみであることを考えれば
【まして】や政権を手放してでも政界再編するという行動を起こす人はどれだけいるだろうか。

592 ユウニ 副詞 ニ型
優に

寒暖計を読むまでもなく、【ゆうに】四十五度は越えているにちがいはない。

654 ロクナ 連体詞 その他
碌な

「サイフ持つと【ろくな】ことはない」

593 ロクニ 副詞 ニ型
陸に

ジョゼフィーヌのほうは【ろくに】読みもしないで
【ろくに】準備もしないで、ステージに立たなきゃいけなくなったし、

655 ワガイ 名詞 その他
我が意

【我が意】をえたりという面持ちでこう語った。

656 ワガハイ 代名詞 その他
我が輩

657 ワガママ 形状詞 その他
我俣

人間として不遜で【わがまま】だったかを、
あまり【わがまま】なことも言えなかった。
ひよわで【わがまま】な現代っ子だ。

658 ワガヤ 名詞 その他
我が家

この問題を抱える【我が家】は現代の最前線だ
【我が家】では、賞与の半額以上を住宅ローンにあてています。

624 ワケテ
分けて

副詞

テ型

【分けて】も青少年がその能力を十分に発揮し

参 考 文 献

- 国立国語研究所(1962)『国立国語研究所報告21 現代雑誌九十種の用語用字(1)』秀英出版.
- 国立国語研究所(1987)『国立国語研究所報告89 雑誌用語の変遷』秀英出版.
- 国立国語研究所(1995)『国立国語研究所報告112 テレビ放送の語彙調査Ⅰ』秀英出版.
- 国立国語研究所(2006)『国立国語研究所報告124 日本語話し言葉コーパスの構築法』.
- 中野洋(1998)「言語の統計」『岩波講座言語の科学 9 言語情報処理』149-199, 岩波書店.
- 林大監修(1982)『角川小辞典 9 図説日本語』角川書店.
- 前川喜久雄(2006)「特定領域研究「日本語コーパス」のめざすもの」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度全体会議予稿集』, 1-8.
- 前田富祺(1985)『国語語彙史研究』明治書院.
- 山崎誠(2007)「「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の基本設計について」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度公開ワークショップ(研究成果報告会)予稿集』.

研究開発部門言語資源グループ（形態論情報付与担当）

研究員	小椋秀樹，小磯花絵，小木曾智信
特別奨励研究員	富士池優美
研究補佐員	相馬さつき，渡部涼子，服部龍太郎
派遣社員	中村壮範（（株）インテリジェンス）
非常勤研究員	伝康晴

国立国語研究所内部報告書(LR-CCG-06-01)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

短単位規程集 Version 1.2

平成19年3月22日

執筆者 小椋秀樹

発行者 独立行政法人国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10番地の2

電話 042 (540) 4300 (代表)

©2007 独立行政法人国立国語研究所

(平18-10)



国立国語研究所

